第６回　県立都市公園のあり方検討会　明石公園部会　議事録

【開催概要】

日時	令和4年10月6日（木）　10:00～17:00
場所	明石市役所議会棟2階　大会議室
議事次第	1　開会 2　議事 （1）インクルーシブ遊具の整備 （2）子どもの村の遊具更新 （3）公園利用者へのヒアリング ・自然環境保全 （4）その他 3　閉会
会議資料	出席者名簿 配席図 （資料1）インクルーシブ遊具の整備 （資料2）子どもの村の遊具更新 （資料3）意見発表者一覧 （参考資料）枯木位置図等

【出席者】

(1) 委員

分野	氏名	所属・役職	備考
有識者	上町　あずさ	武庫川女子大学　教授	欠席
	髙田　知紀	兵庫県立大学　准教授	部会長
	嶽山　洋志	兵庫県立大学大学院　准教授	副部会長
	村上　裕道	京都橘大学　教授	欠席
利用者	岡田　十一	ボーイスカウト明石第2団　委員長	
	笠間　龍夫	（一財）兵庫県高等学校野球連盟　事務局長	
	樫原　一法	（一社）明石観光協会　専務理事兼事務局長	
	兼光　たか子	明石公園の自然に親しむ会　代表	
	小林　禧樹	明石公園の自然を次世代につなぐ会　代表	
行政	泉　房穂	明石市長	
	中務　裕文	加古川市建設部長	

(2) 事務局

氏名	所属・役職	備考
西谷　一盛	まちづくり部長	
岡　誠	まちづくり部次長	
北村　智顕	まちづくり部参事兼公園緑地課長	
小山　達也	まちづくり部公園緑地課　副課長兼企画管理班長	
平田　昌義	まちづくり部公園緑地課　副課長兼整備班長	
大喜多　弘昌	まちづくり部公園緑地課　特定プロジェクト班長	
上田　英則	東播磨県民局　加古川土木事務所長	
宮本　健一郎	東播磨県民局加古川土木事務所　明石街づくり対策室長	
竹川　英文	東播磨県民局加古川土木事務所　明石街づくり対策室 明石事業第2課長	
加納　秀起	東播磨県民局加古川土木事務所　管理第２課　技術専門員	

【議事】

１　開会

〇事務局　小山

それでは、定刻となりましたので、第６回県立都市公園のあり方検討会のほうを始めさせていただきたいと思います。

本日は、大変お忙しい中、お集りいただきまして、ありがとうございます。

進行は、これまでどおり、公園緑地課、小山のほうで進めさせていただきます。どうぞよろしくお願いをいたします。

座って進めさせていただきます。

本日の会議も、公開での開催とさせていただきます。

まず、傍聴されている方にお願いがございます。

お配りをさせていただいております注意事項に御留意いただき、議事を円滑に進行できるよう御協力のほうをお願いいたします。

特に、室内は、飲み物は摂取可能でございますが、食事は不可でございますので、御留意をお願いいたします。

続きまして、発表者の皆さん方へのお願いでございます。

会場の出入りは御自由ですが、休憩時間中にお願いをいたします。

また、円滑な進行のために、発言時間につきましては、御留意いただきたいと思います。いつもどおり、タイムキーパー、右手にございますけれども、右手を見てください。正面奥にですね、おりますけれども、これが合図をさせていただきますので、よろしく御協力をお願いいたします。

最後に、記者の皆様方にお願いがございます。

御希望により、会議終了後に委員全員による記者会見がございますので、御参加をお願いをいたします。

それでは、本日の資料をですね、確認させていただきたいと思います。

［省略：配付資料の確認］

続きまして、本日の出席者の御紹介でございます。

本日御出席の委員の皆様については、先ほどお示ししました出席者名簿、配席図を御参照いただければというふうに思います。

定足数でございます。当委員会の定足数は、要綱第５条第３項により、オンライン参加を含めて、委員の過半数となってございます。本日は、委員定数11名に対して、出席者９名でございます。

ちなみに、笠間委員におかれましてはですね、ちょっと、午前中だけの御出席ということで、午後、抜けられますけれども、御了承いただきたいと思います。

いずれにいたしましても、定足数を満たしておりまして、会議は成立していることを確認をさせていただきたいと思います。

さて、本日の会議の概要でございますけれども、本日は、大きく３つの内容について議論を進めていただきたいというふうに考えております。

［省略：議事の説明］

２　議事

〇事務局　小山

それでは、議事につきましてはですね、要綱第５条第２項によりまして、部会長が議長に当たるというふうになってございます。これ以降の議事進行は高田部会長のほうにお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

〇髙田知紀部会長

髙田です。おはようございます。よろしくお願いします。

〇出席者　各位

おはようございます。

〇髙田知紀部会長

本日は、議事次第を見ていただいたら分かるように、まず、インクルーシブ遊具の整備と、子どもの村の遊具更新について、通常の委員会、検討会と同じような流れで意見交換できたらというふうに思います。

それが終わってからですね、公園利用者へのヒアリングとありますけれども、単に一方的に聞くだけでなくてですね、ここにいる委員と、今日来ていただいた皆さんとですね、ちょっとこう対話をしながら、明石公園で大切にしないといけないことって何なのかということを考えていく、一緒に考えていく、そういう対話のプロセスだというふうに捉えていただいたらと思いますので、その点、いい議論ができるように私も努めますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（１）インクルーシブ遊具の整備

〇髙田知紀部会長

では、前回、現地視察をしてですね、で、前々回、インクルーシブな明石公園のあり方ということについて議論してですね、かなりこう、明石公園のインクルーシブなあり方というものについて、多様な意見が出てきたというふうに思っています。

その議論を踏まえてですね、事務局から、現時点で取りまとめている内容について御説明いただきたいと思います。

では、資料１ですね、インクルーシブ遊具の整備について説明をお願いいたします。

○事務局　北村

［省略：資料１の説明］

○髙田知紀部会長

では、ただいまの事務局の御説明について、御意見、御質問などがございましたら。

ポイントは、これまでの、１回目の施設のヒアリングでですね、当初、昨年度は、子どもの村でインクルーシブ遊具の整備というか、更新を考えていたけども、そこだけじゃなくて、明石公園の中にいろんな選択肢があることが大事なんじゃないかという御意見がありました。

その中で、例えばこども広場であったり仲よし広場であったり図書館跡地というようなところは、駅から近くてアクセス性がいいので、そういった場にもインクルーシブな空間をつくったらいいんじゃないかという提案があった中で、いろいろ条件を検討してですね、今回、こども広場、前回、現地調査、現地視察へ行ったときにもですね、あそこは、インクルーシブな場をつくるのにいい場所だということを現地でも確認したということもありますので、今後、こども広場でインクルーシブ遊具の整備等の、あの場でのインクルーシブな空間をつくるということを進めるという、そういう事務局からの御説明だったかと思います。

何か御質問とか御意見がここでございましたら。

じゃ、泉委員、お願いします。

○泉房穂委員

市長の泉です。

まず、お礼申し上げます。非常にいい案だと思います。大賛成です。

１点だけ、文化庁との協議となりますけれども、すいません、私も市長をしておりまして、いろんなテーマで国と掛け合いますけど、最初駄目でも、ちゃんと話をすると、その後オッケーになることも大変多いと思いますので、文化庁との協議、頑張っていただいて、必要であれば私も国のほうに御一緒することも含めて、しっかりといいものをつくりたいと思います。共に頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。

○髙田知紀部会長

泉委員、ありがとうございます。

私からもお願いで、文化庁との協議は、ここは県立の公園だけれども、明石の大事な、明石駅前の大事な場所でもあるので、ぜひ、泉委員も、県と一緒に、こういう、いい場がつくれるように、文化庁とステークホルダーとの協議は、一緒にぜひ力を合わせてやっていただきたいなというふうにお願いします。事務局にもそれはちょっとお願いしておきます。

ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

じゃ、ちょっと私も１点だけ。

今回、インクルーシブ遊具の整備の検討を始めるということで言っていただいたんですけれども、遊具の整備というのは、インクルーシブな場をつくる１つの方法ではあるので、もうちょっと大きな目で、あそこで、遊具も含めたインクルーシブな取組とか活動をどういうふうに実現していくのかという大きな枠でこれから議論しながら、その中で、必要な遊具というのを検討していけたらいいなあというふうに思いますので、私も、これはすばらしい提案だなというふうに思います。で、ちょっとこう、遊具と場をつくるということと両方で考えていけたらというふうに考えています。

では、これについてはよろしいでしょうか。また後ほど、何かございましたら、御質問、御意見を遠慮なく言ってください。

(2) 子どもの村の遊具更新

○髙田知紀部会長

では、続きまして、子どもの村の遊具更新について御説明をお願いします。

○事務局　北村

［省略：資料２の説明］

○髙田知紀部会長

この議題 (1)、(2) に関しては、今日、あれですか、欠席の上町委員と村上委員から事前に意見をいただいていると聞いておりますので。

○事務局　北村

はい。意見をいただいています。要旨を今からお配りいたしますので、ご確認いただければと思います。

○髙田知紀部会長

事前にペーパーでいただいた意見をペーパーでまとめていただいているので、それを配付していただきます。

村上委員、上町委員の意見にもちょっと目を通しつつですね、この子どもの村の遊具更新について、御質問、御意見がございましたら、お願いいたします。

ちょっと、ちょっとだけ目を通す時間を取りましょうか。

○事務局　北村

はい。

○髙田知紀部会長

ちょっと、お２人の、ご欠席のお２人の委員の意見にも目を通してもらっている間に、これまでの子どもの村の遊具更新についてのポイントは、現状、一番下段のところに複合遊具があるんだけれども、それはかなり古いもので、障害をお持ちの方が使うには、ちょっとこう、難しい構造になっているというのが１つあります。

あと、老朽化も割と進んでいるのは、現地を見ても感じました。

なので、障害をお持ちの方々が遠足等でここを使えるか、使う選択肢に入るかというと、なかなか現状では難しいという現状があります。

その中で、ここをインクルーシブな場にしていくときに、これまでのヒアリングとか委員会の中で、やっぱりこう、明石公園の中の樹木も大切にしながら、自然環境も生かしたインクルーシブな場をつくっていくべきでないかっていう声がありました。

で、そういったことを踏まえて、遊具か自然かという、どちらかの選択ではなくて、両方共存できるような案というのが考えられるんじゃないかということで、事務局の修正として、かなり当初の計画からですね、樹木への影響というのが軽減された案が出てきたなというふうに私は感じております。

では、ちょっと、お２人の御意見、文字が多いですけど、ぱっと目を通していただいた上で、何か御質問とか御意見があったら承りたいと思いますが。

じゃあ、泉委員、お願いします。

○泉房穂委員

座ったままで失礼します。

まさにバランスを取ろうとした案だと思っておりますので、大筋においては、私としてはその方向はありだとまず思います。

ただ、２点ばかりですが、ちょっとお願い事があります。

１つはですね、市長への意見箱とか市長宛てにですね、ここにある滑り台ですね、が使えなくて、あれを使いたいというのが一番多いんです、ここのテーマで。なので、ちょっと、スライダーの場所を上段に位置づけていたので、それをやめるにしても、何かしらですね、子どもたちにとっての滑り台というのは大変楽しみ事ですので、可能であれば、今設置している滑り台のところですね、あそこら辺で同じようなものでもつくっていただいたらですね、子どもたちは喜ぶだろうなと思いますので、これ、あっこの滑り台は、多くの子どもたちの思い出の場所であって、私もそうでしたけど、そういう意味では、何とか、ちょっと知恵を絞ってほしいなという。

場所からいいますと、この図面でいくと、いわゆる、全然、特に木、樹木系、大丈夫じゃないかと思わなくはないので、何か、バランスを取りながら、滑り台をお願いしたいのが１個です。

もう１つが駐車場です。駐車場も、明石市のまさに市道も通りますので、近隣対策、私も

やりますので、できるだけ、せっかくつくるんでしたら、あまり限定的なものではなく、しっかりとしたものを位置づけながら、段階的であったとしてもですね、近隣の理解を得ながら、いい駐車場を整備していけたらと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

以上です。

○髙田知紀部会長

泉委員の御意見、スライダーは、今、現状、修正案では取りやめというふうになっていますけれども、やっぱりこう、滑り台でいろんな子どもが遊んでいるというのも大切なので、ちょっとこう、樹木への影響というのをもう一度しっかり見て、やっぱりこう、滑り台がここにあったほうが、場としては、子どもの遊び場としてはよくなるんじゃないかということで検討をいただきたいということと、駐車場は、段階的に整備するというのは、泉委員も御異存がないということですね。

ただ、そのとき、せっかくつくるんであれば、もうちょっとこう用途が広がるような駐車場の整備の仕方というのを一緒に考えていきたいという御提案だったかと思います。

事務局、いかがでしょうか。

○事務局　北村

滑り台につきましては、子どもたちから人気ということは、もうよく承知をしておりますし、実際にたくさん使われているところはあります。

で、現在あるところを撤去して、またつくれないのかどうかとかっていうことについてはですね、ちょっと年度単位でですね、少し時間をいただいて検討させていただければと思います。

下段広場への遊具設置はですね、今年度中にでも完成させることはできるんですけど、新たな滑り台になると、それこそ樹木への影響とかの検討が要るので、ちょっと、年単位の宿題にさせていただければと思います。

で、駐車場につきましては、上町委員からも意見がありましたし、地元の合意を得ないとやれないことだと思っておりますので、段階的な合意形成をしながらということで進めさせていただきたいと思います。

○泉房穂委員

もう１つね。

あっこは狭い通り道なんですけど、片方は明石市立の中学校なんで、錦城中学校なんで、学校の敷地を若干少しずらすなどして、道幅を広げることなどもなくはないと思いますので、せっかくいい案ですから、私ども応援しますので、地域住民から怒られても、私がやりますので、しっかりした安全な通路をつくったほうがいいと思います。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。

○事務局　北村

力強い発言、ありがとうございます。

○髙田知紀部会長

これも、先ほどのこども広場の整備と一緒で、県と市が一緒に、こう役割分担しながらチームを組んでやっていくということだと思いますので、そこは、県と市、しっかりタッグを組んで、いい駐車場、いい空間ができるように考えていただけたらと思います。

あとですね、私からもちょっと、上町委員の議論にもあって、ちょっと小林委員にも御意見を伺いたいんですけれども、前回、私も現地を見たときに、樹木への影響をなくすということで、園路を取りやめる修正案をいただいていて、これは、自然環境を生かしたインクルーシブな場をつくるという点では、すごく重要なポイントかなと思うんですけども。

一方で、上段広場へのアクセスが、こう、なくなったりとかですね、そうすることによって、逆にこう、車椅子の方が使いづらい場になってしまったりとか、そういうことも起き得るんじゃないかというふうに思ったんですけれども、先ほどの滑り台の整備の話でもですね、この間、現地で見ていただいてイスノキ、モチノキというのは保存すべきだという話が小林委員からありましたけど、ここで何か、樹木とか自然環境を守るという観点で、この子どもの村付近で特に気をつけないといけないこととか、懸念されていることとか、小林委員、何かございましたら、御意見をいただきたいんですが。

○小林禧樹委員

今度の県のほうから出された提案というのは、最近、子どもの村で行った調査の結果をですね、いろいろと取り入れてもらって、貴重種に対する配慮がなされているという点で評価できるかなと思っているんですけども。

それで、実は、イスノキというのは、もちろん昔からずっとあった木なんですけれども、この明石公園にあるというのは、それ自身がね非常に価値がある、植物の分布として。

で、今のところ、私たちの調べた範囲では、なぜか、この子どもの村とその周辺というか、この一画にしか今のところ見つかっていなくて、まあ、それはまた何によるのか、ちょっと分からないんですけれども、太山寺にはまあ、ずっと離れたところなんですけどね、そういう太山寺なんかとのずっとつながりもあったりして、そういういろんなことの、植物学的な面で興味というか、重要なものであるということと、こういうものがやっぱり生える場所というのは、自然環境が昔からやっぱりずうっと残されてきた場所だろうという。

で、そういう中に、自然と子どもたちがそこで遊ぶというね、それが一体になったようなものがつくれたら一番いいわけですね。ですから、まあ、確かに、そういう貴重なものを残

すということと、どういう、子どもたちがほんとに楽しめる空間をつくるにはどうしたら一番いいのかという、結局、これはまあ、今日の話はそのスタートみたいなもんで、これから、どういう形がまたいろいろ必要になってくるかということは、そのときそのときにまた検討してね、やっていくというようなことで、取りあえずはこの案で行って、さらに、もっといい案が出てくればそれをまた採用する、そういうことをしていったらいいんではないかなと私は思っています。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。

継続して、この場のあり方を、子どもたちも含めて、みんなで考えていくということで、当面、この修正案として、下段に、インクルーシブな遊具を整備するに関しては、ちょっと、やむを得ず４本、キンモク３本、キンモクセイとソメイヨシノの伐採が生じますけれども、これは遊具更新のためにちょっと必要な作業ということで、かなり最小限レベルに抑えてもらっているので、下の遊具の整備というところは、ここで進めていったらいいだろうということかと思います。

あと、全体の自然を使った場のつくり方については、継続的にこれから考えていくということで、前回のヒアリングのときには、プレーパークの構想とかですね、自然を使ったプログラムを作るとかですね、そういう御提案もあったかと思いますけど、嶽山委員、その辺り、この場で今後できそうなこととかですね、検討する際にちょっと留意すべき点とかがございましたら、ちょっと御意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○嶽山洋志副部会長

僕、今のまず議論に対して、これは明石公園全体に言える話かもしれませんけども、切った部分に対しての生態種というか、新たにこう、環境のいい場所っていうのを作っていくような発想というものをできたらいいかなということと、もう１つ、貴重なこの公園らしい樹木であったり、虫、昆虫であったり、そういったものをしっかりと管理するというか、そういった手法として、種とか挿し木であったりだとかというふうな方法で増やしていく発想というのも取り入れながらやっていくことが大事かなというふうに思っています。

で、このエリア全体を見ても、ソメイヨシノの樹勢のちょっと衰えだったりだとか、そういったところも気になったりもする部分があるかなと思いますので、そういった樹木の循環というか、そういったこともちょっと取り入れながら、やっていけるといいなと思いますし、それを子どもたちと一緒にやっていくというのが非常にいいのかなと思っているところです。

で、もう１つ、インクルーシブな遊び場のあり方として、施設型の遊具だけではなくて、自然環境を生かしたインクルーシブな遊び場みたいなものも恐らくあるんじゃないかなと思っていて、よくあるのは、レイズドベッドという、車椅子でも植物が触れるようにという

ことで、地面からちょっと上げたような、そういった装置であったりだとか、自閉症の子どもたちがひたすら、葉っぱであったり花であったり、むしってしまう行為っていうのがあるんですけども、そういったむしることが許容されるような花壇であったりだとか、あるいは、ひたすらこう、朽ち木を折って虫を探すみたいな、ガーデンショーではすごい人気だったんですけども、そういった取組っていうものを、プレーパークの中でも手作りでそういうのができたりしますので、つくっていくような機会っていうのを、この上段広場のところで展開させてもらうと、ちょっと色が、特色がいろいろ出て、インクルーシブな公園というふうなことの特徴というのがさらに広がっていくのかなというふうに思っています。

○髙田知紀部会長

とても重要な指摘で、この子どもの村の中でも多様な使い方ができる、それは、障害の有無に関係なく、いろんな遊び方、使い方ができるという、ここの子どもの村に、ある種こう、機能というか、遊びの機能を集約、凝縮したらいいんじゃないかという御意見だったかと思います。

私も、それはちょっといろいろ思っていて、先ほど小林委員が、今回、これをきっかけに、この子どもの村のインクルーシブな場のあり方を議論するスタートだっておっしゃいました。私も、いろんなプログラムがこれから考えられると思います。

で、やっぱり、そういうプログラムを実践していこうとしたときに、管理者である県だけがそれを全部やるんじゃなくて、むしろ、使っている市民とか明石市とか私たちのような学識者とか、あと、公園を様々な形で利用されている皆さんが、ここでプログラムを何かやりたいといったことをやれるような、そういう仕組みをつくっていくということが大切なんじゃないかなと思っていて、むしろ、管理者の県は、そういった活動が出てきたときに、それをサポートするような、支援してくれるような体制というのがとても重要になるんじゃないかなと思っています。

はい、泉委員。

○泉房穂委員

改めてのお願いなんですけど、結論から言えば、ぜひ２段階方式でお願いしたいと思うんです。ここにつきましては、もう、兵庫県のほうが随分丁寧に障害当事者団体からもヒアリングをしていただいたりして、進めてこられました。

でも、実際、予算の部分も動いていますので、私も行政マンですから、そういう意味では、現実的には、心待ちにしている方がおられますし、行政運用上も考えると、まず第１弾としては現実的な対応というのが、私は十分それは合理的だと思います。

ただ、第２段階では、今議論があったように、ハード面のみならず、ソフト面も含めて、そして、いわゆる自然との触れ合いを大事にする空間というのも可能性があると思いますので、矛盾するものでなくて、インクルーシブな空間づくりと自然との触れ合いというのは

私は両立すると思うんで、それを第２段階で引き続き検討していくという形でぜひ明記してもらったほうがありがたくて、これで終わりじゃなくて、まずはこれにすると。で、ただ、これで終わりじゃなくて、今の議論を踏まえて、さらにいいものを検討していくという形はお願いしたいと思います。

○髙田知紀部会長

泉委員からの御提案…。

じゃ、小林委員、お願いします。

○小林禧樹委員

ちょっと、さっき言い忘れたんですけど、このキンモクセイ３本とソメイヨシノ１本はやむを得ず切るということなんですけど、どうしても、植物をやっているとね、植物のことしか目に入ってこないんだけども、やっぱり、いろんな虫とかね、昆虫とか、その他のいろんな小動物ですね、そういうものに対する影響というのも当然考えなきゃいけないので、まあ、イスノキの調査は大分、県のほうでされましたけどね。

そういう、いろんな昆虫とか、特に伐採する木に対して、それがどういうものがおるかというふうなことですね、いろんな、そういう動向のいろいろなデータを持っている方もおられると思うんで、そういうものもいろいろ調べたりして、そういう影響がないということを一応確認してほしいなというふうに思っています。

○髙田知紀部会長

泉委員からの御提案で、今回をきっかけに、インクルーシブな場のつくり方の議論をしていくんだということをこの修正案のところに明記して、これがきっかけなんだということを位置づけるということ。

もう１つ、小林委員、すごく大事な御指摘で、樹木だけじゃなくて、そこにすんでいる生き物についても影響がないか、あるとしても、今後どういうふうにリカバリーしていって、あそこの場で昆虫に触れ合えるような、生き物と触れ合えるような場所をつくっていくのか。

これは、さっき泉委員が言った2段階目の議論になってくると思うんですけれども、生き物を増やす環境を豊かにしていくということも、これからの目的、視野の中に入れていってほしいという御意見だったかと思います。

その辺りは、事務局、いかがでしょうか。

○事務局　北村

ハード整備だけじゃなくて、ソフト、それから市民参加によって公園をつくっていくということは非常に重要なことであると考えております。我々としても、引き続き検討していく

こと、それから、様々な市民の動きに対してサポートしていくことというのは必要なことだと考えております。

なので、この部会の議論の結論はもちろん公開されますので、そこでも位置づけていくことになるでしょうし、あと、今後ですね、管理運営協議会的なものをどういうふうにつくっていくのかというときの具体のテーマの１つにもなるかと思います。

そういう中で、我々も、そういう進めをしていきますし、市民の皆さん、利用者の皆さんにも参加いただいて、やっていきたいというふうに考えております。

それから、昆虫への影響につきましては、また専門家にもお話を聞いてみたいと思います。言われたように、今回やると、影響がゼロということはまあないのでですね、どこまで許容するのかどうか、どうリカバリーするのかというところになるかと思いますので、そういったことも配慮しながらですね、整備を進めていきたいというふうに考えております。

○髙田知紀部会長

ほか、いかがでしょうか。

嶽山委員、お願いします。

○嶽山洋志副部会長

結構、虫の話でいくと、ここがソースになっているというよりかは、どこかから来ていたりとかしているんだろうなということが想定されるということと、むしろ、虫捕りをこの辺でしている人たちがいてて、何かこう、山の中、森の中というか、藪の中に入っていくよりも、ここで虫が捕れるということが結構貴重だったりするかなと思うので、虫捕りスポットみたいなものも、結構、調べられるといいなというか、僕も、ちょっと、この辺の具体的にどこの木とかあったりするんですけど、またちょっと伝えられたらなというふうに思ったりします。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。じゃ、兼光委員、お願いします。

○兼光たか子委員

前、ここのところで野鳥がたくさんいるということをお伺いしたと思うんですけど、私たち自然に親しむ会は、いつも３月頃に行くのは、そこに行くことはあまりなくて、私たちも自然観察をしているんですけど、募集人数が、今、コロナで20名ほどなんです。ここで野鳥の会とかをされたら、皆さんと和む会が持てるんではないかと思っています。

○髙田知紀部会長

野鳥もね、前回のヒアリングのときにも、どなたか言っていただきましたけれども、観察

会ですね、虫だけじゃなくて、鳥、植物を観察するような、まさにほんと、先ほど北村課長がおっしゃったように、この子どもの村をどうつくっていくかということを１つのテーマにした、そういう協働、県、市、市民、いろんな主体の協働の場、プロジェクトみたいなのを立ち上げるというのも、１つすごく重要なことなのかなと思いますので。

ほんとに、今言っていただいただけでも、いろんな価値がこの子どもの村周辺にはあるということなので、ぜひそれを継続して議論していくような、まあ、部会なのかプロジェクトなのか、ちょっとこう、何とか会になるかは分からないですけど、そういう場をぜひ実現していただけたらなというふうに私からもお願いしたいと思います。

ほか、いかがでしょうか、子どもの村の遊具更新について。

よろしいでしょうか。

前回のこの部会のときにですね、障害者、障害をお持ちの方を支援されている方、通われている学校の先生方にも来て意見を言っていただきました。

ほんとにこう、明石公園でですね、そういう遠足とか、フィールドとして明石公園を使えるということは、ほんとにこう、そういう方たちが待ち望んでいたことだということをすごく切実な声として聞くことができました。

で、今回は、部分的にですね、遊具を更新するときに、新しいインクルーシブな遊具というのが導入されるんですけども、これからもっとですね、自然、樹木、昆虫、鳥を活用して、手作りで遊べるような場所というのもここにつくって、さらに、障害の有無に関係なく楽しく使えるような場所というのをどうつくっていくか、そういう議論をこれから始めていく、そのスタートに今日はなったんじゃないかなというふうに思いますので、ぜひ、この遊具の更新だけで終わるんじゃなくて、継続的にこの場のあり方というのを議論していく、それをお願いしたいというふうに思います。

では、よろしいでしょうか。

○委員　一同

はい。

○髙田知紀部会長

では、これで議事（1）と（2）が終わって、これからちょっと、ヒアリングというか、意見交換に入るんですが、時間が早いので…。

○事務局　小山

ちょっと、すいません、次、ヒアリングに向けましてですね、配置転換のほうを行いますので、10分間、休憩のほうをいただきたいと思います。再開は10時50分からということ…。

10時50分からということにさせていただきたいと思います。

それと、１つ御報告がございます。

泉委員におかれましてはですね、この後、ちょっと別公務がございまして、若干こう、お時間、中座されるということになります。

○泉房穂委員

申し訳ございません。

○事務局　小山

時間の許す限りで、市長、よろしくお願いをいたします。

それでは休憩になります。

［　休　　憩　］

（3）公園利用者へのヒアリング

◇第１グループ

○事務局　小山

それでは、第１グループの皆さま方がそろいましたので、ただいまよりヒアリングのほうを始めさせていただきたいと思います。

それでは、議長、よろしくお願いいたします。

○髙田知紀部会長

では、ちょっと、前の議事が全体に早く進んだということで、時間が前倒しになっていますが、今日発表いただく第１グループの皆さんがそろわれたということなので、前のほうに来ていただいて、順番にご意見をいただきながら、委員あるいはほかの発表者の皆さんとですね、ぜひ、こう、これからの明石公園の豊かな自然環境をどう残して再生していくのかという観点で議論できたらいいなというふうに思っております。

では、すいません、永井さん、山田さん、渋谷さん、前に来ていただいて、後ろ、タイムキーパー、皆さん、発表者の皆さん、あそこに、残り、発表の時間、確認しますか、後ろで、１分前とか、カードを上げていただきますので、ちょっとあれを見ながらお話しいただけたらと思います。

では、この順番でいきたいと思いますが、まず初めは永井さんですかね、ご発表、お願いします。立っても座っても、話をしやすい形で結構です。

○永井俊作

こんにちは。私は、明石市西明石町に約50年在住し、現在、和坂校区の高年クラブの連合会の会長をしています永井俊作です。

自然豊かな明石公園を次の世代に残したい、引き継ぎたいという思いで、今日、私の意見を述べさせていただきます。

カワセミやアオバズクがすみつき、鷹が舞い飛ぶ明石公園。明石は山がありません。

JR明石駅前にある明石公園は、散策と森林浴ができ、芝生公園では幼児や子供たちが走り回り、春は桜、目に青葉の新緑、夏はセミしぐれ、秋は、様々な木々や草花の紅葉、菊花展覧会、冬は木枯らしなど、四季折々の自然を感じられる明石公園は、明石市民の憩いの場であり、市民の宝です。

また、陸上競技場、野球場、テニスコート、球技場など、小学生から大人までのスポーツのメッカでもあります。

県民の明石公園への来場者数は年間約500万人と言われています。

ところが、突然、樹木何百年の木々が無残にも伐採されており、唖然としています。

国連気候行動サミットで、国連の事務総長が、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにすると呼びかけ、スウェーデンの環境活動家、グレタさんが演説をし、世界に衝撃を与えました。

世界各地の若者が行動を起こすなど、気候変動は世界的な問題となっており、我が国でも、地球温暖化を起因とする極端な気候変動により、台風の大型化や集中豪雨、大規模な洪水、山崩れなどが毎年のように日本列島を襲っていることを危惧をしています。

兵庫県南部地区は台風の少ない地域ですが、毎年のように加古川流域に避難命令が出され、2011年、台風12号では、赤穂市付近に台風が上陸し、姫路市で100棟近くの建物が、床上、床下浸水の被害に遭い、明石川も氾濫寸前で、大観小学校区で消防職員がボートを出して、市民の避難、救助に当たりました。

明石市は、誰もが安全、安心して暮らせる、暮らせ続ける社会、SDGs未来安心都市として、17の目標の１つに掲げられる気候変動に対する具体的な対策に取り組み、2020年３月、気候非常事態宣言を表明しました。

21年４月には、菅元首相が、CO_2削減目標、2030年に2013年比46％削減の表明をし、我が国は、一気にカーボンニュートラルへ大きくかじを切りました。また、先進自治体はゼロカーボンシティーを目指す取組を始めています。

しかし、残念ながら、兵庫県も明石市も大きく遅れています。

木や樹木は、光合成を行うことで、空気中のCO_2を吸収し、有機物に変えます。二酸化炭素中の酸素を放出し、炭素を体内にため込む木は、まさに炭素の貯蔵庫と呼ばれています。

森林は、大小様々な生態系を育んでいます。土壌や水など健全な環境を維持するために木の役割は欠かせません。

山と海は真逆の関係にあると思われがちですか、雨水が樹木や森林の中でろ過され、酵素や土壌の栄養分をたっぷり含んだ地下水が川となり、海に注がれ、海の生き物へ循環されています。そして、重要な循環機能を果たしています。

明石公園の樹木や草花は、そのような、とても重要な循環機能を果たし、また、訪れた人々の心を癒やし、健全な子供たちを育んでいます。明石公園の樹木は、今後、伐採を中

止をし、１本１本の樹木を大事に育ててください。
以上です。

〇髙田知紀部会長

永井さん、ありがとうございました。拍手をお願いします。（拍手）
すいません、ちょっと初めに、今日の進め方をご説明するのを忘れていたんですが、グループごとに、初めに皆さんに発表していただいて、最後まとめて、20分ほどですね、ディスカッション、意見交換の時間を取りたいと思いますので、まず、３名の方、第１グループ３名の方にご発表いただきたいと思います。
続きまして、じゃ、山田さん、お願いいたします。

〇山田利行

こんにちは。山田利行といいます。
もう私も70を超えましたけれど、ふだんは、月に何回か保育園に行っております。で、子供たち、３歳から、３歳、４歳、５歳の子供たちと一緒に野外活動をやっております。
明石公園はですね、子供たちに、例えばカタツムリを持っていってやろうかなあと思ったら、県立公園に向かう坂道ですね、あそこの途中で、結構、歩いているだけで、思いついたときに行って10匹ぐらいは捕れますね。で、１週間ほど通ったら、大体100匹ぐらい捕れるんです。簡単に捕れます。
でも、今はほんとに少なくなりましたですね。探さないと、探したらいるんでしょうけれど、なかなか見つからない。
それから、ドングリですね、それも、大きなクヌギがありましたから、まあアベマキかもしれませんけれど、行ったら、大体30分で、１リットルのあの大きなペットボトルにですね、もう30分あったら、ほぼいっぱいになります。それも、拾いまくるんじゃなくて、座り込んでね、で、私の前、それから右手側、左手側を移動するだけで大体集まりましたね。
で、それが、去年ですね、取りに行こうと思ったら木がないんですよ。で、えっ、あの木はどこに行ったんやろうと思うて、もう年がいってますから、勘違いかなと思ってね。
で、上のほうに行っても結構切られているし、まあ、それまでにも、何かよう切りよるなあとは思っていました。でも、まさか、私が自分で毎年集めていたクヌギの木がなくなるなんて、夢にも思わんかった。
そうやってドングリをひらっていたら、大きな、いわゆるお城の石垣が目の前にあって、そのときに、お城ってでかいなあと思っていました。でも、今はもう、すっかり明るくなって、で、もうドングリは拾えないし、いや、ドングリなんて、どこでも拾えるやんということですよね。だけど、どこでも拾えるドングリの木が、なんで明石公園に逆に言うとないのっていうことですよ。

いわゆる桜とかモミジだけを見に来ているんじゃなくて、幼稚園や保育園の子供たちも遊びに来ていると思うけども、その子たちは、やっぱり、ドングリを拾いに来ている子も多いと思うんですよね。

それから、桜でもね、大人は、桜の花の咲いたところで花見をするけれど、子供っていうのはね、落ちた花びらを集めたりするんですね。子供の見る視点というのは、もう絶対、大人とは違うということです。

で、そういうのが私にとっての明石公園なんですけれど、一方で、そうですね、もう、私は、20代から、自然との関わりで、子供のことを、子供と一緒にやってきました。で、そういうときにですね、やっぱりこう、明石公園は、なんといったって、駅の目の前じゃないですか。それで、だから、いわゆる交通機関を使っても来やすいし、当然、歩いてもすっと来れる。信号を１つ渡ったら公園ですよ。

だから、そういうところで、なんや、石垣、見えへんやないかって言った人がいて、その人の鶴の一声で、まあ単独ではできないでしょうけども、木を切り始めた。

だけど、要するに、自分で不消化で、よく理解していないんですけれど、景観10年、風景100年、風土1,000年という言葉があるそうです。そういう本も出ています。

で、やっぱり、木を切ったことで、石垣は見えるようにしたけれど、もう、しっかり、100年も1,000年もかけて守らないかんものをですね、結局、振り出しに戻してしまったんじゃないかなと思います。

だから、もうあと時間が僅かですけど、まあ、今できることは、今までのことは別にして、とにかく、植え始められるところは植え始めることやと思います。

以上、そういうことにしておきます。

○髙田知紀部会長

山田さん、ありがとうございました。（拍手）

では、第１グループ最後の発表、渋谷さん、お願いします。

○渋谷進

神戸市西区から来ました渋谷です。

私が言いたいことは、ほぼ山田さんがおっしゃられましたので、かぶってもいけないと思いますので、私、意見申出書に出したものをちょっと読ませていただいて、ちょっと付け加える程度にしたいと思います。

私の意見書の要旨なんですけれども、明石公園というのは、私が物心ついた頃から慣れ親しんできた公園なんです。で、振り返ってみますと、公園の魅力というのは、やはり、緑の多さ、樹木の多さに尽きます。

特に、過去10年余りですね、明石公園にわざわざなんです、わざわざ足を運び、定期的にウォーキングをしてきました。で、コロナ禍になって中断しました。で、また、落ち着

いてきてから明石公園に足を運んでウォーキングをしたんですけれども、先ほど山田さんが言われたように、あれっ、ここに木があったのにないぞというのが、やはり分かるんですね。なぜなのか、ちょっと知りませんでした。

で、ここの場所って、歩いていて季節感を感じることができる、非常に身近な場所なんです。

で、なんでか。目にする風景、それから、落葉樹の芽吹きと落葉、耳にする鳥や虫の鳴き声、季節ごとに咲く花々の彩り、それと匂いですね、それから、暑い夏や寒い冬でもそれほど苦にならずに歩くことができる多彩なコースがあるんです。

しかし、これ、残念なんですけれども、樹木の伐採で逆に見苦しい風景が目に飛び込んでくるようにもなってきました。雑草なんです。切ったことによって逆に雑草が目につくようになってしまった。で、それ、至るところで、全く手入れされていない状況をよく見かけます。

で、これ、残念なんですけれども、皮肉になるかもしれません、樹木を切ったが、雑草の手入れはなされていない、絶対ここをちょっと見直してほしいなと思うんです。公園緑地課の方針と矛盾していないかというふうには、明石城を実際に歩いてみて、そう思いました。

で、これは１つ提案なんですけれども、まあ、やっぱり、見苦しいもんですから、皆さんで協働で雑草の手入れぐらいしたらええと思うんです。立場を超えて。そういう協働で何か活動するということがあって、初めて、意思の共有なり情報の共有、あっ、ここはこういうふうに使われているんじゃないかといった部分が分かってくると思うんですね。そういう、何か、立場を超えた協働の活動みたいなのがあってもいいんではないかというふうに思います。

以上です。

○髙田知紀部会長

渋谷さん、ありがとうございました。（拍手）

では、お三方、まだ前にいていただいていますので、お三方の発表についてご質問とかご意見などがございましたら、委員の皆さん、あるいは、ほかの今日発表される皆さんもご質問いただけますので、いかがでしょうか。どうでしょう。

それじゃ、ちょっと、お三方ともに関わるかと思うんですけど、山田さん、ドングリを実際に具体的によく座り込んで拾っていた場所ってどの辺りですかね。

○山田利行

私が一番よく拾っていた場所はねえ、喫茶店があるでしょ。

○髙田知紀部会長

はい。

○山田利行

要するに、まさにお城の西側の壁というかな。その下、今、トイレの工事をしていますよね。その裏側というか、５号トイレがあって。そこら辺かな。はい。

いや、もちろん、あの上も行きましたよ。上の丸というんですか、上のとこにも行ったりして、でも、１か所行けば、大概、楽に拾えていたんです。でも、全然なくなりましたよ。

○髙田知紀部会長

ほかのエリアでも、なかなか、そういう、たくさん拾える場所がなくなっちゃったって感じですか。

○山田利行

もうほんとに、ほんとに、数えるほどしか。まだ残ってはいますけどね。でも、なんで、ここまで切らないかんのかとは思いました。

それと、やっぱり、クヌギの木、アベマキでしょうけど、おっきいですよね、明石公園の分は。だから、ほんとにもったいない。どう考えたってもったいないと思っています。

○髙田知紀部会長

そうか。北側のほうは、あまり、そういうクヌギとかアベマキっぽいやつの大木がなくて、南側に多かったけど、それが切られちゃったので、そういうドングリが拾える場所がなくなったと。小林さん、どうですか、ドングリの生態とか、ドングリがなる木の分布みたいなものは。

○小林禧樹委員

明石公園は、もともとアベマキが多いんですね。で、クヌギはほとんどなくて。コナラは結構少ないんです。あと、まあ、常緑樹とかね、いろいろあるけれども、あんまり、実をつけるものも少ないやろうし、ニセアカシアとかアラカシ、まあ、アラカシが数は多いですね。

まあ確かに、だからまあ、もう、そういう落葉樹、常緑樹が軒並み切られていますから。そういうの、恐らく、まあ、特に、ほら、人が歩くような場所が切られている。まあ、森の中に入ったら、まだあるかもしれないけども、人が散歩とかですね、するような場所が切られたということで、かなりもう、目に見えて少なくなっていると思います。

で、ちょっといいですか。

○髙田知紀部会長

はい。じゃあ。

○小林禧樹委員

草刈りの件ね、これ、今言われたことは非常に大事なことで、実は、我々の仲間というか、いつだったかな、９月の終わりぐらいだと思うんですけども、草刈り、草刈り応援隊というのをつくって、で、実際に、何人集まったかな、20人近く人が集まって、それで、みんな、鎌とか、それこそハサミを持ってきて、私も鎌を持ってきて、で、ずうっと行って、まあ、もちろん、第１回目だから、それほど大がかりなことはしなかったんですけど、今ちょうど言われたドングリの木が切られた一番東側の、曲輪の下の石垣に沿ったあの一帯をずうっとやって、その後は、何とかの、水辺がありますね、あそこの辺り。という形でですね、やっぱり、市民参加の形で、やっぱり、それをやっていく。

で、それにも行政のほうも関わってもらってね、で、いろんな形で、そういうのが各地にできていって、また、それが連合体みたいになるともっといいんでしょうけども、取りあえずは、やりたい、やろうという人たちを集めて、そういうものをこれからやっていったら、取りあえず、１回目をしたんですね。今年もう１回、11月ぐらいにしようよって言っていますので、そういうことをいろんなところでやっていったらどうかなと思っています。

○髙田知紀部会長

明石高校のあれですね。草刈り応援隊という、生徒中心の。

○小林禧樹委員

そうです。明石高校の生徒たちがそれをしたいということで、それを応援しようと。で、応援隊ということになっています。

○髙田知紀部会長

渋谷さんのご提案でね、草刈りをみんなで一緒にやっていったらいいんじゃないというのは、すごく大切な議論で、小林委員もおっしゃったように、ちょっとこう気になるところがあったら、もうできる人でやってしまうとか、で、先ほどちょっと、前半の議論でもね、市民が公園でこういうことをやりたいと言ったことに対して、県もサポートするっていうことは、それはもう惜しまないと思いますので、また、そういう声を上げて、ここ草刈りをするんだったら、どういうやり方でやったらいいのかとか、仲間集めとか告知とかですね、そういうことも、市民が主導で、県とか市にサポートしてもらうというようなやり方をこれから進めていくのも私はいいんじゃないかなと思っています。

どうぞ、渋谷さん。

○渋谷進

小林先生、ぜひお声がけいただければ、やりたいと思いますので、よろしくお願いします。

私が、ちょっと、山田さんのドングリの件なんですけども、９月の下旬にウォーキングをしていたときに、ドングリを拾ったんですよ。おっさんになっていますけど、やっぱり楽しいんですよね。

で、拾って、で、私、いつもウォーキングの最終地点が子どもの村なんです。で、子どもの村には、大きな、いわゆるドングリがなるような木はないんですけれども、小さなものが落ちているんです。

で、それを、たまたまです、小さい子供さん、おばあちゃんに連れられてだと思いますけれども、拾っていたんです。で、私が大きいのを10個ぐらい拾っていたので、差し上げたら、すごく喜ばれたんです。それは別の場所でしたけども。

やっぱりね、歩いていて思うことがあるんです。自分のウォーキングっていうのは、確かに目的のひとつなんですけれども、見ているものは、その風景だけではないんです。その公園をどういうふうに楽しんでいるかということも見るわけです。

特に、子供さんが喜んで公園で遊んでいるだとか、先ほど言ったように、ドングリを集めているだとか、あるいは、お年寄りでもいいんですけれども、ゲートボールを楽しんでいる姿だとか、それを見るのも結構楽しいんです。あっ、こういうふうに使われているんだなと。

で、それを、私たちは素人ですからね、何も分かりません。私はウォーキング目的で行っていますけれども、単に、そういう、ふだんに使われている姿を見るのも、すごく私も勉強になりますし、あっ、これが普通の公園の使い方なんだなというのがよく分かるんです。で、それが明石公園なんです。

それだけ近隣住民に親しまれているということは、皆さん、ここで共通認識として情報共有をしてほしいんです。

よろしくお願いします。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。

公園がね、どんな楽しまれ方をしているかっていうことを、いろんな目線から見るというのが大事だということだと思います。それはすごく、私も、公園の価値を考えるときに大切な視点だなと思います。

嶽山委員、あれですね、今、何か、いろいろこう、公園の利用のこととか調査されていますけれど、何か、そういう公園の楽しみ方みたいなものは、どっか、ちょっとこう、明らかになるような項目って調査しているんですか。

○嶽山洋志副部会長

そうですね、ふだん利用、今、検証の一環で、400人ぐらい、最終的には利用者の方にお話を聞いて、っていうことをやって、もう半分ぐらい、200名ぐらいの方々に対してのアンケートを対面式でやっているわけなんですけども、大半が、散歩ですね、やっぱりウ

ォーキングと散歩を選ばれていて、この割合が非常に高いっていうことが、やっぱり、皆さん、僕ら、手前のほうで見ていたりすると、結構、芝生のところでピクニックをしていたりだとか、そういった風景をよく見るので、滞留、とどまって何か楽しむような人たちが多いんだろうなと思っていたんですけども、いや、いや、決してそうではなくて、みんな、結構歩いている人たちが多いんだなというふうなところは、ひとつ気づきとしてあったかなというふうに思います。

で、おっしゃるように、歩きながら何を見ているかというところまではちょっと把握はできていないわけなんですけれども、今おっしゃったように、どこを見ているかみたいなところまで、さらに突き詰めて聞けると面白いというふうには思いました。

で、名風景っていって、どこの風景を皆さんが楽しんでいるかなみたいなことも併せて聞いていたりするんですけれども、これも、結構、想像するに、手前側の芝生のところからお城を見たりだとか、お城の上から、上って風景を見たりとかっていうところが多いんだろうなと思ったら、結構、奥の、なんていうんでしょう、剛ノ池の周りをぐるぐる回っているところとか、この辺がもう一番多かったり、あとは、眺望景観でいうと、あそこの花緑センターの屋上から剛ノ池を見るところが楽しかったりだとか、結構、皆さん、多様に風景を楽しんでいらっしゃるなというふうなことも、調査をしていると分かってきて、面白いなと思いました。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。

また、そういう……。

ああ、じゃあ、すいません、永井さん。

○永井俊作

明石の高年クラブは、毎年、健康ウォーキングを行っておりまして、今年は二見のほうですけど、明石公園をウォーキングするのは非常に人気があるんです。1時間ほど歩くんですけど、結構コースも多くて、緑と緑の間を歩くというんかね、そういう面では、ほんとにすばらしい公園。

まして、先ほどありましたけども、駅のすぐ近所ですから、明石市内から集まりやすいんですね。高年クラブのメンバーというのは、大体もう70、80なんで、やっぱり、そういう面でも、やっぱり、たくさん集まります。いつも、もう二、三百人が常に集まって、ウォーキングを年間1回やっているという状況です。

あと1つ、街路樹とか、明石市の公園もそうですけども、樹木の剪定がね、もう丸坊主に近い剪定を最近し出したんですね。やっぱり、それでは、緑っていうのはたくさん日本にあるから、緑の価値っていうのがあまり分かっていないんじゃないかなと。そういう意味では、もう少し枝を残してというんかね、確かに、街路樹が台風で倒れるとかっていうことな

り、公園の葉っぱが落ちたら掃除が大変だという声もありますけども、それはそれで、やっぱり、バランスの取れた樹木の育て方っていうのをやってもらいたいなと要望しておきます。

○髙田知紀部会長

山田さん。

○山田利行

さっき、子どもの村ですよね、あの周辺、まあまあ、子供たちは遊具で遊んでいるんだけれど、実は、スダジイ、いわゆるシイの実があるし、いわゆるシイの実をつけますし、もうすぐ落ちますわ。それから、マテバシイの木もたくさんあります。どっちも食べられるドングリです。生のまま食べられるドングリ。

それから、梅雨が明ける頃ぐらいだったら、子どもの村のちょっと先っぽに、あれ、なんやったか、実がね、たくさんなって、ヒヨドリもたくさん食べに来ているけれど、そういう食べられる実とかドングリっていうのがあって、もちろん食べられないドングリでもいっぱい遊べるわけで、そういうね、遊具だけじゃなくて、何がしかのこう、イベントをするなりして、子供たちに、こうやって遊べるよっていうこともする場所としては、たくさん、とってもいい場所。隠れみのもたくさんあるから、いわゆるジャンケンの木がありますし、子供にとって、ほんとに、遊べるものがいっぱいあります。

以上です。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。

ぜひ、山田さんね、何かそういう、ああ、いいですか、ちょっと、そういうね、保育所に通われたりとか明石公園をふだん使われているね、子どもの村の周辺を使ったプログラムとかの実践、ぜひ、まあ、私もできたらお手伝いしますんで、していただいて、そういう情報をまた、県とか市とか、いろんな人と共有して、こういう使い方をしたら、こういう楽しみ方があるよっていうこと、みんなでそういうのを共有していくと、明石公園の何か今まで見えていなかった価値みたいなものが見えてくるんで、さっきの草刈り作業と一緒で、こういうプログラムをやったら面白いんちゃうというのは、もうどんどんやっていけばいいのかなと。

で、大事なのは、そこで終わらせるんじゃなくて、それをいろんな人と共有して、明石公園全体に波及させていくっていうことは、とてもこれから意味を持つのかなと思ったりしています。

すいません、じゃ、ご質問。

○奥津晶彦

すいません、先ほどの渋谷さんの発表に絡んでなんですけども、やはり、私、この前、保育園の人と、環境学習ということで、明石公園をぐるっと回ってきたんですけども、もう園路でも草がぼうぼうになっているんですね。今まで木があったから、そんなに草が生えなかったんですけども、やっぱり、木があることによって草が生えていなかったところが草ぼうぼうになって、もう歩くのも結構大変なところとかがありました。

あともう1つ、ちょっと追加で、ちょっと、今回、木を切ったことによる障害と言ったらあれなんですけども、ベンチが結構いろんなところにあるかと思うんですけども、今までは日陰になっていたのが、今もう、木を切られて、ちょっと日陰がなくなってしまっているんですね、せっかくのベンチのところも。その辺もちょっと考慮に入れてもらって、伐採のほうを進めてもらいたいと思います。

○髙田知紀部会長

日陰がなくなっているというのは、夏、暑いときに歩くと、結構、実感した、私もしました。そういう、こう、滞留する、歩くだけじゃなくて、そこで休憩する人にとっても、樹木っていうのは役割を果たしているんだと。そういったこともちゃんと踏まえて樹木の管理計画をつくる必要があるのかなと私も思います。

ほか、いかがでしょうか。

○和田太郎

すいません、僕らの年代と皆さんの年代とちょっと違うんかなあなんて思ったりもするんですけれども、明石公園で切ったり、どうこうした葉っぱとかですね、やっぱり、集めてですね、で、葉っぱを一番最初に利用するのはミミズですよね。そのミミズが、まあ、土壌昆虫が葉っぱを細かくして、それを食べて、ミミズが食べて、繁殖していくんですよね。

だから、そのミミズを利用して、ちょこっと何か、魚を釣るような、そういうようなことを実際できるようなことをしたほうが非常にいいんじゃないかなと思うんです。

何か、そういうようなことを全然なされていないような感じで、今の子というか、あっこの子供を見ていたら、そういう遊びが、遊びいうんか、自然の循環というのを全然勉強していないんじゃないかなという感じがするんです。

ちょっと余計なことでした。

○髙田知紀部会長

いえ、いえ。

はじめに、永井さんが、適切な土壌と水循環ということが大事とおっしゃったこととともつながると思うんですけども、私も、いろんなところで子供たちと自然体験とか活動していま

すけれども、そういう遊びがあるって知ったら、結構楽しんで、みんな、今の子供もやるんですよね。だから、そういうきっかけづくりっていうのを明石公園の中でもどういうふうにしていくのかというところが、これからの課題というか、ポイントにはなってくるかなと思います。

いかがでしょうか、質問とかご意見。

割と、今、皆さん、質問とか発表いただいた皆さんでも、何か、結構、すぐに明石公園で自分たちでできそうなことっていうのがあるんで、そういったことを、この部会での議論から別に離れても私はいいと思うんで、県とか市とかですね、あるいは、ここに集まっている委員の皆さんと、ちょっとこう、コミュニケーションを取りながら、実現していけたらいいんじゃないかなというふうに思います。

先ほどの明石高校の草刈り応援隊も、先生からですね、直接ご連絡いただいて、私と嶽山先生も応援者として名前を連ねたりしていますので、そういう明石公園での実践活動というものと、ご提案いただいた内容なんかは進めていくということでも私はいいんじゃないかなと思っています。

ほか、いかがでしょうか、ご質問とかご意見がございましたら。

よろしいでしょうか。

では、第１グループのご発表と意見交換をこれで終わりにしたいと思います。

お三方、ありがとうございました。（拍手）

◇第２グループ

○髙田知紀部会長

では、ちょっとまた、ここで、あれですね、休憩を挟んで、第２グループです。

第２グループの方、皆さん、もう集まっていらっしゃるんですかね。

○事務局　小山

このまま続けて……。

○髙田知紀部会長

あっ、そのままでオーケーですか。

じゃあ、第２グループの皆さん、前に来ていただいて、柿原さん、松本さん、縄さんですね。

じゃあ、初めは、柿原さんからなので、そこに座っていただいて、じゃあ、始めましょうか。よろしくお願いいたします。

○柿原辰郎

ご紹介いただきました柿原です。

会議、こういう会合の回を重ねるということはいいことだと思います。回を重ねることのよさがあるなあと思いながら、今、十数分、二、三十分聞いていました。

それで、私が思っていること、あるいは今日申し上げようかなあと思っていたことは、ほとんど、先ほどのお三方がおっしゃったことと重なっているんですね。

で、私はですね、その上でですけど、ペーパーには大変抽象的なことしか書いていませんが、要は、さっきのお三方もおっしゃったように、参加なんですね、ありきたりの言葉で言えば市民参加、関係者がみんなで、それぞれなりに手伝うということが大事じゃないかと改めて、前回も申し上げた気がするんですけど、思います。

で、これはですね、さっき嶽山さんのお話であったのかな、やっと分かっていただいたかと、会議の発言に出たなと思ったんですが、公園を利用している人はですね、一番最大多数は、ただぶらぶら歩いたり通り抜けたり、ちょっと休憩したりですね、そういう人たちなんですね。

それから、この周辺、西区も含めて、この周辺の若いファミリーは、子供がよちよち歩きするようになったら、最初にちょっと広いところへ連れていったろうかなあというのは明石公園が多いんですね。私もそうでした。

で、いろんな利用のされ方がしている。マップを見ても、10か所ぐらい出入口が、裏表、東西南北にありますが、それぞれの出入口から皆来ているんですね。

で、これも私の私的な記憶なんですが、何十年か前に、余命幾ばくかという自分の親をですね、まあ、死ぬ前にもう１回明石城へ連れていったろかみたいなことでですね、母親を連れていったことがあります。で、自分のおかんがこの明石城を見るのも今日が最後かなあって思いながらね、そんなことは親には言いませんけど、そういう散歩者もいると思います。

１人で絵を描いている人もいるし、何となく楽器の練習をしている人もいるし、まあ、様々ですね。それが一番最大多数派だと思うんです。

野球場へ行くとか、陸上競技場へ行くとかいうのは、そういう目的行動で明石公園に来る方なんで、むしろ数でいうと少ないんですわ。

その次に、ボートに子供を乗せてやろかみたいなのが剛ノ池界隈にいます。

この辺を、一応、管理責任を委ねられている県庁の方々もですね、よく改めて考えていただきたいんですね。ですから、特定のグループ、特定の目的行動の方々がですね、主役じゃないんですね。

で、一番最初、何か月か前のときには、何とか体育連盟とか何とか何とか団体とかね、そういう方々がご発言になりました、割と。それはそれでいいんです。もっともなんですね。それぞれ、もっともなご発言をされておりました。

だけど、一番多数派は、さりげなく通り過ぎたり、さりげなく休憩したりですね、している人たちなんです。そこのところが、やっぱり、県庁の方々もちゃんと分かっていただきたいと改めて思います。

で、市民参加、一般参加をもうちょっとだけ、スマホとかインターネットの時代でもありますから、もうちょっと何か形にできないだろうか、これをぜひですね、県のご担当の部署の人たちも、それから、業務受託者であると言われている公園協会の事務局も、それを下支えすることを考えていただきたいと思います。

それから、もう１つ、２つ目、これはですね、お金もかからん、やる気があったらすぐできるんとちゃうかという部分、管理維持に関係する部分なんですが、幾つかあります。先ほどからも、いろいろ、草刈りの問題とか、いろいろ出ていました。全部そうですね。

で、草刈りはですね、性格の悪い私に言わせると、木を切り過ぎたって非難されたんで、草刈りは手を抜いたんちゃうかと、個人的には頭の中で冷やかしていました。

で、その辺をね、お金がかからず、すぐできることをしてほしいと。

例えば自動販売機。１つだけ申し上げます。今、カメラつき自動販売機というのがメーカーから出されています。これは明石公園の中には１つもありません。そうすると、防犯カメラの役になるんですね。だから、そういうようなこともできてない。

それから、最後に１つだけ。AEDの設置個所は６か所あるようですが、公園内の掲示看板にちゃんと表示されておりません。AEDがありますということが書いてある看板もあるけど、書いていない看板もある。それ、日常業務でですね、怠っているわけですよ。手抜きになっているわけですね。忘れているわけです。

こういう、今すぐできるようなことを、管理維持という部分でしっかり担当部署はやっていただきたいと思います。

以上です。

○髙田知紀部会長

柿原さん、どうもありがとうございました。（拍手）

じゃあ、続きまして、松本さん、お願いいたします。

○松本誠

松本誠です。

私は、今日のこのヒアリングで３つのことを申し上げます。

１つは、私自身は、先ほどの子どもの村の話であったように、明石公園に隣接する錦城中学校から100メートルぐらいのところで、75年余り、そこで暮らしてきましたが、仕事柄、この間、20年ぐらいは違うところで住んだことがありますが、言わば人生の半分以上をここで暮らしています。

言わば、小さい子供の頃から、明石公園は私の庭である。これは私だけじゃなくて、明石公園の、言わば、西明石から東側に住んでいる人たちにとっては我が庭なんですね。

言わば、この価値はですね、１つ１つの植物や、あるいは生物の、希少な生物の宝庫であるということは非常に重要なことでありますが、しかし、希少種だけじゃなくて、そこ

にある緑や、あるいは虫や鳥などというものの全てが、言わばトータルとして、空気のような存在として、慈しんできたり接してきたと思うんですね。

で、そういう意味では、私たちは、この明石公園の自然を考えるときには、生物的な価値、専門家によるいわゆる生物的な価値だけではなくて、明石公園を我が人生の庭として慈しんできた人々、いわゆる、かけがえ、暮らしのかけがけえのない空間としてきたですね、無数の市民にとって、この明石公園は丸ごと非常に重要な、ここの動植物は丸ごと大事なものであるという、これを強く訴えておきたいと思います。

２つ目は、実はこれは、つい先日、公園問題の専門家から話を聞いて、あっ、そうかというふうに合点したので、ひとつご紹介をしておきたいと思います。

それは、公園というものは、都市を、都市の風格を表すものであると。なるほど、世界中、イギリスにしてもアメリカにしてもですね、ヨーロッパ各国にしても、そこの国の象徴的な公園、その地域の象徴なんですね。

公園が非常に風格のある、品格のある公園であると、やっぱり、そのまち、その国、都市、自治体が非常に風格が高くなる。逆に、逆の場合には、その都市や自治体、まち、国の風格が言わば非常に低いということになってきます。そういうことですね。

で、現在、特に現在、今現在、世界でそういう風格が何でもって測られているかっていう話を聞きました。３つの価値があると言われています。

１つは、ワンヘルスというキーワードです。１つの健康なんです。何のことかというと、いわゆる動植物と人間の健康というのが１つのものであるということです。

これは、現在の、私たちが3年間苦しんできた新型コロナウイルスの感染症のパンデミック、これが、動物と人間との関係から発している、動物の世界に人間がいわゆる土足で踏み込んでいって荒らしてきた、そこから動物のウイルスが人間の世界に移ってきたという話は既にご承知だと思いますね。

そういう意味では、これからのですね、新たなパンデミックを防ぐキーワードの１つとして、人と動物の健康と環境の健全性を１つのものとして考えるということが大事であるというのがワンヘルスです。

２つ目が、２つ目は、プラレタリーヘルスです。プラレタリーは地球です。地球環境の限界の中で、どのようにして生態系を維持していくか、人間の健康と社会の存続を生かしていくかというこの継承、これに対応したまちづくりであり、その中での公園の価値を見出すということが２つ目です。

３つ目は、エコヘルスです。エコヘルスというのは、もうご説明の必要がないと思いますが、人間の健康というのは、その生態系によって規定されていく、生態学的、環境学的な見方でですね、このエコヘルスという、この３つのキーワードを大事にしない国や自治体というのは極めて品格が低いということを伺いました。

そういうようなことを考えていきますとですね、私が最後に申し上げたいのは、この国の、あっ、この公園の豊かな自然を丸ごと保全していく、そのためには、専門家だけでは

なくて、多様な市民が、公園のあり方や整備計画、運営管理について発言していく、その意見を基に、単なる意見を聞くだけじゃなくて、その意見を、合意形成を図って意思決定に生かしていく。

明石公園をどうするかっていう計画づくり、明石公園の日常の管理運営をどのようにしていくかという計画、管理運営のですね、仕方についての意思決定に反映していくという仕組みが必要だろうと思っています。

この検討委員会が、そうしたことをこれから議論されるに当たって、ぜひ、意思決定に市民が参画できる、意思決定に地元の自治体、基礎自治体が参画できるっていうふうな仕組みをつくっていただきたいというふうに思っております。

ありがとうございました。

○髙田知紀部会長

松本さん、ありがとうございました。（拍手）

では、続きまして、縄さん、お願いします。

○縄雄介

明石に住んでいます縄雄介と申します。

子供のときから、ずっと明石公園は遊んできて、今も、笠間先生とも高校野球でいつもお世話になっています。

今回の問題は、最近問題になっている樹木の伐採のことなんですけど、市民にも説明がなく、僕、最近、明石公園はいつもぶらぶらしていて、で、最近ちょっと明石公園へ行ったときに、樹木が伐採されていて、どうなっているんだろうと思って、そのときに、新聞報道で、何か切られたということで、ちょっと気になっていて、この間、ちょっと意見書に書かせてもらって、で、市民のアンケート、市民とか利用者に対してのアンケートが適切になっているのかも、あと、樹木がどういうふうに活用されているかも、ちょっと僕は分からないので、僕としての意見は、しっかり計画を決めて、今後、樹木を伐採するのか伐採しないのか決めていただきたいと思っています。

ありがとうございました。

○髙田知紀部会長

縄さん、どうもありがとうございました。（拍手）

では、お三方、発表いただきましたので、ご意見、ご質問などがございましたら、いかがでしょうか。

ちょっと、じゃあ、私から。

縄さん、最後にご発表いただいて、ありがとうございました。

木が切られて、何かこう、どういうことが残念だと思われたのか、何か、もうちょっと

お聞きしたいなと思ったんですが、先ほど、ちょっと、日陰がなくなったとか、ドングリを拾えなくなったとか、ちょっとこう、景色が変わっちゃって自分としては残念だとか、何かいろいろあると思うんですけど、何か、どんなところが一番気になりましたか。

○縄雄介

僕、いつも、明石公園の明石城をいつも見に行っている。この間も、ちょっと、８月、２か月前にちょっと上っていて、何か黒い部分が残っているから、なんでやろうと思って、で、前にちょっとテレビで、何かもう、樹木が伐採、根元ごと伐採されているということで、そのことで、ちょっともう、泉市長がわざわざツイッターで、どういうことになっているかっていうことで、この間、４月にも、県知事に、何か、中止してほしいっていう要望をしていた。

その後も、ちょっと、何か、どうなっているか、齋藤知事とも意見がどうなっているかも気になっているし、もう、今後、県が、県知事が、中止、一旦は計画は止めると言うとるけど、その後のことが全然全く分かっていないから、この部会としては、もう、樹木を残すのか、また計画を見直すのか、それはちょっとまた考えてほしいと思っています。

○髙田知紀部会長

はい、分かりました。ありがとうございます。

この明石公園の部会っていうのは、今、縄さんがおっしゃってくれたような経緯から、ほんとにこう、利用者とか、いろんな関係者で議論して、明石公園の、樹木も含めた明石公園全体をこれからどういうふうにつくっていくのかっていうのを話し合う場で、まさに今おっしゃった計画とか明石公園のあり方の将来像を描いていく、そのきっかけになるような場なので、今すぐ、木を切るか切らないかとか、あるいは、100ゼロの話でもなくて、どういうふうにしたら明石公園がよくなっていくのかっていう中に、木をどういうふうに管理するのか、鳥とか虫とかをどういうふうに残していくのか、お城もどうしていくのかっていう話を今しているところということなんですね。

なので、ちょっとこう、あまり、市民として、ふだん明石公園を使っているのに、あの議論はどうなっているんだっていうのがあまり見えてこなかったから不安だということだと思うんですけど、これから、こういう場で意見を言ったりとか、みんなで話し合う場っていうのはつくっていきたいなというふうに思っています。

○縄雄介

僕も、子供のときから、ずっと、明石公園をいつも、高校野球があったときは、いつも見に行って、で、この間もちょっと、ちょっとイベントがあって、明石城へ上がったときに、もう何か、根元ごと伐採されて、もう黒い何かがあったから、どうなったんやろうと思ったら、何かもう、根元ごと伐採されて、もう黒い何か薬でされているから、で、専門家の人が、

それはあかんやろうと。もう気になって、今日発言させてもらいました。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。そういう、気になった声を上げていただくのはすごく大事なので、今日はありがとうございました。

○縄雄介

ありがとうございます。

○髙田知紀部会長

ほか、いかがでしょうか。

じゃあ、永井さんですかね。

○永井俊作

松本さん、都市の風格、公園の風格という話がありましたけど、私は、もうほんと、明石の風格以上の風格を明石公園は持っていたと。で、明石公園の高台からね、明石海峡、それから淡路島、ほんとすばらしい景色だったんですけど、100階建てのタワーマンションとか高いマンションができて、それがだんだん見えなくなって非常に残念だなあと。

ただ、やっぱり、公園に入りましたらね、もう樹齢300年、400年のクスノキ、で、石垣周辺の木というのはすばらしいなと思っていたんです。ところが、そのクスノキも背低く切られちゃって、で、石垣はきれいに見えますけど、やはり、石垣と緑とがあるから、バランスなり風格があると思うんですね。

そういう面で、伐採された後、明石公園の風格がどうなったか、その辺、ちょっと、意見を聞かせてください。

○髙田知紀部会長

はい、松本さん。

○松本誠

ありがとうございます。

ご承知のように、明石公園というのは、この明石市、まあ、特に中心市街地にとってはですね、明石市の総合計画でも位置づけられているように、２つのランドマークの１つなんですよ。だから、海のランドマークというのは、明石港、明石海峡、淡路島の景観とあって、明石の港であると。

もう１つの陸のランドマークが明石公園です。まちのどこからでも明石公園のあの緑とお城が見える、こういう景観がですね、かけがえのない、明石のまちの品格を示すランドマ

ークであったというふうに思っています。そういう意味で、あの白亜のお城が見える、そして、公園の緑がですね、うっそうと茂った緑が、まちの中からも海からでも見えるという、この景観の保全を考えなければいけない。

で、今回の伐採は、言わば、その中の微小なですね、石垣の見栄えだけよくしようなんていうところにこだわってしまったがゆえに起きた悲惨な惨事やと思っています。

で、私は、緑をどのように保全していくかっていうことについては、２つの側面を大事にしなければいけない、先ほど少し触れましたけども、もう少し詳しく言うと、１つは、やっぱり、１つ１つの木々にはそれぞれ意味がある。だから、さらには、木にしても生物にしても、希少種、希少な樹木であったり希少な生物をきちんと保全していくということはとても大事なことであると。

しかし、それだけでは駄目ではないかというように思っています。で、必ずしも、人々、空気のような存在である明石公園を愛してきた人たちにとっては、希少種だけじゃないんですよ。いわゆる、そこにある自然の生物、植物や植生や、あるいは昆虫や鳥などが全体として自然界を形づくっている、そこに明石公園の大きな価値があるんです。

１つだけ、ちょっと具体的な話をしたいと思うんですけども、もう30年余り前の話ですが、ちょうど私が住んでいる地域のある高齢のご婦人、亡くなりましたけども、がですね、今の弓道場がある、一番、明石公園の奥の、子どもの村の北側にある弓道場をつくった頃、弓道場をつくるときに、あの子どもの村と弓道場のあの一帯がですね、アカシアの林やった。で、実は、それは、アカシアといってもニセアカシアだったんですね。

だけども、そこを毎日散歩している住民にとっては、非常に、あのアカシアの林を歩くことが私の唯一の楽しみやったというふうなことを新聞に投書していたんです。で、私がそれを取り上げて議論の問題に一石を投じたことがあったんですけども、そのときに、ある、植物、生物の専門家と称する人がですね、松本さん、あれはな、ニセアカシアやねん、何の価値もないんやいうて、事もなげに私に言ったんです。だから、それは、そんな馬鹿な話はないという形で大論争した記憶があります。

言わば、専門家から見たら何の価値もないものであったとしても、その、やっぱり、自然界と付き合ってきている住民にとったら、それはかけがえのない、自分の環境なんです。暮らしと一体となった空間なんですね。そういうふうな視野も必要じゃないか。

先ほどの子どもの村で木を29本伐採する、これはええ、これは悪い、切ったらいかんのはどれやという、これは、貴重なものについては残さにゃいかんと思う。

だけど、それ以外のものについてもですね、１本も切ったらいかんなんて言うとるんじゃなくて、やっぱり、そこを愛している人たちの気持ちをですね、反映しないと、樹木管理というのはうまくいかないし、下手をしたら、今回のように大騒動になるということを申し上げたわけです。

そんなことでよろしいですか。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。

ほかは、いかがでしょうか。

お願いします。

○和田太郎

品格ということで、ちょっとお尋ねしたいんですけれども、僕が思うには、明石公園の木っていうのは、大体80年ぐらいの木じゃないかなあと思っているんです。

その中で一番、どういうんか、気になるのが桜なんですよね。桜が、もう、ほんとにもう、どういうんか、もう、どっちかいえば見苦しいんですよ、私から見れば。ほんとにもう、何か、寿命が来ているんですよね。あれは、ソメイヨシノなんちゅうのは、そんなに長いこと生きるものじゃないし、そういうのは、うーん、もう、とっと、とっと、もっと入れ替えるべきじゃないかなと私は思うんですけどね。

○髙田知紀部会長

まあ、いろんな意見があるとしか、なかなか。

はい、松本さん、全ての樹木を大切にという立場ですが。

○松本誠

非常に私もその件については関心が高くて、明石公園の桜守をやっている住民の人たちとも話したこともあります。

で、実は、今のご意見と若干違うんですけども、僕は、もう非常に衰えて、私の家の庭にも、樹齢70年の桜、言わば、幹が１本掘り込まれてしまった、そんなのがある。それでも、やっぱり、子供、孫のひこばえが育って、親を、おじいさんを支えているんですね。で、毎年、いっぱいの花を咲かせてくれます。

だから、老木が、僕は、それはもうあかんねんと言っちゃいけないしね、で、高齢者は生きる価値ないやんと言われたら困るんですよ。だから、やっぱり、全国的に見ても、非常に、桜としては、考えられないくらい長い年月を生きて、人々を楽しませている木はあります。老木は老木なりの価値があります。

ただ、世代が交代していくような、そういうこともきちんと考えなきゃいかんというふうに思います。

ただ、最近、気になるのは、桜ばっかり注目されて、桜だけを残して桜の公園にしようという考え方については、これはもう一度議論が要るんじゃないかと思っています。そういうね、桜さえいっぱいあればいいんじゃなくて、やっぱり、総合的なバリエーションのあるのが自然豊かな公園なんだろう、そういう公園が都市の風格を物語るんだろうというふうに思います。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。委員の皆さん。

じゃ、渋谷さん。

○渋谷進

すいません、都市の風格ということなんですが、私は海外にいたことがあるので、ちょっと事例を紹介したいんです。

カナダのオタワというところにいました。首都です。で、首都としては、東京のように大きなところではないんですが、周りの自然がすごいんですよ。国立公園が、すぐ、車で15分ぐらいのところで行けます。何にも手をつけていません。

で、雪が降って、冬に、暖かくなって、その後また寒くなります。凍結して樹木が倒壊します。でも、そのままです。春になって、ようやく何とかするというような状況にしているんです。とにかく、手をつけずに景観を守るということに徹しています。それがいいんです。

当然、冬の間は入れませんけれども、５月中頃ぐらいになると、公園の中に入れる。で、新芽が芽吹く、それを皆さんが楽しむ。

秋になれば、紅葉の季節です。日本のあのモミジとは違います。ダイナミックです、葉っぱが大きいので。で、そこで皆さんが紅葉を楽しむ。サイクリングも楽しむ。トレッキングもしている。

そういうのが、多分、都市の風格になってくるんだと思います。

それと、ニューヨークのマンハッタン島にあるセントラルパークって、まあ、だだっ広いんです。もう歩いたらしんどいです、実は、端っこから端っこまで。でも、そこにぽつんとあるというのが多分いいんだろうなと。

それと、ワシントンD.C、これはかなり人工的につくられていますけれども、広いです。見た景観が広いです。で、もっと大事なのは周辺なんです。ディストリクト・オブ・コロンビアですけど、その周辺は、州なんですけれども、結構いろいろ多いんですよ。

こういうことをトータルで考えた場合、明石公園は県立ですのでね、周りを考えてほしいんです。明石市だけじゃなくて、北側に神戸市西区があって、東側へ垂水区があって、南は明石海峡で、その向こうには淡路島があります。

最近、淡路島、明石海峡の向こうへ淡路島が見えるなんて言われず、揶揄されることがあるんですよね。明石海峡の向こうにパソナ島が見えるというふうに言われちゃうことがあるんですね。で、もうここね、ここなんですよ。明石海峡から見たらパソナ公園があるなんて言われたら絶対駄目なんですよ。

このまま何とか残す、維持管理する、そこが大事なんじゃないかという、それが都市の風格、品格になるんじゃないか、長い目で見て、そういうふうに思います。

以上です。

○髙田知紀部会長

ありがとうございました。

じゃ、柿原さんですね。

○柿原辰郎

先ほども申し上げましたけども、何回か回を重ねている間に、何かこう、問題意識とかね、それから、していること、していないこと、ちょっと忘れているんとちゃうかみたいなことも、だんだんこう、共通認識ができてきたような気がします。そういう意味では、ある種、合意形成のプロセスをですね、ちょっと進んでいるのかなあと思います。

で、私はですね、さっきも申し上げましたけど、渋谷さんや松本のおっしゃること、全部、私も言いたいです。言ってくれていますんで、尊敬しています。感謝しています。

で、私はね、実践のほうを主に考えています。９月25日の明石城の草刈りイベントに私も行きました。草を刈りました。子供の頃から慣れているんで、草刈りは得意中の得意の１つなんですが、そこで考えたことは、さっきもご紹介がありましたけれども、極端に言えば、高校生だけじゃなくて、中学生にも小学生にも、みんなに、庭ってきれいにするのにはこういうこともあるんやなあとかね、あるいは、町内会でもありますね、この秋から年末にかけて、枯れ葉とか、それを、水をきれいにしましょうとか。

だから、庭をちゃんと維持するためには、そういう手作業が必要なんだということをですね。だから、関心を持ってもらうということはものすごく大事なことですね。

それから、虫はどないなっとるんやろう、ミミズはどないなっとるんやろうと。で、ミミズが減ったら、鳥も同じにようになるなとかね、いろんなことに学習が広がっていくと思うんです。

で、ただ、それはそれでいいんですが、実際は、石垣に絡んでいる草はどないして切れるんやろう、ああ、あそこまではい上がってしまっとるツタはどうしたら掃除できるんやっていうのは、これは実務なんですね。

ここのところを、やっぱり、公園管理あるいは受託業務に参画している方々は、いろいろ考えていると思うんですけれども、やっぱり、あえて我々と言いますけど、我々、一般の人間ともですね、どうしたらええかということを実践的な部分で考えてほしいんですね。我々が参加しやすいように、事務局が呼びかけてほしいんですね。

で、それがあれば、勝手に誰かが偉い人の命令で木を切りやがって、みたいなことにもならないと思うんですね。これは、やっぱり、前知事や前任者の、まあ言うたら、ちょっとした、お役所の中の論理だけで動いてしまった。築城400年やから、お城を、照明してきれいに見えるようにするんやから誰も反対ないやろうという浅はかな行動でやってしまった。

だけど、おっとどっこい、自然を大事にするという世界中のトレンドを忘れていたという

ところですよね。だから、そこのところはちゃんと、市民とどうしていくかということを考えてほしいんです。

で、さっき、箇条書き的に二、三言いますが、AEDの表示が城内に大変不足していると。

それから、防犯カメラも、数か所あることは確認していますが、あの場所でええんやろうかと。ほとんど南半分に偏っています、自転車競技場と図書館以外はね。

とかね、防犯カメラは、何もカメラをつけんでええと、金かからんでええと、使わなくていい、自動販売機でもええやないかということはあると思うんです。とか、いろんなことがあると思うんです。

それから、前も言いましたけど、車椅子がもっと出入りしやすいように、11の出入口を全部きっちり点検してほしいと思います。

僕は実践的なことばっかり申し上げますけど、草刈りの技術は我々が教えます、中学生にも小学生にもね。

○髙田知紀部会長

ありがとうございました。

大体時間になったんですが、委員の皆さんも、何か、これだけはということがございましたら。

じゃ、嶽山委員、お願いします。

○嶽山洋志副部会長

都市の風格のお話、これも、我々がランドスケープとか造園とかをやっている中でよく出てくる話ですけれども、風景の善し悪しっていうのは、やっぱり、見る側の人の教養とか経験とかですね、そういったところによることが結構多いっていう話で。

で、先ほど来からちょっとお話に出ている教育、子供たちにどう経験させていくかとか、そういったところが実は大事になってくるんじゃないのかなあというふうに、今の議論を聞いていて思いました。

で、ちょっと、アンケートを今取っているという話をしたけれども、実際問題、取ってみるとですね、さっきのアンケート、200人ぐらい取っているというところを見てみると、やっぱり、なんだかんだ言って、石垣、よかったっていう答えが多いっていう実態もあって、で、それはどういう感覚なのかまではちょっと調べ切れていないですけれども、切って、すっきりしたよねっていうふうな、でも、それがあることによって、どういうふうなことが失われているかとかっていうところまでは、深く考察はできていなかったり。

で、一方で、もう１つの項目でいくと、切るべきなのか、石垣を残すべきなのかみたいな、ちょっと厳しい問いとかもあるんですけども、その中では、もう、両方を大事にしてほしいということに答えが圧倒的に集まったり、ちょっと、結構、人々の気持ちの中でも結構矛盾しているような感覚みたいなところを持ちながら、構成をしているというのが1つあるのか

なというふうにも思ったりしている部分があるんですね。

で、風格ある風景っていうものを、人々が来て、海外とかは、もう、やっぱり、そういうところの意識が高いですので、で、この場所に来たときの風景のよさみたいなところは、自分の経験であったりとか知識の下に分析をしたりとかっていうことができるのかなあというふうに思ったりするので、やっぱり、そういう、こう、体験とか教育とか、そういったようなところにもっと力を入れていくっていうことが１つは大事かなあというふうなことと。

で、もう１つ、公園というところが、参加しやすいという話が一番最初にあったと思うんですけども、これを、やっぱり、支えていくための、いろんな道具の支援であったりだとか、活動を支えていくためのあり方みたいなことも、県であったり協会さんであったり管理者であったりというところはちょっと考えていく必要があるのかなあと。

みんなで参加してやっていきましょうと言っても、草刈りのときは、みんなが持ち寄ってされていたのかなあというふうに思いますけども、そういったところでも、公園側から、こういう道具があってみたいなところのサポートであったりとかというようなところがひとつ、ほかの公園ではちょっとあったりとかもするので、できなくもない話かなあと思うので、そういったところの下支えを管理者の側もしっかり考えていくということが非常に大事かなあというふうなことを、聞いていて思いました。

○髙田知紀部会長

ありがとうございました。

では、時間になりましたので、第２グループの皆さん、どうもありがとうございました。（拍手）

午前中の予定は以上ですね。

○事務局　小山

すいません、皆さん方のご議論、効率的にやっていただきましたので、予定より少し早めに午前中の議事は終わってございます。

この後、昼食休憩に入りまして、午後の日程は、予定どおり、13時30分ということで始めさせていただきたいというふうに思います。

それでは、一旦、解散とさせていただきたいと思います。

［　休　　憩　］

◇第３グループ

○事務局　小山

それでは、定刻になりましたので、引き続きヒアリングのほうを進めていきたいと思います。

議長、よろしくお願いいたします。

○髙田知紀部会長

では、午後の部を再開したいと思います。

第３グループになりますね。和田さん、奥津さん、坪谷さん、３名の方は前のほうにお願いいたします。

座ってもらって結構ですよ。

じゃあ、和田さんからお願いします。

また、後ろにタイムキーパーの方がプレートを出していただきますので、ベルでも時間をお知らせしますので、気にしながらお願いします。

では、和田さん、お願いします。

○和田太郎

すいません、こんにちは。和田といいます。どうぞよろしくお願いします。

私は、ちょっと何か、明石公園の、明石公園の１つの、どういうんですかね、市民というんですかね、そういう立場になるんちゃうかなと思うんです。

といいますのはね、民法でですね、管理不全土地管理命令ということですね、民法264条の９というのがですね、去年から、改正されて、そういう条文ができてきているんです。で、それが、結局、来年の４月１日で施行になるんです。

だから、そういうことから言えば、結局、火事とおんなじで、きっちり管理しなければ、そういう、どういうんか、管理不全土地管理命令というようなものを家庭裁判所に請求することが、被害を受けた人、周りの人ですね、が要求することができるような、そういう、民法が変わってきています。

で、それ家を踏まえてですね、私が気になるのはですね、明石公園の外堀のカモについてですね、一応、カモ100羽ほどですね、夕方になると、100羽以上かな、帰ってきています。それで、主にウバメガシだと思うんですけども、それの葉先なんかもちょっと枯れてきたりしています。

それでですね、今は何も別に問題になっていないみたいですけども、どんどん、これからカワウとシラサギが増えてくると思うんです。もしかしたら、今でもですね、駐車場とかですね、そういうところに、糞とかが落ちているかもわかりません。そういうことで、被害がもしかしたら出ているんじゃないかなあなんて思ったりもします。

そういうところで、どういうふうにこれから対応していくのか、有害鳥獣駆除なんて、よう出せらんと思うんですけれども、できたら、私が思うのは、あの土塁の上ですね、人が歩けるような格好にでも、散歩でもずっとできれるような格好にでもしてもらったら、追い払うことができるんじゃないかなと思うんです。

それも、どちらかいえば、カモが来るまでの間に特に通ってもらって、カワウとかに嫌が

らせをするとかですね、そういうことをちょっとまた考えてみていただけたらと思います。
それと、もう１つですね、気になったんがですね、この中で、土塁っていうんですかね、何か、これまでの取組における樹木伐採の根拠ということで、明石公園城と緑景観計画、平成29年７月策定とかで、石垣の保全、石垣の上にいっぱい植えてあるウバメガシが将来的に物すごい問題になる、すぐに伐採したほうがいいっていって書かれているんです。
それで、もしかしたら、ウバメガシがいっぱい生えていたら、やっぱり土塁になるんちゃうかなあと思ったりして、それで、ものすごい問題になる、これがもうひとつ、どうも納得がいかなくて、どんなことになるんかなあなんて思うんですけども。
ただ、堀っていうのは、何か、昔、ビニールシートを敷いてあったんですね。で、それで、言わば水草とかをですね、入らんようになっているらしいですね。
それと、もう１つ気になるのは、喜春橋ですね、そこにウバメガシがですね、枯れているんですね。昨日見たら、大きな木なんですけど、枯れているんです。それを、ナラ枯れでやられているんですけど、どうしてあれだけ残されているのか。切ったりどうこうしてますけど、どうして残されているのかなあと。
だから、そういうナラ枯れ、これから枯れていくやろけど、どれぐらいナラ枯れが広がっていくのか、これがどういうふうに捉えられて対応していくのか、そこら辺のことをもうちょっと何か教えてもらって、それでないと、ちょっともう、公園内のほとんど、ナラ枯れがはびこっていますので、それがほかの人の家の庭とかにですね、飛び散っていったら、管理不全とかという命令書を請求される立場になるんちゃうかなと思っています。
そういうことです。

○髙田知紀部会長
ありがとうございました。（拍手）
では、続きまして、奥津さん、お願いします。

○奥津晶彦
こんにちは、奥津です。
今日は、ちょっと、５つのことをちょっとお話しさせていただけたらなと思って、ちょっと、１つずつ手短に話させてもらいます。
まず、私、ずうっと長年、子供のときから明石公園を昆虫中心に見てきたんで、その観点からちょっと話、ちょっとまあ偏った話になるかもわからないんですけども、させていただくと、明石公園って、やっぱり希少種がすごく多いんですね。
で、今まで話もあったように、希少種、それがやっぱり生きていくためには、普通種っていうのがすごく特に大事になってきます。で、結構有名なのがキョウトアオハナムグリっていう昆虫なんですけども、これ、ネットとかで調べてもらったらいいと思うんですけども、もう、ほかではめったに捕ることができないのに、１本の木に、明石公園で8匹と

か昔いてたんですね。

ところが、ちょっと、今回、ちょっと残念なことに、こうやって、いっぱい、これ、明石の、東の丸ですかね、もう、そういうところ、明石駅が見えるところなんですけども、こういう形で、たくさんの虫がいた木が無残にも切られてしまったんですね。

まあ、それで、木が切られてしまって、もう済んだことはちょっと仕方がないとは思うんですけども、この辺を含めて、希少種だけを守るんじゃなくて、一般の種類の虫も守っていってもらう、それが大事かなと思います。

で、２つ目の話で、生物、生き物全部そうだと思うんですけども、昆虫は、すごい微妙なバランスで生きています。例えば、ちょっと、一方の、よくある例が、その虫だけ、ちょっともう絶滅しそうだから守りましょうという話があるんですけども、その虫だけ守ろうとして、結局、その虫も絶滅させてしまったという例は数多くあります。

で、その昆虫が食べる草だけを置いとったらいいやろうって、ほかにもあるからこの10本ぐらい切ってもいいやろうということで切ってしまったために絶滅してしまったという例も数多くあります。

というのは、なぜかというと、やっぱりね、近くに同じ木があったとしても、そこのやっぱり風向きだとか、周りのひなた、日陰の関係、そういったものがすごく大事になってくるんですね。

で、例えば、チョウチョでしたら、一番最初、やっぱり、餌、チョウチョになったときに蜜を吸う花が近くにあって、で、やっぱり、ひなたがあって、体を、変温動物なんで、体を暖めるひなたがあって、でも、ひなたばっかりやと今度は暑いから日陰があって、それがいいんです。

ちょっと水がしみ出たような石っていうのも実は大事なんですね。昆虫もミネラルを吸収します。だから、そういった水がちょっとしみ出たような湿った石っていうの、そういったものも大事になってきます。

で、日が今度当たり過ぎたら、今まで、周りの木をちょっと、趣旨とは関係ない木を切ってしまったために、日が当たり過ぎて、植物の成長速度が逆に速くなってしまったために、幼虫が、生まれたての幼虫は、やっぱり、軟らかい葉っぱしか食べれないのに、成長速度、植物の成長速度に追いつかずに、硬い葉っぱしかなくなってしまって、幼虫が食べれなくなって餓死してしまう、そういったこともあるんで、その昆虫が食べる草だけ守るんでなくて、やっぱり、その環境全部、全てを守っていただきたいなというふうに思っています。

明石公園は、もう残念なことに、たくさん木が切られてしまいましたけども、それによって、ちょっと、私、この前も、自然観察会で、保育園の人とか小学生の人を連れていったんですけども、スズメバチがですね、今までやったら、この木に結構いるから、この木だけちょっと避けて行こうとかと思っていたのが、もう、木を切られてしまったから、いろんなところに分散してしまっているんですね。

１か所に今までやったらスズメバチが何十匹といたんですけども、どの木にも、中途半端に、５匹とか10匹とかっていう形でもう分散してしまっているんで、どこが、どこの木やったらゆっくり安心して見れるエリアかっていうのがすごく限られてしまっています。

で、あと、もう１つ、東の丸のところの北側、桜堀のちょうど石垣があるところなんですが、あそこの木を全部切ってしまったために、ちょっと、この前、観察会とは別なんですけども、見たら、子供がその中に入っていっているんですね。

結局、今まで木があったから、あんまり中に入らなかったのが、木が切られたために、入っていって、あの奥って、多分、崖なんで、すごく危険かなと思うんですね。その辺の安全面というのも、ちょっと考えていただけたらと思っています。

で、次、今の環境、明石公園で、よく、いつまで戻したらええんやと、いつの時代まで戻したらええんやということをちょっと聞かれます。私としては、今のまま、現状維持をしていただきたいなというふうに思っています。

で、お城ができたときっていうのは、それこそ松とかしかなかったですよって言うんですけども、その前っていうたら、明石公園というのは山やったし、森やったわけですね。ですから、いつまでに戻すかではなく、取りあえず、現時点では現状維持をしていただきたいなと思っています。

そして、最後、やっぱり、明石公園で一番いいのが、やっぱり、自然があり、史跡があること、そういった意味で、気軽に遊びに行けるっていうことで、自然と史跡が融合した公園でずっとあり続けていただきたいなと思っています。

最後にちょっと言いたいのが、人工物というのは、いざとなれば、数週間、１か月でつくれるんですけども、今回、残念ながら、ちょっと、切ってしまった木っていうのは、100年、200年かけてやっと育った木です。その辺で、もうちょっと慎重に対応していただきたいなと思っています。

ありがとうございます。

○髙田知紀部会長

奥津さん、どうもありがとうございました。（拍手）

では、続きまして、坪谷さん、お願いします。

○坪谷令子

よろしくお願いいたします。

前回、８月の公開ヒアリングでは、子どもの村のインクルーシブ遊具について述べさせていただきました。先生がさっきもおっしゃいましたけども、広場と自然をつなぐ形の遊具があればいいなというふうなことを述べさせていただきました。

で、９月の公園部会の傍聴にも寄せていただきました。で、そのときのことで、下のほうの公園の遊具も考え直していただけるのかなと思って、この、このでっかいカラフルな

これですかと思いながら。

で、話を戻しますと、９月の公園部会のときにですね、髙田先生が最後におっしゃったことに私はとても心を動かされました。

先生がおっしゃったのは、インクルーシブな場にしましょうと。で、私は、あっ、そうだ、子どもの村だけじゃなくて、明石公園全体がインクルーシブな場になればいいんじゃないか、それはすばらしいと、そのとき思ったんです。

それで、その思いの基になったのが、これからお話しする、明石公園、夜の明石公園に連れていっていただいたときのお話です。奥津さんに、虫探し、奥津さんに連れていっていただいたのは６月の半ばでした。

懐中電灯で木の幹を照らすと、ほんとに虫が光って、さっき見ていただいたように、美しいんですね。もう、なんというか、神秘的な感じさえしました。

で、１つ１つ、虫の名前を、こういうのですね、聞いていくと、なんというか、命の姿が見えるっていうのかしら、その１つ１つの小さな命っていうのがいとおしく感じるようになってくるんですね。

で、１本の木でも、朝と昼と夜とでは来る虫が違うし、それぞれが微妙にバランスを取りながら、すみ分けて暮らしている、その、なんというか、生きる場をつくり出しているダイナミズムっていうのは、とても人知でどうこうできるものじゃないと実感しました。

私たちにとっては、たった１本の木かもしれないですが、その１本の木がなくなればどうなるか。虫たちにとったら、ほんとに、今まで住んできた場所が失われるということなんですよね。

で、木と木の間の空間ができたら、日当たりの具合も違うし、それから風向きも風の強さも違ってくる、これは、なんていうか、生態に影響が及ぶって、それはすぐ分かるんですが、それどころか、環境の激変なんですよって聞かされて、びっくりしました。

しかも、虫だけじゃなくて、カエルや鳥や、行動の変化も引き起こすと聞いて、だんだん怖くなりました。バタフライエフェクト、そんなことまで思いました。

暗闇の中の虫たち、ほかの生き物たち、その気配を感じながら、暗闇の中にいるんですね。気配を感じながら、私は、心の中で、もうほんとに、人間の都合でたくさんの木を切ってしまって、ごめんなさいと謝りました。

で、私たちは、お花見なんていう、景観を楽しみますよね。でも、それは自明のことながら、自然からのたまものなんだと、ほんとに改めて心しました。

この春、私は、明石公園の桜が満開の頃に行ったんですね。で、なんていうか、石垣のところの桜がとても寂しそうに見えました。冬に行ったときは、みんな枯れ木だから、そんな、桜がどうこうとは思わなかったんですが、満開の桜を見てそう思ったんです。

どうしてでしょうか。石垣があります。で、ピンクの可憐な花をつける桜がいます。そこにね、そこに緑の葉を茂らせた木があってこそなんですね。それで絵になるわけです。つまり、この春のあの石垣の辺りは絵にならないということも感じました。何をやってい

るんでしょうねということです。

で、今回のテーマは自然環境保全ですね。でも、１つだけ切り離して考えられないのは、この明石公園にはお城と石垣があるっていうことです。先人たち、つくった人たち、守ってきた人たちが、その人たちの人知に満ちていて、ほんとにかけがえのない時間、空間を有している、そういうものですね、その歴史的建造物が、広大な敷地に、命に満ちた豊かな自然と共にあるっていうことですね。そこで人が憩うことができます。スポーツも遊びもできます。

このような明石公園こそ、まさに全ての命が輝くインクルーシブな場です。そもそも、公園というコウは公、みんなのものですよね。昔の人たち、私たち、未来の人たち、みんなのものです。生き物たちと人間、みんなのものです。できるだけ自然を自然のままに、もし必要ならば手入れをしながら、大切に守り育てていく、そのような道を進んでください。お願いします。

で、遊具のことも、未来の人たちに恥ずかしくないように、お願いしたいと思います。

キーワードは風格です。風格。明石公園が末永くすばらしいインクルーシブな場でありますように願っております。

○髙田知紀部会長

坪谷さん、どうもありがとうございました。（拍手）

では、お三方の発表について、ご意見とかご質問がございましたら。いかがでしょうか。

じゃ、嶽山委員、お願いします。

○嶽山洋志副部会長

質問ですけども、スズメバチの話で、もともとは1か所に固まっていたけども、分散を今してきているっていうことは、どの範囲ぐらいまで広がっているのかなあというようなことと、もともと、どこら辺でスズメバチが停滞、安定していたのかっていうようなことがもし分かれば教えていただきたいんです。

○奥津晶彦

スズメバチは、昔は幾つかのポイントがあったんですけども、多かったのが、東の丸でしたら、例えば、ある木、２本だけの木に集中しとったんですね。で、二の丸も、大体、ある1本、ごめんなさい、３本の木、あっ、ごめんなさい、昔は１本の木でした。ですけども、今は、もう、ほとんど樹液が出ていない、やっぱり、スズメバチは、昆虫の中で頂点なんで、もう一番いい木のところへ行っていたんですね。

ところが、もう、今はもう、ほとんど樹液の出る木っていうのがなくて、もう、自分で樹液を出すためにかじるようになってきた。で、いろんな木にちょっとずつ影響を及ぼしているんで、もう、それこそ、もう、どの木って言えないぐらい、もう、この木もあの木もスズ

メバチがいるわっていう形になっています。

○嶽山洋志副部会長

もともと東、このお城の上のほうに、スズメバチの拠点というか、それがもともとあった。

○奥津晶彦

あっ、そうですね、ごめんなさい、ので、同じ東の丸の中でも、いる木っていうのは大体決まっていたんですね。で、先ほど話が出ていました子どもの村のほうももちろんいましたし、図書館の辺りにも結構スズメバチが来る木っていうのはありました。でも、その木は1本の木に集中していたんですね。ところが、周りの木にも全部分散してしまっているっていう現状です。

○嶽山洋志副部会長

そうすると、そうですね、もう、結構、ルートで、お城の上を通ってとか、結構しはると思うんですね。その辺の危険性がかなり高まってきてしまっているみたいなところに今あるんですね。

○奥津晶彦

そうですね。で、やっぱり、ちょっとしか餌がないので、スズメバチも、結構もう、いろんなところを飛び回っていましたね、今年は特に。

○嶽山洋志副部会長

ありがとうございます。

○髙田知紀部会長

ほか、いかがでしょうか。

じゃ、兼光委員、お願いします。

○兼光たか子委員

ありがとうございます。

今年、私も、スズメバチがたくさん飛んでいるところを見ました。それはヤブガラシっていう植物なんですけど、植物の上に覆いかぶさるようにしていたんですよ。それにつく昆虫たちを狙って来るのかなと思ったんです。それを、目の前をどんどん通っているのを私はよく見ました。だから、木を切ったために、そういうのも影響があったのかなと思っています。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。

木を切ってスズメバチが増えた影響みたいなのは何か、そういう、ちょっとした環境の変化でね、虫の行動は大分変わるんでしょうけれど……。

○奥津晶彦

恐らくですけども、数が増えているかといったら、増えていないし、逆に、もしかしたら減っているかもわからないんですけども、私たちの目のつくところに増えているかなというふうに思いますね。

で、今までででしたら、もう、スズメバチは、自分のところの巣から、もう一目散に、樹液の出る、自分が狙っている木に行っていたんですけども、もう、今年からは、もう、それこそ餌が少ないんで、もう、あっちの木にも、ちょっとでも出ていたら行こう、こっちの木にも行こうかって順番に行っているし、今ちょっと兼光委員が言われたように、そういう、今も、ほかの花とかでも、花の蜜にまで、ふだんスズメバチは花の蜜のところには来ないんですね。花の蜜にも来ますし、ほかの、今言われたように、昆虫を狙って、そういったヤブガラシなりアキノタムラソウとかのところまでかなり出てきています。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。

私からも、ちょっと、昆虫の生息環境でお聞きしたいんですけど、現状維持が基本だっていうことを今おっしゃっていただいたんですけれど、例えば、今こう、午前中も草刈りの話が出てきたんですけれども、草を刈って管理したほうが虫がすみやすい生息環境ができたりとか、ちょっとこう、樹木とか草、植物にも手を入れることによって虫が生きやすくなるっていう側面もあるのかなと思うんですけど、何か、虫が生きるのに必要な樹木とかの管理って、何か、どういうことに注意したらいいのかなって、ちょっとお伺いしたかったんですけども。

○奥津晶彦

それ、一番実は難しいことでして、逆に、木を切ったために増えた虫、明るい開けたところができたために増えた虫っていうのももちろんいますし、そういった意味では、あの、逆に、木を切ったために、先ほど言ったように減った虫もいるんですけど、どういう虫が増えるか、どういう虫が減るかっていうところになってくると思うんです。

すいません、ちょっと。

○髙田知紀部会長

いいえ。私はすごく大事だなと思っていて、なので、奥津さんがこれまで活動されてきた

結果として、ここにこういう虫がいるよとか、明石公園でどういう環境を大切にして、こういう虫を守っていこうとか、そういう情報が共有されることによって、樹木とか環境の管理の仕方っていうのも、これから議論できていくようになるのかなと思ったりしたんですけど、それはそういう部分があるということですね。

○奥津晶彦

そうですね。ですので、現状維持っていうのが一番いいかなと思うんです。

なので、草刈りに関しましても、ちょっと賛否両論があるかと思うんですけども、今までどおりやっていっても、その草っていうのは、結局は、増えないにしても、残っていたわけで、一番問題になるのが、私のこれもう私的な考えですけども、外来種ですね、外来種の影響っていうのが多分おっきいと思うんですね。だから、外来種を中心に、草は駆除していってもらえたら、今の現状の昆虫相というのは、今もう減ってしまったのは仕方がないんですけども、これ以上変わらないかなというふうに思っています。

○髙田知紀部会長

どうもありがとうございます。

じゃあ、和田さん。

○和田太郎

私、子供の頃から、それから、子供とかを連れて山に行って、ドングリを取りに行くのに、クヌギとかを目指して取りに行くんですよね。そうすると必ずその段階でスズメバチがおるんですよ。ということはね、だから、今、ナラ枯れが流行っていますでしょう。だから、ナラ枯れの木やと、皆、木の汁が出ていますやろ。だから、いっぱい、どこにでも餌があるいうことですよ。だから、そんな感じじゃないかなと私は思うんですけど、だから、いっぱいどこにでも餌があるんやさかいに、それは、昔みたいに自分でかじる必要はないんやさかいに、それはええんちゃう、虫にとっては、特にスズメバチにとっては。

○奥津晶彦

すいません、よろしいですか。

ナラ枯れでできた樹液っていうのと、実際に、カミキリムシとかスズメバチがかじって出てきた樹液というのは実はちょっと違うんですね。ナラ枯れは、あくまで、ナラ枯れの菌も一緒に出てくるんで、そういった甲虫類とかスズメバチというのはあんまり好まないんですね、そういう菌が一緒におるから。

それで、ナラ枯れで、そうやって、一見、樹液が出ているなと思ったところを見てもらったらええと思うんですけども、ほとんど虫は寄ってきていないです。まあ、ゼロではないかもわからないですけども、確実に数は少ないです。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

じゃあ。

○奥津晶彦

逆に、すいません、和田さんに質問なんですけども、カワウですか、カワウがいっぱいいるから土塁をみんなで歩こうという話があったと思うんですけども、土塁って、ちょっと、やっぱり、みんなで歩くと、土塁って多分壊れやすいと思うんですね。その辺とかを考えたら、何か別の方法のほうがいいかなと思うんですけども、土塁をみんなで歩こうと思われたのはどうしてですか。

○和田太郎

なんで西堀の辺りにおるかというのは、やっぱり、人間がね、人間が一番近づかないところだから、だから、前に言いましたように、30メーター離れたところに近寄ってきたら、カモは飛び去っていく、カルガモとかね。ところが、あの堀の幅を見ていたら、28メーターで、そこへずうっと、なんていうかね、枝が張っていて、池をちょっとカバーしているから、何とかそこにカモがおる。

ところが、カワウがその上にどんどん巣作りしますと、だから、枯れてしまって、木がなくなってしまう。そういうことになると、カモがいなくなる。だから、人間がとぼとぼと歩いたりすれば、そろそろいなくなると思うんです。

で、どうしてもかなわないということであれば、モウソウチクね、ああいうの持ってきて、それで、どういうんか、朝、散歩する人に、ぽんぽんぽんと追っ払ってもらう、そういう格好のほうが一番いいんじゃないかなと私は思います。

○髙田知紀部会長

よろしいでしょうか。

ありがとうございます。市民同士の対話も何かいい感じですね。

坪谷さん。

○坪谷令子

質問ではありません。

私はほんとに虫のことを知らなくて、キョウト何とかっておっしゃったじゃないですか。

○奥津晶彦

キョウトアオハナムグリ。

○坪谷令子

それが、チョウか虫かも分からないぐらいの人間だったんですね。それでね、さっきも申しましたけども、名前を知ると、とっても命に近づくじゃないですか。人間でもそうですよね。

で、つまりね、私が思ったのは、木を、木に名札をつけて観察していた子供たちのことなんですね。どんな気持ちだったかと思うんですよ。ほんとに自分が大事にしていた木が突然なくなったわけですよね。

でね、これからできることっていったら、その木はもう仕方がないとして、これからできることをするのは大人なんですから、大人たちは、ぜひ、その子供たちのね、気持ちを思いながら、子供にはなれないけど、子供たちの気持ちを思いながら考えると、違うものになるかなって思っています。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。

名前が分かったり、その木とか虫のことを知ると、より愛着が湧くっていうのは、確かにそうです。そういう意味でいうと、夜に虫のツアーをされたりとか、そういう、実際にもう今までされているプログラム自体、すごく私は価値があることだと思っていて、やっぱり、そういうことができる明石公園なんだということは、これはこの場にいるみんなで共有していく、そういうのをどんどん高めて、そういう価値を高めていけるような、そういう明石公園の目標みたいなものを設定できるといいなあと私も思っています。

ほか、いかがですか。

○渋谷進

すいません、西区の渋谷です。

現状維持、最低限、現状維持っていうのは、私も基本的には賛成なんですけれども、いわゆる子どもの村でインクルーシブ遊具をつくらない、ほかの場所につくっていくようになりました。

で、子どもの村で、４本の木を伐採するという修正案が出されています。私、実は午前中にも発言させてもらったんですけども、ウォーキングの最終地点が子どもの村で、ほぼ今頃の季節なんですけども、実はキンモクセイが楽しみなんですよ。香りがね。それが伐採対象になっています。

で、１つ、これはできるのか、できないのか、分かりませんけど、提案なんですけれども、伐採ではなくて、植え替えはできないのかということ。

もう１つは、もし伐採するのであれば、キンモクセイの植樹をしてほしい。

桜にしても、確かに寿命が来ます、ソメイヨシノは。これ、仕方がない部分があるので、常にこう、植樹していくしかないと思うんですよ。

で、そういうことを、これ、ある意味、人工的なんです。自然の保全といいながら、手をつけるなというだけでなくて、維持管理していくということを考えると、人工的に手をつけていくっていうことも、もしかすると必要になるというふうに思うんですけれど、いかがでしょうか。

○髙田知紀部会長

午前中の初めの冒頭のインクルーシブ遊具の整備の話、先ほど坪谷さんのちょっとご意見をいただきましたけれども、修正案で、一番下段のインクルーシブ遊具の更新というところで、かなり樹木への影響を抑えた案を示して、この部会としては、この案をベースにいきましょうということで、午前中にもお伝えしました。

で、私も、今、渋谷さんがおっしゃってくれたこと、キンモクセイの香りが私も好きなんで、あそこにたくさんキンモクセイがあるんですけれども、何かこう、考え方としては、単にこう、工事に影響があるから切るという考え方もあるけれども、今ある木をちょっとこう横によけて、また、その木が生きられるようにできないのかとか、ちょっと、そういう努力をするっていうことかなとも思いますし、それも難しいんであれば、やっぱり、失ったものは、もう一度、それを最低限戻しておくというようなことも選択肢としてはあるのかなと思って。

その辺りは、ちょっと、これから詳細を検討していく、事務局や県は検討していくと思うんですけれども、そういうご意見は今ここで届いていると思うので、市民からそういう声が上がっているっていうのは、今ちょっとここで聞いていますというのは確認したいと思います。

ありがとうございます。

で、あと、初めはね、坪谷さん、インクルーシブ遊具の色のことをこの間大分懸念されていて、これまでのインクルーシブ遊具の議論の中で、やっぱり、将来の人にとっては、色もすごく遊具の重要な要素で、彼らが使うときには、必ずしも目立たない色がいいというわけではないという話もあったりしたので、ちょっとこう、茶色とか、そういう色にできるかどうかっていうちょっと今分からないんですけれども。

ただ、自然の中に溶け込ます方向というのはたくさんあって、これから遊具ができた後に、そこを、周りを樹木が覆うようにするとか、ツタで囲うとか、あるいは、色を取り換えられるんだったら、みんなで、遊具の色を塗る機会ってあんまりないので、そういう塗り替えのときに、みんなで好きな色に塗り替えるとか、そういうチャンスはたくさんあって、むしろ活動の選択肢というのが広がるんじゃないかなと私は思っています。

○坪谷令子

いいですね。実はね、昼休みに先生にその話をして、そのままお聞きして、そうですねと言いつつ、でも、びっくりした話をしていいですかと言ったら、いいですという話で、お伝えしたようなことで、必ずいい形にしていただけるものと、市民も参加させていただけたら。

○髙田知紀部会長

みんなで、だから、見て、もっとこうしたらいいんちゃうというのはやっていったらいいかなと思うので、はい。

○坪谷令子

何か、笑顔でやっていきたいですね。

○髙田知紀部会長

そうです、そうです、そうです。

○坪谷令子

けんかしながらじゃなく。よろしくお願いします。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

じゃあ、松本さん。

○松本誠

すいません、奥津さんにちょっと話をしてほしいんですけども、明石公園の、やっぱりこう、生物として、昆虫の存在というのは非常に多様なんですね。で、昆虫の好きな人たち、マニアは、それはいろいろなことが分かっているんですけど、そうでない人が親しむために、明石公園が昆虫の宝庫やと言われていますけども、その宝庫を、普通の人が、明石公園をきっかけにして、そのことについてより関心を持ってくる、自然との営みについて強い関心を持つようにするためには、どういうふうな仕掛けというか、環境整備というか、土壌整備が必要なのかというのがあれば伺いたい。

もう１つ、もう１つですが、先ほど、坪谷さんの話で、夜の明石公園の探索をされたという話でした。やっぱりこう、公園というのは、春夏秋冬の季節、それから、朝、昼、夜、いろんな時間の変化の中で刻々と様相を変えていく。それを丸ごとやっぱり見ながら享受するためにですね、どういう仕掛けとか、どういう環境整備、基盤整備が必要なのかということについてもお話しいただければありがたいです。

○奥津晶彦

すいません、これ、もうあくまで私の考えっていうか、になってしまうんで、それができるかどうかというのは、県の方とか公園協会の方と一緒に相談しながら進めていけたらいいかなと思っていますけども。

まず１つは、私、今、個人的にちょっとやっているんですけども、やっぱり、そういうふうな自然観察会、昆虫観察会、今、兼光さんとかは植物のほうをやられているんですけども、毎月１回やって、毎月２回でもいいんですけども、そういった活動というのがまず１つ大事かなと思っています。

で、植物の場合、花が朝だけしか咲かないということがあるかもわからないんですけども、昆虫のほうはそれが特に顕著でして、朝に見える昆虫、昼に見える昆虫、夜に見える昆虫、まあ、同じ木でも違ってきます。だから、そういったところをほんとは見ていただきたいなと思っています。

で、あと、これ、先ほどの、木の、木に名札をつけていますっていう話があったんですけども、そういった意味では、この辺りではこういった虫が何月頃に見れますよっていう、そういう看板というか、がもしつけれるんだったら、つけたらいいかなと思っています。

で、逆に、マニアの人とかも、そういう看板があったら、なかなか捕りにくくなるんですね、そういうのがあえて表示していたら。だから、そういう意味でも抑止の力もあるから、そういった意味でも、ここで見れますっていうふうな看板が１つあったらいいかなと思っています。

で、ちょっと、これ、お金がちょっとかかる、またいろいろかかってしまうし、予算の関係もあると思うんですけども、今、明石公園では、植物のガイドをつくられている方がいて、明石公園で無料で配ってくれるのがあります。そういったバージョンの昆虫のバージョンというのもつくればいいかなと思っています。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。

ぜひね、そういう明石公園の価値をみんなで共有する作業なんで、そういうこともこれから市民発案でやって、で、いろんな行政とか専門家とかがそれをサポートするような、そういうことが実現できたらいいですね。

じゃあ、時間になりましたので、お三方、どうもありがとうございました。（拍手）

続いてのグループ、第４グループですね、岩崎さん、日本野鳥の会の岩崎さん、田中さん、奥野さんと、丸谷さん、二宗さんですかね、と田中さん。じゃあ、前にどうぞ。

あっ、すいません。５分休憩の時間、スケジュール表を見間違って、５分休憩を挟むことになっていましたので、すいません。

休憩５分です。14時10分だけど、15分からでいいですかね。15分から再開したいと思いま

すので、発表いただく方は準備いただいて、休憩される方は５分休憩したいと思います。

［　休　　憩　］

◇第４グループ

〇髙田知紀部会長

　では、５分経ちましたので、次ですね、第４グループ、日本野鳥の会ひょうごの岩崎さん、田中さん、奥野さんと、その次、丸谷さん、二宗さん、田中さんという４組のご発表になります。

　では、すいません、皆さん、着席してください。

　よろしいでしょうか。では、岩崎さん、田中さん、奥野さん。

〇岩崎健二、田中葉子、奥野俊博（日本野鳥の会ひょうご）

　こんにちは。野鳥の会の代表を務めています岩崎と申します。

　こちらが、鳥類、鳥類の生息調査の責任者である奥野、そして、明石市民でもあります、調査の担当、世話役をしていただいています田中です。後ほどの質疑のときに手伝っていただけるということで、よろしくお願いします。

　明石公園では、当会が発足当初から探鳥会を開催してきました。毎回、100人を超えるぐらいのたくさんの参加者があって、大変人気のある探鳥地です。特に、遠くのフィールドに出ることもなく、駅からすぐの豊かな緑の中で、多くの野鳥と出会えることっていうことが大きな人気の理由の１つですね。

　バードウォッチングは、世代を超えて、どなたでも気軽に自然の中に溶け込んで、鳥の観察をし、春にはさえずりを聞き、冬には、すぐ身近でツグミなんかの仲間が餌取りをする姿を見て、季節の移り変わりをじかに感じることができるし、野鳥を通じて自然と親しむということで、いろんな姿を、いろんな世界が広がっていくことができます。

　例えば、餌となる虫や小動物、それを支える植物、いろんな生き物が自然と目に見えてくることができます。

　なぜ明石公園に多くの野鳥が来るのか。

　鳥がひなを育てる餌となる虫や木の実がたくさんあります。そういうものが、また、姿を隠したり巣をつくったりする樹木がたくさんあることで、繁殖地として利用したり、冬場には餌が少なくなってしまうんですけど、明石公園に来れば何とか厳しい冬を乗り切ることができるということで、たくさんの野鳥が集まってきています。

　また、春や秋の渡りには、長い距離を渡ってきた渡り鳥が羽を休め、餌を取り、貴重な中継地としても利用しています。

　豊かな緑の中に、剛ノ池や外堀、桜堀といった水域があることで、変化に富んだ環境があり、野鳥たちの数も種類も増えるということで、多種多様な生き物もそこでお互いを支え合って生きています。

ここに１羽のシジュウカラがいます。スズメぐらいの大きさの、体重16グラムぐらいの鳥なんですけど、身近な野鳥の１つです。この鳥が１年間で餌として食べる量は、例えばシャクトリムシに換算すると約10万匹の虫が必要ということです。

これの天敵のハイタカという鳥が、これが必要な鳥、小鳥、シジュウカラに換算すると780羽のシジュウカラが必要ということで、自然界は非常に厳しいバランスの中に立っているんで、１羽のシジュウカラや餌となる虫や樹木が欠けても、ハイタカという鳥は生きていくことができません。

明石公園の周辺は、都市化が進んで、農地や樹林帯が減少し、生き物の生息生育環境が減少、分断化して、多くの生物の減少が心配されています。

生物多様性保全の観点からも、希少な動植物が生息する明石公園は貴重な拠点となっています。

1984年に、兵庫県からの依頼で、明石公園の野鳥調査を実施しました。このときの結果は、この書籍が刊行されています。当時の県の担当者も県も、明石公園の価値を十分に理解していただいていたはずですが、私たちも、改めてその価値を理解し、今も、今年も４回目の調査を実施し、４月から実施し、調査を行っています。

明石公園の自然環境は、次世代を担う未来の子供たちへの大切な贈り物です。長い時間をかけ、多くの先人の方たちが努力したおかげで、今の明石公園があります。

３月に要望を出した、これ以上の樹木の伐採はやめて、私たちの世代の価値観や目先の利益だけで、これ以上、一方的な都合で明石公園のあり方を考えるというわけではなく、私たちの子供たち、子孫たちに、今以上の豊かなすばらしい明石公園を引き継いでいただきたいと強く要望いたします。

ありがとうございました。

○髙田知紀部会長

どうもありがとうございました。（拍手）

では、続いて、丸谷さん、お願いいたします。

○丸谷聡子（明石公園の自然を次世代につなぐ会）

資料が４つありますので、始まる前にどんどん先にお願いいたします。なかったら事務局におっしゃってください。

では、始めたいと思います。

明石公園の自然を次世代につなぐ会事務局、事務局長をしております丸谷聡子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

このつなぐ会は、昨年10月に、小学校の環境学習で観察していた樹齢157年のモッコクの木が突然伐採されてしまったため、環境教育コーディネーターとして関わっていた私が公園協会に理由をお聞きしたことに端を発し、４年間で1700本近い樹木が伐採されてしま

った状況に疑問を持つ、植物、昆虫、野鳥などの専門家が集まり、つくった団体です。
　で、11月18日に、お手元にお配りしております要望書を県知事宛てに提出いたしました。その後、ホームページなどで情報発信やシンポジウムなどを実施し、多くの県民がつなぐ会のメンバーになって活動に発展をして、現在に至っております。
　私たちは、１本も切るなと言うつもりはありませんが、明石公園の貴重な自然を未来につないでいただきたいと強く願っています。
　そのため、現在ストップしている伐採計画に上がっている240本についても、なかったこととして、ゼロベースで議論をしていただきたいと思います。
　また、木と石垣の因果関係を立証するためには、今後、伐採により、どう石垣が変化していくのか、経過観察をする必要があると思っています。
　さらに、強く申し上げたいことは、自然のバランスを考えると、希少種を守るためには、希少種だけを保護するのではなく、普通種を守らなければならない。そして、それを実証するためにも、予算をかけて、希少種を含む明石公園の自然環境調査をしてほしいと思います。
　明石公園の生態系は、歴史の積み上げによってつくられてきました。もともと雑木林だったところに城がつくられたという歴史があり、従来からの湿地帯に絶滅危惧種が生息、生育しています。400年、石垣があったからこそ守られてきた植物も多くあります。
　今年、今回、樹齢100年以上の樹木も多く伐採されてしまいました。もうこれ以上の樹木伐採はやめていただきたいです。
　また、明石公園リノベーション計画の中に、生態系や生物多様性、環境学習という発想が全くないのはおかしいので、早急に改定をしていただきたいと思います。
　また、特に、つなぐ会として意見を申し上げたい個別のエリアを申し上げます。
　まず、藤見池です。土塁の伐採の機械を入れるため、藤見池を埋める計画が上がっていましたが、この池には、絶滅危惧種を含むトンボ類が多く生息しています。必ずこれらを守ってください。
　土塁については、保全上の観点からも、伐採でなく剪定すべきと思いますが、県の議事録を見ると、文化庁の補助金が剪定だと出ないため伐採との記載がありました。補助金をもらうために木を、本来切らなくてもよい木を切ることには納得できません。その辺りを改めてください。
　東芝生広場です。一昨年、小学校の環境学習で観察していた木をはじめ、多くの樹木が伐採されました。明石公園ではここにしかないイチイガシなどがあり、環境学習には非常に適したエリアです。さらなる保護、保全を求めます。
　また、現在、ひこばえから萌芽が出ているので、大きな木に育てる手だてもしてほしいと思います。
　また、天守台の石垣のヤマザクラや、天守台の上のアベマキの大木は、明石城のシンボルツリーでもありますので、必ず残してほしいです。

箱堀の中は湿地帯になっており、絶滅危惧種が多く確認されています。県の計画では、ここも伐採する予定になっていたようですが、樹木が生えることで箱堀を壊すものではないので、考えを直してください。

石垣や城は、たかが400年前に人がつくった擁壁、無機物です。そこに、太古の昔からこの地域にあった自然、有機物が融合して、その美しさが際立つと思います。お城ができる前からある生態系も勘案した管理をしていただくことを切に望みます。

実は、明石市は、私たちへのヒアリングを、現地調査も含めて、数時間かけてやってくれました。これまで１年間のこの活動を考えると、５分で正しく委員の皆さんに思いや意見が伝わるとは思えません。もっと現地で意見をお伝えする機会をつくっていただきたいと思います。

最後に、歴史に学ぶということをお伝えします。この２枚目の資料をご覧ください。

時間がないので、詳しくは、皆さんにお読みいただきたいと思いますが、これは、当時、明石公園100周年のときに刊行された、1982年のものですが、元明石公園事務所長の方が職を辞しても明石公園の緑や自然を守ろうというふうにされている、そういうことが書かれています。そういう県の職員さんがおられたということです。

今の緑豊かな明石公園が残っているのは、そういった県の職員さんのおかげだということがよく分かりました。こういうことをぜひ今の県の職員さんも肝に銘じて、明石公園の未来を考えていただきたいということを申し上げて、私からの意見とさせていただきます。

ありがとうございました。

○髙田知紀部会長

どうもありがとうございました。（拍手）

では、二宗さん、お願いいたします。

○二宗誠治

二宗誠治と申します。

私は、14年間、明石公園を職場として在籍しておりました。県の職員で、公園の担当です。で、その14年間の中で、トンボが好きで、トンボの調査を続けてきました。

それで、14年間の間に46種のトンボを見つけております。で、46種という数字は、非常に狭い地域の中で、なかなか大変な量だと思います。

日本で218種のトンボが記録されています。ちょっとデータは古いかもしれませんが。で、兵庫県は100、100というのは日本でも一番多いほうだと思います。その中で、46という数字は非常にすばらしい数字だと思います。

こういう場所は、ほかには例がないと思います。いろんなトンボとか、いろんなところでも三十何種とかという数字ですので、46はすばらしい数字だと。非常に多様な環境があ

ります。明石公園は、12の堀、池があるんです。で、その堀、池は非常に多様です。植物の多い剛ノ池なんかは、植物でいったら、水中植物がほとんどありません。なんでかというと、ソウギョが放たれたから。かつては、ソウギョを入れる前は、レンコン、ハスですね、ハスが茂ったり、いろいろ多様な環境になっております。

で、そういう中で、明石公園の46種の中には、兵庫県レッドリスト2018でAランクのものがおりました。ベニイトトンボ、これはちょっとほかの公園でも問題になっているものであり、ほとんど全部が絶滅の危機にさらされております。

で、レッドリストの改定の策定委員も私は務めておりましたんで、その関係もあり、かなり詳しく分かっております。

で、Bランクでは、Bランクはネアカヨシヤンマ、で、Cランクに、アオヤンマ、カトリヤンマ、ナニワトンボ、要注目種として、タカネトンボ、ヨツボシトンボ、アキアカネが含まれております。

この中で、ほとんどは減っていきますが、アオヤンマは、アオヤンマとヨツボシトンボはかなり、特に、アオヤンマは、藤見池に大量におります。で、新しく、今年、兵庫県が改定しようとしているレッドリストの委員のアオキさんによれば、アオヤンマはほとんど見られない、兵庫県下で見られないということで、ランクがたぶん上がるだろうと、それが生息しているのは古い池です。

で、古い植物と多様に生えている池がありまして、そこは、藤見池はぜひとも残していただきたい。

そこはまた、チョウトンボが大量にいます。今、チョウトンボは各地で減っています。

チョウトンボの生息環境は２つの条件があります。１つは古い池、もう１つは、周りに高い木がないといけない。その高い木は何かというと、夜のねぐらなんです。樹上生活者であるわけです。周りにない、田んぼの中の池のチョウトンボというのはほとんどおりません。

ですから、植物とのバランスということもあり、様々な環境が残されている明石公園を大事にしていただきたいなと思っています。

○髙田知紀部会長

どうもありがとうございました。（拍手）

田中さんですね。お願いします。

○田中めぐみ

こんにちは。

今から、私が体験したことと、私の思いを少し話します。退屈かもしれませんが、聞いてください。

随分昔に明石で生まれ、今も明石で生活しています。小さいときは、遊びに連れていっ

てもらい、今度は、子供を連れて遊んだり散歩したり、私だけでなく、たくさんの方がそんな思い出を持っておられるのではないでしょうか。

ちょっと前のことですが、明石公園のお堀のところに、ハトや鳥に餌を上げないで、鳥は自分で探して食べますと書いてありました。えっ、自分で探して食べるって、自分で探すの言葉が引っかかり、県に電話しました。

注意書きに、鳥は自分で餌を探すと書いていますが、鳥の餌場となる森や木、草むらなど、自然公園的な場所をつくったり守ったりしているのですかと聞くと、そういったことはしていないと答えられました。

自分で餌を探すといっても、田んぼや畑は、どんどん住宅や駐車場に変わり、草花や虫なども激減している世の中で、野生動物も生きられないと思うと言ったら、何とか木や草むらのあるところを探して餌を捕ってほしいと話しました。

少しは、木が大切で、野生動物のことも考えてくれているのかと思っていたら、何と明石公園の伐採です。どういうこと、何のために、そこで生きる生き物は、いろんな思いが頭の中でぐるぐる状態です。

またまた県に電話して聞いてみたら、石垣を守るためと言われました。本当に木が石垣を駄目にするのですか。私にはそうは思えませんが。

何年も何十年もかけ、中には100年からの時を生きてきた木々をばさばさとあっという間に切ってしまって、残念で、悲しくて、悔しくて、心が痛過ぎます。

それに、切ってしまった木をどうしたのかと聞くと、処分しましたと答えられ、これまた、残念で、悲しくて、ただ捨てられるだけの木の命を思うと心が痛過ぎます。

他の市の環境部公園みどり推進課というところが、地域の人々に大切にされている木の保護活動として、老木、巨木をおじいさんの木と名づけ、愛されているそうです。この市では、歴史を見守ってきた老木や巨木に、珍しい木、由緒、いわれのある木を募集して、広めているそうです。この記事を見たときは、心が温かい気持ちになり、明石市にもあったらよかったのにと思いました。

でも、明石公園の木は、守られず、切られてしまいました。その大切な木の使い方を、もっと市民や組織で時間をかけてでも考えてほしかった。

県の方が、保管していくのも大変なことだと言われました。だからこそ、切った後の有効活用についても、前もってしっかり考えるべきだったんじゃないですか。ほんと、木への思いやりが全く感じられません。

木の下にいると涼しいのは日光を遮ってくれるからと思ってきましたが、それだけでなく、雨水を木の根や幹にたくわえ、その水分を放出しているそうです。私たちにとっても大切な木を1本でも多く守っていかないといけないし、切ってしまった分を植樹して戻してほしい気持ちでいっぱいです。

少しでも多くの生き物が生きられるように願います。切られてしまった切り株から新しく芽が出ているのを見ましたか。私は見ました。まだ生きている、生きようとしている、

その力に涙が出ました。
　人間が壊してしまった自然を元どおりにはできないけど、これ以上壊さないようにはできるんじゃないでしょうか。その努力はしなければならないです。
　明石公園で草花を見たり、昆虫を見つけ、野鳥に出会えたり、そんな中で季節を感じられる、この生態系も明石の宝だと思います。
　自慢したくなる魅力たくさんの明石と紹介されている中に、豊かな自然、ウミガメが産卵に来る美しい海岸や、野鳥や昆虫が観察できる木々の多い公園がたくさんありとうたっていますが、やっていることは何ですか。真逆のように感じるのは私だけでしょうか。
　これが私の思うことの一部です。
　最後まで聞いていただき、ありがとうございました。

○髙田知紀部会長
　田中さん、どうもありがとうございました。（拍手）
　では、意見交換、ディスカッションに移りたいと思いますが、いかがでしょうか。ご意見とかご質問がございましたら。
　じゃあ、ちょっと、すいません、私から、野鳥の会の皆さんに。かなり多様な野鳥が観察できるということで、探鳥会もすごい人気スポットだということです。
　何か、大体どの時期にどの辺りにどういう鳥がいるかみたいなものって、野鳥の会の皆さんで、情報を例えばマップに落としたりとか、そういう情報って集約されたりしているんですか。ちょっとお聞きしたい。

○奥野俊博（日本野鳥の会ひょうご）
　その辺については、一応データはまとめています。

○髙田知紀部会長
　なかなか、でも、公表はできないんでしょうけれど、例えばこう、県とか市と、そういう情報を共有したりというのは、今まではあんまりないんですか。

○奥野俊博（日本野鳥の会ひょうご）
　問われれば答えていますけれども、繁殖場所とか、それは言えませんけれども。
　問われた場合は、まあ、行政には、繁殖場所もフォローするようにしています。

○髙田知紀部会長
　先ほどの、あっ、そういう、それは……。

○岩崎健二（日本野鳥の会ひょうご）

過去の野鳥の生息調査を基に刊行した「兵庫の野鳥」という本ですね。

○髙田知紀部会長

何年ぐらいに刊行された。

○岩崎健二（日本野鳥の会ひょうご）

1984年に調査をしました。その後に刊行されたんです。

○髙田知紀部会長

その頃から、今は、でも、当然変わっていますよね、大分、この数年でもね。

○岩崎健二（日本野鳥の会ひょうご）

環境は大分変わってきていますね。徐々に、植物が変化すると、鳥も変化してきますよね。

○髙田知紀部会長

そうですよね。ただ、毎年、探鳥会をされているということは、その都度、ある程度、観察できた鳥は、ある程度、情報は集約している。

○岩崎健二（日本野鳥の会ひょうご）

ああ、そうですね。

○髙田知紀部会長

いや、それをお聞きしたのは、何かこう、先ほどのセッションで、奥津さんの話にもあったように、そういう昆虫とか鳥の生息環境も踏まえながら、やっぱり、樹木をどういうふうに管理していくのかっていうのは、公園の管理のあり方を考える上では、すごくこれから重要な情報になってくるので。

また、何かこう、管理者とかとうまくそういう情報共有、今もせっかく取った情報があるんだったら、共有してですね、今後の公園のために生かしていけるようにできたらいいなと思って、ちょっとお聞きした次第です。

○岩崎健二（日本野鳥の会ひょうご）

今年の４月から野鳥の生息調査をしていて、今はまだ途中経過なんで、詳しい情報というのは出すことはできませんけども、ふだん探鳥していて、よく見れるというのは、やはり、子どもの村なんかで今年は特に渡り鳥が見ることもできましたし、剛ノ池の周辺だとか桜堀の周辺だとか、そういうところでは多くの野鳥を観察することができたんですね。

〇髙田知紀部会長

ありがとうございます。

そういう意味で、すいません、二宗さんも、トンボはどれぐらいの種類がどこにいるかみたいなのは、割とこう、情報は集約されたりしているんですか。

〇二宗誠治

明石公園の職員であったときにですね、「明石公園のトンボたち」というので、冊子を、パンフレットを出しました。ここで、このときは45種なんですけども、いつおったかというので構成しております。

〇髙田知紀部会長

そういうパンフレットがもうつくられているんですね。

〇二宗誠治

もうこれ１部しか残っていません。

〇髙田知紀部会長

すいません、私が勉強不足で、そういうのを、情報を持っていなかったんですが、もう1部で、残数がないと。

〇丸谷聡子（明石公園の自然を次世代につなぐ会）

いいですか。

〇髙田知紀部会長

はい。

〇丸谷聡子（明石公園の自然を次世代につなぐ会）

皆さん、遠慮がちに言ってはるからあれなんですけど、もともと、明石公園は、こうやってトンボは二宗さんがしっかり調査されて、こういうまとめたものがあります。

また、野草に関しては、タカノさんという方がまとめて、パンフレットにされて、1回は公園協会のほうで印刷してくださったんですけど、その後、印刷費が多分捻出できないのか、そのまま、今、印刷しっ放しで、あれだけになっています。

また、これ、「明石公園の野鳥」というのと、明石公園の樹木ですか、植物ですか、「明石公園の植物」というのを、1980何年のときに、兵庫県が、調査費を、野鳥の会とかそれぞれに、団体に委託をして調査をしたものを兵庫県がこれ刊行されていますので、もともと、そ

ういう、兵庫県は、自然環境のデータベース、明石公園ではずっと積み上げられていて。

で、野鳥の会も、私、今、副代表なので、代わりに言うと、これをきっかけに、やっぱり、ずっと定期的な調査をしないといけないなあということで、このときとおんなじ調査方法、おんなじコースで、今、何回目かな、４回目で、この４月から毎月２回やっておりますので、かなりのデータベースでたまっているので、それぞれの研究されているエリアの人って、かなり、明石公園って限られたエリアの中で調査もしやすいので、かなりデータベースがたまっているんじゃないかなというふうに思っています。

以上です。

○髙田知紀部会長

ちょっと、私が今お聞きしたのは、情報そのものが集約をされているということと、何か、その情報をみんなで出し合って交流する場みたいなのがやっぱりすごく大事だと思っていて、今日みたいに、あっ、そういうことがあるんですねとか、そういえば自分たちの調査ではこういうことがありましたよとか、公園を管理しているときにこういうことに気づきましたよとか、何かそういう、調査とかの結果を基にいろんな人が対話をしたりとか、その情報の中身をみんなで共有したり、あるいは、自分のところの調査結果と違ったらどうなんだろうとか、何かこう、調査の結果をより磨いていくような場っていうのがあれば、情報も共有できるし、より、その情報の中身の精度っていうのも洗練されていったりするので。

私としては、やっぱり、明石公園の全体のあり方を考えるときには、個々が調査したやつを、はいどうぞっていうのももちろん大事なんだけれども、それを基にみんなで話をするっていう機会が大事だなって思っていまして。今まで、そういう情報が県の応援で集約されたりとか出されたということは、すいません、私、ちょっと勉強不足で、あまりそういう情報を把握していなかったんですけど、そういうのをみんなで共有して、発表会でもいいですし、研究会でもいいんですけれども、そういうことができると、より、その情報が意味を持つかなと思って質問した次第です。

どうもありがとうございました。

○岩崎健二（日本野鳥の会ひょうご）

ちなみに、この本は市立図書館から。

○髙田知紀部会長

あっ駅前で。

○丸谷聡子（明石公園の自然を次世代につなぐ会）

何かもう、人の目に触れないことになってしまっているんで。

こういうデータ、二宗さんのもそうですけど、１回出されて、もう終わり。それから、野

草のパンフレットも、１回出されて終わりで。
　せっかくあるのに、全然生かされていないというのが今の現状なので、それを、ぜひ、せっかくあるものを生かす、今また新しくして生かすっていうのがすごい大事かなと思うんです。

○髙田知紀部会長
　はい、そうですね。どういう情報がストックされているのかっていうのと、それを共有していくっていう。
　じゃ、嶽山委員、お願いします。

○嶽山洋志副部会長
　丸谷さんが前に話をされていたと思うんですけども、ネイチャーセンターみたいなやつ。
　多分、その情報の集積が、あるところでなされていないというのが今の議論の1つだと思うんですけども、どっか公園の中で、花緑センターなのかもしれませんけれども、そこを、やっぱり、何か、そういう拠点化して、で、冊子もあるし、多分、見てはる人で、標本とか、こういう虫の人ってつくってはるんじゃないかなとかっていうのを、さっきも標本が出てきたりとか、していったほうが、なので、何か、そういうのもどんどん見せていくと、いろんな人たちが食いついてきて、そういう興味の幅っていうのが広がってくるかなというふうに思うので、何かそういう施設をつくりましょうか。

○丸谷聡子（明石公園の自然を次世代につなぐ会）
　嶽山先生、ありがとうございます。
　私、もし、このディスカッションの中で言えたらいいなと思って、まさにここに書いていたんですけど、ネイチャーセンターなのか環境教育センターなのか、分かりませんけど、やっぱり、そこに、別にそれぞれ、何か、植物に詳しいとか、昆虫に詳しいとか、そういう方でなくても、コーディネートする人がやっぱりそこにいるっていうことがすごく大事だと思うんですね。
　で、こういう資料があるよっていうことをお伝えしたり、そこ、昆虫の人と植物の人をつなげたり、いろんなつなぎをする人がやっぱり明石公園の中には必要だなあと思っていて、ネイチャーセンターでもいいし、環境教育センターでもいいと思います。
　で、そうすればですね、例えば、今、何か、映えスポットか何かで、ヤマモモの木が下から見えるように、何か、公園協会が竹を周りに周囲にしてやっていらっしゃるんですけど、でも、あれを、ヤマモモって皮だけで生きるんですよね。木って皮だけで息をするんです。
　で、そのまま枝を残していたら、ヤマモモは生き続けられていたのに、映えスポットにするために、枝を払ってしまったために、そのヤマモモは今死んでしまっているんですね。そうしたら、後は朽ちていくしかなくて、後は倒木とか、そういう管理のほうが難しくなるか

ら、やっぱり、そういう一定の知識がある人に意見を聞けるようなセクションというのは絶対必要かなというふうに思っているんで、ぜひつくっていただきたいと思います。
　先生、ありがとうございます。

○嶽山洋志副部会長
　さっきの議論も、そんな話がありましたね。

○髙田知紀部会長
　そうですね。

○嶽山洋志副部会長
　空間みたいな話をされていて、やっぱり、それは、人の知識とか経験とか、そういうのが大事だなということで、教育とか体験をどうつくっていくかっていう。

○丸谷聡子（明石公園の自然を次世代につなぐ会）
子供たち、たくさん作品をつくっているので、そういうのも何か展示してもらいたいんですよね。

○髙田知紀部会長
　兼光委員、お願いします。

○兼光たか子委員
　私たちも、親しむ会で活動しているんですけども、それは、明石公園のセンターの教室のほうの活動記録になっているだけで、それを皆さんに知ってもらうためにも、今、丸谷さんが言われたとおりに、皆さんで共有できるような場所をつくっていただきたいと思っています。

○髙田知紀部会長
　それに私も付け加えると、ネイチャーセンターというのもいいんですけれども、今までのこの議論で、明石公園って、歴史だけじゃないよね、自然だけじゃないよね、スポーツだけじゃないよね、みんなあるよねっていう話もあったので、何かこう、明石公園センターで、自然も歴史もスポーツも利用も、いろんなことの情報がそこで手に入る、例えば、さっきの奥津さんと坪谷さんの話で、夜の昆虫観察会なんてやっているって知らなかったんですね。そういう公園でやっているイベント、こないだも何か、薪能やってましたよね、ああいう伝統文化とか、そういう明石公園のいろんな情報が集約されて発信できるようなセンターがあったらいいなと。

で、これは、つくってくださいって言うんじゃなくて、もう何か、市民側で発案して、こういうことをつくりましょうっていうふうに働きかけていくような形でもいいと思うんですよね。市民主体で、やっぱり、必要なものはつくっていく。

それを、午前中の議論でもあったように、市民の多様な活動っていうのを明石公園で、行政がサポートしていく、そういう役割分担というか、体制になっていくのがすごくいいんじゃないかなと思うので、そういうことの企画も実際にもうどんどんやっていったらいいのかなと思ったりしています。

ほか。じゃあ、すいません、後ろ、奥津さん、で、その後、泉委員で。

お願いします。

○奥津晶彦

すいません、さっきの、ちょっと、まず、夜の観察会は、ちょっと、私が勝手にSNSとかで、知り合いとか、知り合いのさらに知り合いとかに紹介しとるだけで、あんまり、そういう、県とか公園とは関係なく、勝手にやらしてもらっています。

○髙田知紀部会長

ああ、いいです。

○奥津晶彦

で、すいません、ちょっとニソウさんに教えていただきたい……

○丸谷聡子（明石公園の自然を次世代につなぐ会）

ニシュウさんです。

○奥津晶彦

あっ、二宗さんですね。申し訳ない。教えていただきたいんですけども、私が見ていても、トンボの数も年々減っているなと思うんですけど、特に、ひぐらし池と桜堀ですね、あそこ、木を切ってからって、どれぐらい減っている感覚ですか。

○二宗誠治

あの辺りは、あまり切っていないでしょう。あの上のほうは切ってる。

○奥津晶彦

いや、桜堀もひぐらし池も切っていますね。

○二宗誠治

桜堀も、池が３つありますね。

○奥津晶彦

うん。何か、一番下というか、剛ノ池に近いほうの池ですが。

○二宗誠治

そっちは切っていますけど、あとは、周りを切っていますけど、直接影響はないと。まあ、切られていけば、また当然、環境は変わっていくと思いますけど、今のところは近い状態かなと。

で、要するに、空気が乾燥してしまいますんで、あそこは、中池はモミジが非常にきれいなところで、モミジがきれいということは、湿度が非常に高いということですね。これが切られると、その辺も全部変わってくる。なら、生息するトンボも変わってくるでしょうね。減ってくるだろうなと思います。

いいですか。

○奥津晶彦

すいません、ありがとうございます。

○髙田知紀部会長

じゃ、泉委員。

○泉房穂委員

すいません、提案ですけども、明石公園というのは、いろんな面でいい公園で、もちろん、歴史のよさもあって、その発信も重要ですけど、今お話があったように、自然が大変魅力的な公園ですから、それをしっかり発信していくのが大事だと思います。

そういう意味では、いろんな活動をしておられるので、ある日に、そんなにお金を使わなくても、一緒に官民連携で、実際、明石公園で、いろいろな、今の夜の観察会とかを始められて、試行錯誤しながら、それを位置づけていくのが大事だと思いますので、こういった検討と並行して、もし可能であれば、少し手上げ方式でやっていただける団体、もう既にやっている団体とコラボしてですね、場合によっては、既に、新しい箱もつくらなくても、明石公園内に幾つもありますから、もう場所が、そこを実際に使えるようにして、具体的に始めてみられたらどうかと思いますので、考えるのも大事ですけど、もうやられておられるわけですから、実際やられていることとコラボするということを始めることを提案申し上げます。

○髙田知紀部会長

はい、そうですね。何かもう、できることからやっていって、活動しながら考えていくっていうことも大事ですね。

丸谷さん。

○丸谷聡子（明石公園の自然を次世代につなぐ会）

まさにそのとおりなんですけど、じゃ、やる段階で、やっぱり大事なのは、誰が回していくかということで、やっぱり、コーディネーター役というのがすごく必要だと思うんですね。

私たちは、環境教育コーディネーターってコーディネーターを名乗って活動していますけど、やっぱり、必ずしもそのことに詳しくなくても、いろんなことをやっている人を知っていて、つないでいけたり、聞いてきた人に発信をしていけたりできる、そういう、やっぱりキーマンがすごく必要になっていて、そういうのは、なかなかボランティアの域ではできないので、ぜひ、そういったことも、人を配置する、そういうスキルのある人を配置するっていうことで考えていただけたらありがたいかなあと思っています。

○髙田知紀部会長

それは、パークマネジャーとかですね、パークマネジメントする人を、職能として付けるというか、そういう人が1人いると、かなりできることが変わるっていう、それは、ほんとに、まちづくりなんかでもそういう議論があるので、そういう機能、職能が明石公園にあると、より、できることが広がっていく。そういうことも実際にやって、こういう機能が必要だね、こういう人が必要だねっていうのを、アダプティブ、順応的に考えていくっていうのも大事かなと思っています。

大体、あれですかね、もう時間。

○丸谷聡子（明石公園の自然を次世代につなぐ会）

ちょっと、田中さん、一言も言っていないので。

○髙田知紀部会長

田中さん、何か。

○丸谷聡子（明石公園の自然を次世代につなぐ会）

何か思い。

○髙田知紀部会長

お持ちですか。言い残したこと。

〇田中めぐみ

たくさん重複することばっかりになると思うんですけど、ほんとに、生き物たちも生きるところがないって思うんですね、まちなかでも。どんどん、どんどん緑がなくなっていっているし、これからは緑を守る方向で行きたいと思うので、もう伐採とか、そんなのはもってのほかだし、別に明石公園に限らずね、私、大久保に住んでいるんですけど、大久保駅前のゆりのき通の木なんかも枝が全くなくて、もうずたずたに切ってあるんですね。そんな悲しい、見るも痛々しいようなあんな木ね、かわいそう過ぎるんですよ。

ですから、もうほんとに鳥たちがとまるところすらないような、こんなまちはおかしいと思うので、もっとね、人間が見ても美しい木であって、鳥たちもとまれて、何か、すごくね、あったかく思えるような、そんなまちにしていってほしいと思います。

〇髙田知紀部会長

ありがとうございます。

〇松本誠

いいですか。

〇髙田知紀部会長

はい。

まだ時間は大丈夫ですね。

〇松本誠

すいません、先ほど、今日の発表者の方々からネイチャーセンターという話が出てですね、部会長のほうから、明石公園には、自然だけでなくて、歴史もいろいろあるから、明石公園センターのようなという形で少しまとめられたんですけど、私はちょっとそれは違うのとちゃうかと思うんですね。

で、歴史の部分に関して言えば、明石公園というのは400年で、しかも、明石城ということでいったら、今から150年前ですから、それだけしかないんです。

ところが、明石のまちで、やっぱり、城下町明石というふうなキャッチフレーズを出しているんですけど、城下町明石はずうっとそれより、明石城よりももっと前から、これは、それ以前のですね、明石の、城下町明石の歴史があるわけですよ。

だから、それを明石公園の中に閉じ込めるんじゃなくて、むしろ、明石市の看板として、明石の郷土史として別途考えるべき。それをどこにつくるかは別の話ですけども、であってですね、明石公園のセンターという中の１つとして、その中に閉じ込めるというのは、やっぱり、これはふさわしくないと。

むしろ、明石公園は、ネイチャーセンター、自然、自然の最大の売りをやっぱり発揮した、

そういうセンターに特化したものをつくるべきでないかと私は思いますけども、今日の発表者の方々はいかが考えられているかということを聞きたいですね。

○髙田知紀部会長

いかがでしょう。私の意見への反論でしたけれども。

○岩崎健二（日本野鳥の会ひょうご）

私たちもそう思いますね。何か、身近に、身近な公園なんで、皆さんが情報を得て、散策なり、親しんでもらうということは大切なことだと思っています。

○丸谷聡子（明石公園の自然を次世代につなぐ会）

文化、歴史に関しては、明石市は文化博物館をすぐ横に併設していますので、そこでやっていけるんじゃないかなと思いますし、スポーツはスポーツでね、施設が限られていると思いますので、ぜひ、やっぱり、私たちとしては、ネイチャーセンター的な、そういう、なんていうかな、それぞれの専門性のあるだけじゃなくて、ゆったり散策できるとか、ここだと今紅葉していますよとか、そういう、市民の方に親しんでいただけるような情報も提供するような、そういうネイチャーセンター的な、自然に特化したもののほうが私もいいなあと思って、ちょっと、先生が言われたときに、うーんと思ったんですけど、松本さんがそういうふうに言ってくださったので、改めて意見を申し上げておきます。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。

そういう、いろんな、ほかの、どういう団体があるかとか、どういう施設があるかっていうことととうまく関係させてやっていったらいいのかなというふうに思って、私が先ほど申した意図っていうのは、これまでの明石公園のあり方を考えるときには、そういう多様な価値があるから、明石公園の多様な価値を包含したセンターというのがあるのがいいんじゃないかっていう意図で申し上げたので、そこに全てを閉じ込めるというわけではないですし。

やっぱり、自然と文化って切り離せないんですね。利用と自然、文化として利用というのも切り離せないので、そういうことをどこで包括的に議論するのかなっていうのを考えたときに、ネイチャーセンターはネイチャーセンターでつくって、あったらいいと思うんですけど、例えば、明石公園の多様な価値を包括的に見る場というのが、またどっかで１つ必要になってくるので、そういう、１つの場でつくるのか、そういう、いろんな特化したセンターが連携しながら議論するのか、その辺の仕組みはこれからいろいろ考えられるかなと思うので、特に、私は、明石公園センターというものにはこだわりはないので、皆さんに、明石公園にとっていい仕組み、機能ができたらいいなと思っていますので、そういうことを議

論できたらと思っています。

ありがとうございます。なかなか、こういうポジティブな議論は楽しいですね。

じゃあ、ありがとうございます。では、第４グループはこれで終了で、また５分休憩ですかね。

じゃあ、拍手をお願いします。（拍手）

じゃ、次の第５グループが最後のグループになりますけども、15時５分から始めたいと思います。

［　休　　憩　］

◇第５グループ

○髙田知紀部会長

最後になりますが、第５グループの皆さんにご発表いただきたいと思います。

ただ、このグループは、欠席の方が３名いらっしゃるのかな。地球love明石の大月さんと、のはらくらぶの矢方さんがご欠席で、明石公園の緑を考える会の長原さんは……。

来られているんですね。では、ご発表されるということでよろしくお願いします。じゃあ２名ですね。で、中野さんがちょっと遅れて来られるということなんで、時間までには来られるかと思いますので、じゃ、法貴さんと長原さんですかね、前に座っていただいて。

初めに、地球love明石の大月さんは、ちょっと急遽ご欠席ということなので、メッセージを事前にいただいていますので、私が代読いたします。

では、始めてよろしいでしょうか。

○大月喜久子（地球love明石）

＜部会長代読＞

地球love明石の大月と申します。

地球love明石は、子育て世代の母親が中心となり、豊かな自然を未来の子供たちへつなぐための活動をしている団体です。

私自身も、３歳と１歳の子を持つ母で、明石公園は、子供と一緒によく利用させていただいています。

ここ数年、樹木が次々に伐採され、明石公園を訪れるたびに新たな切り株が増えていくことに非常に胸を痛めていました。一旦中止が決まったことをニュースで知り、心からほっとしました。以下、私たちから３点お願いさせてください。

１点目は、ここ数年の伐採により失われた自然環境を元に戻すため、植樹をしていただきたいということです。

特に南側のエリアは、アクセスもよく、緑豊かな環境で、小鳥のさえずりを聞いたり、木陰で涼んだりするのが大好きでした。子供を授かる前にドングリ拾いをしている親子を見て、自分もいつか子供とドングリを拾いたいと夢見ていた場所も、ある日突然、跡形も

なく失われてしまい、残念でなりません。
　また、樹木の伐採により、石垣の環境が大きく変わってしまったと知り、非常に心配しています。専門家の方からお聞きした内容では、地中深くに根を張り、石垣を支える樹木を植樹すること、石垣の過度な乾燥を防ぐために、石垣の前にも植樹することなどが重要だそうです。
　２点目ですが、現在、緑豊かなエリア（お堀の周りや東入り口の池付近、北側のエリアなど）は、ぜひこのままの状態を維持していただきたいです。
　ただ、樹木の健全な成長を促すため、必要な剪定は実施してください。
　一部のエリアで、必要な剪定がなされていないように見受けられて気がかりです。
　そして３点目は、公園の今後の計画が決まりましたら、事前に県民に周知することと、ヒアリングを実施いただくことをぜひお願いしたいです。
　数年前から始まった伐採では、私たち県民には全く知らされず、次から次へと伐採が進んでしまい、もっと早く計画を知っていれば、もっとたくさんの樹木の命を救えたかと思うと、胸が苦しくなります。
　最後になりましたが、これからも、多種多様な生き物にとっても県民にとってもかけがえのない明石公園であってほしいと心から祈っています。
　どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

○髙田知紀部会長
　ということでした。
　では、続きまして、法貴さんですね、じゃあ、前へ。まあ、そちらでも結構ですけど。

○法貴弥貴
　ありがとうございます。
　昔のですね、日本の土木の造作と自然の摂理を学んだ管理方法をしておりますお庭屋さんほうきの法貴です。
　今日はですね、石垣の周りの樹木の伐採がされた切り株をどのように今後残していくかといいますか、利用させてもらうかっていうことに、ちょっと意見を、申出書を書かせてもらいました。
　まずですね、今は、今回切られたのは、もちろん、石垣を見せるという、今回の築城400年っていう記念もありましたし、また、石垣を守るという意味での伐採というのがありました。
　しかしですね、私どもが学んでいる、自然と共存していく造園というのはですね、樹木が石垣を守っていくというような側面から見ています。
　そうなると、石垣にですね、とって、石垣の周りの樹木は、ぐっとこう石垣を支える役割をしています。それを今回伐採してしまったことによって、これから、今まで400年、

何百年と続いてきた太い根っこが枯れていきます。

そうなると、そこに大きな空洞ができてしまいますので、今ある根っこが腐っていったときの空洞、そこにですね、石垣の裏にある裏込め石が流れ込んだり、土が流出したりというような、石垣の裏が少し動くようなことが今後起きてくるのではないかと思っています。

そうなるとですね、今しっかり頑丈な石垣が、今後、何年かかけて樹木の根が腐っていくタイミンクで、石垣にも悪い影響が出てくるんではないかなということを思っております。

他のですね、石垣の、全国でも、お城であったり、民家の石垣であったり、畑の石垣であったり、ただの石垣であったりというものも、やはりですね、コンクリートを使っていない自然の工法でしているところに関しては、周りの環境、特に樹木ですね、伐採した後、植物、小さな植物でもですね、伐採した後ですね、やはり、乾燥が始まって、石垣の裏にですね、水圧、水ですね、土圧がぐっとかかるようになって、石垣が崩壊するというのが、結構早い年数で起きてきます。

明石でも、この石垣が今後どうなるかっていうのを推移を見ていくと、きっと石垣の乾燥であったり、石垣の隙間、石と石の間に細かい砂が詰まってきたなとか、ちょっと砂とか細かい石が落ちてきているなとかっていう様子を見てくると、石垣の変化というのがちょっと分かるのかなと思うんですが、そうなる前に、今残っている切り株の横にですね、新しい樹木を植えることで、新しい第二の根っこをですね、今ある太い根が腐っていくタイミングで養分になるんですけれども、そこにやはり水が通りやすい道ができていますので、新しい苗木が残っている根っこを使って大きく育つことができます。

今の土木工法では、今の石垣をそのまま残して強度を増すというのは、ちょっと難しい工法になってくるので、自然の樹木の力とか空気の流れを利用して、メンテナンスがかからない、そして何百年ともつ、自然の力を利用した工法を、もう一度、私たちがこれから明石公園を育てていくというところで選択できたら、結構、何世代先にも、ずうっと私たち人間が、100年ごと、50年ごとにメンテナンスをする石垣ではなくて、何百年と、植物だけで、植物の管理方法だけでしっかりともつ頑丈な石垣っていうのを残せるんでないかなと思っています。

これは、今、明石公園の伐採された樹木の根なんですが、これ、見ていただくと、石垣とですね、木の根っこが、しっかりとこうくっついて固まっている様子なんですね。これは、とても周りの環境がいい状態だと、こういうことが起きてきます。

ただ、この樹木の周りの環境、例えば、土がとても乾燥し出した、もしくは、周りのですね、開発があって、土の中に水が通らない部分が出てきた、側溝がコンクリートで固められたっていうことになってくると、水と空気が出口がなくなってくるので、水と空気が土の中に入らない、雨が降っても表面を流れてしまうという状況が出てきます。

そうなると、樹木の根は、深く伸びるところが、上がってきてしまって、浅い根にな

る、横ばっかり生えてしまうような状況を私たちが管理方法で起こしてしまっているという状況になってきます。

なので、根が深く浸透するような管理方法にして、石垣を保つという方法ができればとてもいいんじゃないかなと思っています。

以上です。

〇髙田知紀部会長

法貴さん、どうもありがとうございました。（拍手）

では、続きまして、のはらくらぶの矢方さんなんですけども、ご欠席ということなので、私がメッセージを代読いたします。

〇矢方久美（（一社）のはらくらぶ）

＜部会長代読＞

一般社団法人のはらくらぶ理事で事務局長の矢方です。本日、急な欠席をさせていただきますことをお許しください。

私たちのはらくらぶは、2004年に設立してから18年間にわたって、身近な自然と人の輪づくりを目的に、主に、保育園、幼稚園、小学校での環境体験学習のコーディネート、サポートをしてきました。

そのフィールドとして、明石公園は、都市の中にある平地でありながら、里山の豊かな自然が体感できる生物多様性の宝庫であること、明石駅前にあり、交通アクセスがよく、障害者用トイレがあるなどインクルーシブで、誰でも体験できるため、環境学習のフィールドとしてよく利用させていただいています。

特に、東芝生広場、二の丸、本丸などをよく利用してきました。例えば、東芝生広場では、園児でも容易に歩いて回ることができるエリアに、様々な種類のドングリがありました。秋になると、葉っぱやドングリの帽子の形がそれぞれ違うことを観察しながら、ドングリ巡りをしていました。

ところが、樹木伐採により、ドングリ巡りどころか、ドングリ拾いもままならない状況です。小学校の環境学習でも、場所を変えたり、内容を変更したりせざるを得なくなっています。

環境学習で明石公園に行っている際に、ちょうど周辺で伐採工事がされていました。それを見た小学生は、生態系は人間だけのものではないはず、人間だけの考えで自然をどうこうしようとするのが間違っていると言われました。

皆さんは子供のこの言葉をどのように受け止められますか。私は、大人として申し訳ない気持ちになり、大人の責任を果たさないと子供たちに顔向けできないと思いました。

県は、公園の南側を伐採しても、北側で環境学習をすればよいのではと言っておられますが、何をもってそのような判断をされているのでしょうか。北側は、南側と違い、手入

れがされておらず、環境学習には適していません。そのようなことは分かっておられますか。

ただ木があればよいというものではありません。そこには、命のつながり、生態系のつながりがあることが大事なんです。

これまで、明石公園についてこのような思いを伝える場も、関係者で合意形成をする場もありませんでした。自然も史跡も両方大事だということは理解しています。

ただ、史跡保全のためにやむを得ず伐採するのなら、その木がどのようなものか、最低限理解をした上で伐採するべきだと思います。

○髙田知紀部会長

ということです。のはらくらぶの矢方さんからのメッセージでした。

では、続いて……。

○丸谷聡子（明石公園の自然を次世代につなぐ会）

すいません、２枚目があったんですけど……。

○髙田知紀部会長

あっ、２枚目、ここに、この裏にあるんですね。すいません。

○矢方久美（（一社）のはらくらぶ）（続）

＜部会長代読＞

私たちの団体だけでなく、明石公園は、多くの子供たちが、自然遊び、環境学習、環境教育のフィールドとして利用しています。私たちも、ゼロ歳からの自然遊びのフィールドとして、兵庫県の子育て関係の助成金をいただいて、ベビーカーを押しながら、よちよち歩きの子供たちとの行事などもしてきました。

ほんとに、赤ちゃんからお年寄りまで、誰もが身近に、季節の移ろいや自然の営みを感じられるのが明石公園なんです。

このかけがえのない豊かな自然がある明石公園の価値を、管理されている兵庫県の皆さんに知っていただき、これからも、明石公園が誰でも自然体験ができる場所として、未来につないでいただきますよう、心からお願いいたします。

○髙田知紀部会長

ということでした。のはらくらぶの矢方さんです。

では、続きまして、明石公園の緑を考える会の長原さんでよろしいですね、長原さん、では、発表をお願いいたします。

○長原由紀子、清一葉（明石公園の緑を考える会）

明石公園の緑を考える会の長原と申します。よろしくお願いします。

私たちは、子育て世代のママたちや、大学生や専門家の方々が集まって、地球環境を守るために活動している団体です。

明石公園は、駅から近く、子供たちが自然に触れることができる、とてもすてきな場所だと思います。私たちも、子供を連れて、ほぼ毎週、遊びに行っています。

明石公園の樹木伐採自体は、数年前から実施されていましたが、当初は、石垣の周辺を数本切る程度で、築城400年に向けて景観向上のために致し方ないかと捉えていました。

ですが、2021年度初旬くらいに重機が入り始め、二の丸、東の丸周辺などの樹木が大量に伐採され、衝撃を受けました。ここまで大量に切る必要があるのだろうかと憤りを感じました。

現地には立て札が設置されていましたが、広報誌などによる事前の告知などはありませんでした。明石公園は、明石市ではなく、兵庫県が管理しているそうですが、実際に明石公園を利用している私たち明石市民の意見を聞いてほしかったと思いました。

私たちは特に専門知識はありませんが、明石公園で今起こっていることを多くの人に知ってもらいたいと思い、2022年２月５日にオンラインフォーラムを開催しました。

また、約２万人のオンライン署名を集め、２月22日に、要望書と共に、知事に提出しました。

立て札には、木の根が石垣を壊すおそれがあると書かれていましたが、専門家の方によるご意見は全く逆で、木の根が石垣をがっちりと抱え込んで守ってくれているとのことでした。実際、400年もの間、石垣の上には木が生えていて、石垣が崩れることはありませんでした。木が切られてしまった今、木の根が枯れて痩せ細っていくと、石垣がどうなるのか心配です。

景観をよくするためという理由も、黒く塗られた切り株だらけになってしまって、景観がよくなったとは感じられません。

子供たちとドングリを拾ったり、鳥や昆虫を見たり、時には木陰で休んでいた場所だったのに、木がなくなってしまいました。せめて剪定であればよかったと思います。

鳥や昆虫たちがすみかを奪われ、生態系が崩れてしまうことも心配です。

明石公園は、多くの方々に愛されている公園です。自然環境保全にとどまらず、パークマネジメントのあり方を含め、県は独断で進めるのではなく、地元への丁寧な説明や情報提供をする場が必要だと思います。

以上です。ありがとうございました。

○髙田知紀部会長

長原さん、どうもありがとうございました。（拍手）

最後の中野さんはもう。ああ、間に合ってよかったです。

では、お願いいたします。

〇中野愛子

こんにちは。西のほうなんですけど、Casaそらで活動している中野愛子です。

ちょっと、今日はですね、明石公園の緑のあり方っていうことなんですけど、私、明石で生まれ育っていて、何か、小学校とか、今この時期、菊花展とかでお決まりで、すごく親しみのある公園なんですけれども、子供のときは、それほど、何か、すごい緑っていう印象はなかったんですけど、30年ぐらい離れて、戻ってきたときに、ロハスミーティングとか、ちょっと流行りのを明石でもやり始めていて、それで遊びに行ったときに、すごい何か、日本じゃないみたいなっていうか、いい感じに木があって、そこで、みんな歌い踊りみたいな、おいしいものをちょっと食べて、とかっていう空間になっているのを見て、ああ、何か、これってすごい健全な公園のあり方、都市の人々に即したあり方だなあって思って、ちょっと誇らしく思ったんですね。

というのは、何か、やっぱり、世界のいろんなところ、大きなまち、印象的には、何か、ニューヨークとか、すごい大都会な、ベルリンとかに行ったときに、必ず、やっぱりこう、キノコが取れるような深い森のような公園がまちなかにあるんですね。

で、最近、何か、ここのところ、パリも、仕事で、ちょっと、ちょこちょこ行くんですけど、ほんとに何か、まちなかに迷っちゃうぐらいの森があって、そこで、皆さん、何か、都会、ちょっとバカンスに行くまでもないけど、週末をそういうところで集まって、ちょっとした何かセレモニーをしたりとか、キャンプっていうか、デイキャンプしたりとかっていう感じで使われているというのが、大きなまちで、そういうふうなのが普通っていうのが、割に何か、なんていうかな、最近、印象的で、明石も、そういう意味では、明石公園があったりとか、明石公園しか逆に言うとない。

で、ちょこちょこ公園があっても、ほんとに何か、人工的で、子供たちが遊ぼうと思ったら、うるさいとか言われてしまって、自転車に乗るなとかって、公園って、じゃ、誰のためにあるんか。子供とか、大人もそうですよね、何か、行って、伸び伸び寝転んで、何をするでなくっていうようなことができるのが公園のいいところだと思うんですね。

で、明石は、ともすれば、海があるからいいじゃないかって考えがちなんですけど、海と、やっぱり、緑っていうのは隣接していて、明石のお堀の周りとかを、外で、車で走っていると、何か動くものがあるなと思ったら、鵜が木のところにとまって遊んでいるんですね。

何か、あっ、海のそばにいるんだなという感じがして、そういう何かこう、明石ならではの空気感というのが、やっぱり、明石公園の何かよさで、そういうのに、何かこう、ちょっとコロナとか、大変な時期があった代わりに、人々の生活って、ゆっくりになったかなとも思うんです。

ちょっとゆっくりになって、そういう、周りを見回したときに、遠くに行くんじゃなく

て、明石の中にいながら、そこを喜び、遊ぶっていうことができるっていうのが、やっぱり、まちなかの緑の公園、自然のよさだと思うんですね。

海もしかり、緑も大切だと思うんで、ぜひ、兵庫県が管轄ということなんですけど、やっぱり何か、兵庫県の中の結構重要なまちになってきていると思うんですね。で、市民の声をぜひ生かして整備するっていうのも、心を込めてやっていただけたらなと思います。

私たちは愛しています、明石公園。よろしくお願いします。

○髙田知紀部会長

中野さん、どうもありがとうございました。(拍手)

以上で、予定していた、申込みいただいた全ての方の発表が終わりましたが、今のグループの皆さんに対して、質問とかご意見がございましたら。いかがでしょうか。

はい。

○和田太郎

すいません、法貴さんに聞きたいんですけども、切り株ですね、切り株のところに、何かまた植えるとかというようなことなんですけども、切り株でもですね、私、ほかのお城とか何とかを見ていたら、意外と、アカマツとか桜とかクスノキとか、そういう、どっちかいえば気乾比重が非常に何か、0.5ぐらいの薄いやつですね。

ところが、ここは、アベマキとか、それからカシ、それからモチノキとかね、そういうようなもんが入ってるんじゃないかなと思うんです。

だから、それをおんなじようにやるという感じはちょっといかがかなと思うんです。アベマキはもうちょっと高いんです。

それから、ウバメガシの気乾比重はほとんど1ですよね。だから、土と一緒です。全くもって、だから、そこに空洞ができるという感じのことがちょっと私には納得いかないんです。アカマツとか、ほんとに、桜なんていうのはスカスカになるんですよね、はっきり言ってね、腐ってきますとね。その辺、ちょっとご意見をいただけたらと思います。

○髙田知紀部会長

木の種類とか質によって、何か、腐り方とか空洞のでき方が違うんじゃないかっていう、そういうご質問だったと思うんです。その辺りはいかがでしょうか。

○法貴弥貴

そうですね、あの、木の硬さによって、多分、腐ってくる速度は違うと思うんですけれども、やはり、年数を経て腐ってくるという、その時間の経過が違うだけで、最終的には、やはり、養分となって腐っていったときに、じゃあその空洞がどうなるのかっていうことだと

思っておりました。なので、速度は違うかなと思っております。

○髙田知紀部会長

ほか、いかがでしょうか。

じゃ、嶽山委員、お願いします。

○嶽山洋志副部会長

すいません、法貴さんに２つ質問があるんですけども、石垣を樹木が守っている事例っていうのが全国の中でどこかであれば教えていただきたいなというのが１つと。

今、結構、アカメガシワとかアキニレとかが入って、石垣の隙間に入っているもの、あれは取るべきか取らないべきかという、切るべきか切らないべきか、その辺りの見解を教えていただければうれしいなと思います。

○法貴弥貴

例えば、この、これ、石垣と、これ、この神社のところの、神社の石垣と樹木、杉なんですけど、例えば、石垣をぐっと飲み込んでいって、石垣を壊さずに一体化していくと、これが樹木と石の関係性。

これ、石垣とか、大きなところでいうと、こんな感じになってくるんですけど、一般でいうと、ご自宅で、例えば植木鉢とかでちょっと想像していただけたら、小さな植木鉢に大きくなる樹木を植えてしまって、それを花壇の上にぽんと置いていましたと。そうなると、樹木の根は、小さな植木鉢を壊さずに、下に根がきれいに伸びていって、そのまま一体化していくんですね。

ただ、植木鉢を例えばコンクリートの上に置いてしまうと、植木鉢を壊して、根が外に出て来るというような、根が何かを巻き込んでいくというのは、普通に一般的に結構あって、石垣とこれは一体化しているんだよという。これも、岡崎城だと、これも、すごく大きな大木が、そんなに大きくもない石の石垣のところの上に乗って、これも倒していない。石垣と反対側に樹木が伸びていても、石垣が膨らんだりとか、ずれたりとかも今のところはない状態です。

それでいうと、明石公園の中でも、切り株と石垣を見ると、周りの石垣はそんなに動いていなくて、一体化していくような形だったのかなと思います。

で、樹木と、今ついている、隙間にあるやつですよね、を伐採するかどうかに関してなんですけど、言うと、伐採しなくても石垣はもつんですよ。一体化していって、きっとその樹木も健康に育つし、石垣も崩れない。

ただ、じゃ、それを、美観的にどうかとか、管理方法としてどうしたいかっていうことになってくるのかなと。

例えば、今、その樹木が希少種ですよってなってくると、じゃ、それ、やっぱり残そうか

なのか、なので、どっちがいいとかっていうのは、別に答えがあるわけではないのかなと思っているんです。

○嶽山洋志副部会長

そうですね、その辺も含めて、みんなで議論していきながら決めていけたらいいなということですよね。分かりました。

○髙田知紀部会長

ほか、いかがでしょうか。

じゃ、順番に、松本さん。

○松本誠

すいません、法貴さんのお話の中で、最後のほうに、土中環境の視点を取り入れるというふうなことがあるんですけれども、大体、土の中がどうなっているかっていうのは、普通の人にはなかなか分からない。専門家でも、土の中の水の道がどうなっているのかというのも未知の世界という部分がいっぱいあるわけですよね。

で、ここで言われている土中環境の視点というのを、もう少し、ちょっと詳しくお話をしてもらったら、いかがですかね。

○法貴弥貴

すいません、抜けていました、発表のときに。

土中環境の視点って、例えばですね、土の中は私たちに見えませんけれども、土の中に根を張っている樹木の上を見れば、ある程度、環境はちょっと分かるんですが、明石公園は、すごく高木種、背が高くなって大きくなっている木が多いんですけれども、またちょっと注意して見ていただきたいんですが、大きな木ですね、の枝先が枯れてきている、枝枯れが起きている、先っぽまで水が上がっていないという樹種がとても多いです。

なので、本来、明石公園は、狭い場所ではないので、広く扇形になる樹木であれば、きれいに扇形になって、葉先までちゃんと緑が茂るはずなんですけれども、別に剪定をしたわけではないのに、樹形が、片一方が枝が全部落ちてしまっている、上のほうが枯れかかっているっていうのが結構たくさん見受けられます。これは、そこまで水が上がらないという土の中の環境を表しています。

なので、樹木の根っこもそこまで伸びれなくなってきている。だから、深くじゃなくて、浅くなってきて、それに比例して、樹木の背が、だんだん枯れて小さくなっていく、樹木自体のサイズが小さくなっていくというようなことを私たちが見るとしたら、表面ではこういうふうに見えます。これは、土の中でどういうことが起きているかというと、土がとても

硬く締め固まってしまっている状態です。

なので、雨がたくさん降っているから水が吸えるじゃないか、土なんだから水がしみ込むじゃないかと思われるんですけれども、今、土の中が、まず、硬く締まってしまっていることと、水を抜く先ですね、本来であれば、明石城は、お堀があって、川が近くて、海が近いので、本来、土の中は水がすごくきれいに通る状態なんですが、今、お堀が、一旦、昔の工事でコンクリートで埋められてしまっています。側面はまだ石垣が残っている部分もあるんですけれども、水が出る先が減ってきているんですね。

川も、護岸工事で、側面、下と、コンクリートになってくる場所が増えてきています。そうなってくると、水がですね、地面の中を通って、出る先が減ってくるので、雨が降っても、言うと、コップにいっぱい水が入っているところに水を落としても、あふれるだけで、水が流れないんですよね。

そんな状態が、今、明石公園の土の部分では起きているので、土の深くまで水が入らない。もちろん、水が入らないということは、空気も入らない。なので、樹木の根が、深くまで根を伸ばせるような環境ではないというようなことが起きています。

土の中の環境はそんな感じですね。で、それを、言うと、それを考慮した管理方法ですね、樹木が枯れているから、そこは切りましょう、伐採しましょう、じゃあ植え替えましょうではなくて、あっ、こういう木の状態になっているから、土がちょっと、とても悪くなっているんだな、じゃ、そこの土の周りの改良をしてあげよう、全部土を入れ替えろというわけじゃなくて、ちゃんと水と空気が入るような処置をしてあげる。

それから、周りですね、特に、明石公園には溝がたくさんありますので、本来、溝から空気とか水が出るはずなんですけれども、そこがコンクリートで埋められてしまっているので、一部、空気とかが抜けるような処置をしてあげると、もっと環境がよくなって、樹木が伸び伸びと成長する、こうなると、土の中の環境もよくなって、樹木の根がしっかり張って、いい状態になっていくと。

そういう環境がつくれると、昆虫もですね、子供も私たち人間も、とても心地がいいなと勝手に思うというか、ほんとにすごく心地がいい場所になって、人が寄って集まります。

そんな感じでもよろしいでしょうか。すいません。

○髙田知紀部会長

ありがとうございました。

じゃ、奥津さん、さっき手を挙げてくれましたね。

○奥津晶彦

すいません、ちょっと中野さんがお話をされていたんですけども、明石公園というのは、私、実はキノコを少しは知っているんですけども、やっぱり、キノコに詳しい人間にとったら、明石公園というのはキノコの宝庫やったらしいんですね。

で、ちょっと、ちらっと見ていただきたいんですけど、ヤナギマツタケって、マッタケのような味がするようなキノコがあったりとか、キクラゲもありますし、それこそナメコダケも、私が知っている限りではあります。で、テングダケとか、そういうのもね、すごいかわいいキノコとかも生えていました。

ところが、やっぱり、これ、あるのが、実は、さっきののはらくらぶさんのメッセージにもあったんですけども、やっぱり、公園の北側と南側で、やっぱり、生態系が全然違うようで、大抵見るキノコが多いのは南側なんですね。史跡側で、施設がある側ばっかりなんですね。でも、北側はっていうと、あんだけ森があるのに、キノコ類というのはすごい少ないです。

で、やっぱり、そういったところで、すいません、もう繰り返しになってしまうんですけども、北側の、木がいっぱいあるから、いいじゃないかという考えではなく、すごい失礼ですけど単純な考えではなく、やっぱり、そこそこ、そこの環境、環境に合った、いろんな生き物があるんで、そこのところを考えていけたらなというふうに思います。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。

じゃ、渋谷さん、お願いします。

○渋谷進

西区から来ました渋谷です。

最後の締めで女性３人のご報告を聞いて、まず思ったのは、このグループが一番うまかったなというふうには思いました。で、もうもったいないので、それぞれの自治体で議員になってほしいなと。

それは前置きなんですけど、中野さんにお伺いしたいんです。

私、これ、ちょっと文面を読ませていただいて、世界有数の都市には市内に幾つもの自然のままの森のような公園があると書かれてあります。

実は、午前中に、こういうのが世界の潮流で、都市の風格なんだ、品格なんだ、風格なんだという意見が出ているんです。で、実際に、こういうところを見られて、そのように思われますでしょうか。

○中野愛子

やっぱり、ヨーロッパが多いんですけど、すごい文化の世界なんですね。で、自分たちの生きてきたことっていうか、歴史とかのこととかでも、皆さん、すごい自信を持って、自分の生まれ育った場所、国っていうのを語れるんですね。

で、都市づくりにしても、京都とかは、日本の場合、守ろうとしているんですけど、世界の国は、何か、戦争とかで壊されちゃったら、次どうするかっていうときに、皆さんで話し

合ってつくるっていうようなことがあって、アーティストに教会のステンドグラスをつくってもらうとか、そうやって、自分たちがいる場所を自分たちでつくっていくっていう中で、風格っていうのが出てくると思うんですね。

それを何か見たときに、都市の公園とかのあり方って、そこを使う人たちも、ごみとかを捨てないし、何か、草、野生のものとかも、やっぱり公共物なんで勝手に取らないとか、そうやって守られているっていうのが、空気として漂っているのが、やっぱり風格。

で、日本は、私、すごい何か、明石に今戻ってきたら、明石が好きなんですけど、子供、大学生になる頃って、明石が好きじゃなかったんですね。何か、２号線がばーんってあって、コカ・コーラとか、おっきな企業が無機質に建っていて、で、海や自然というか、私が子供の頃って、田畑がすごい残っていたし、その中で遊んでいるっていう、ポイントでは好きなんですけど、全体を見たときに、文化がないなあって思って、大学は京都に行ったんですけど、京都はすごく居心地がよかったんですね。

で、今になって、明石に戻ってきたときに、ほかの、なんていうか、市民の気持ちっていうのがまちに表れていて、ほかの東京とか切り離された場所とかと比べると、明石は随分居心地がいいなあっていうのを、何かこう、離れて、戻ってきて、大人の目になって見たときに、いいところを探せるようになって、居心地がいいなあっていうのはあるんですけど、残念ながら、風格っていう意味では、今のあり方っていうのは開発一本。

やっぱり、何か、人が住んでいるっていう視点、明石は、制度的には住みやすいまちって世の中からは思われるように、泉さんのお働きとかがあってと思うんですけど、そういうふうにはなってきているとは思うんですけど、ほんとに、じゃ、住んで心地がいいかっていったら、海があるからいいよねっていう中で、ほんとに何か、人と根差した文化的な視点でいうと、まだまだ浅い。でも、江戸時代からずうっと続いてきた、やっぱり、お城の、日本特有のよさっていうのはあると思うんで、そこは、今もう最後だと思うんです、守っていく。

何か、お金もうけは大事だとは思うんですけど、何か、人とまちのあり方っていうか、人のあり方っていうのが、やっぱり、そこのまちに反映してきて、そこに住む人たちがつくり上げていくっていうことが、風格とか品格になっていくと思うんですね。何か、そういう居心地のよさっていうのを、私たちは責任を持って次の世代とか未来の人たちに残していけたらいいなと思うんです。

答えになっているか、分からないですけど。

○渋谷進

ありがとうございます。

○髙田知紀部会長

ありがとうございます。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。よろしいですかね。

では、ちょっと時間が早いですけれども、これで、全発表者の方の発表が終わりました。

第５グループの皆さん、どうもありがとうございました。（拍手）

じゃ、そのまま振り返りをしてもいいんですかね。

また、じゃあ、スライドを映していただいたら、今日の議論を簡単にメモをしましたので、振り返って終わりにしたいと思います。

◇総括

では、今日も長丁場でお疲れさまでした。朝から丸一日でしたけれども、今日は、自然環境のあり方について募集をして、利用者の皆さん、市民の皆さんと、これからの明石公園の管理を考える上で、自然環境をどういうふうに考えていったらいいのかっていうことを意見交換しました。

で、初めに、部会長としての感想を申し上げると、すごくいい議論ができているんじゃないかなというふうに思っています。いろんな視点、いろんな考え方で、それぞれの意見の中のやり取りの中で、また新しい声とか視点というのが出てきているように思いますので、こういう、ほんとに対話のプロセスをすごく積み上げていくことの重要性というのを、この僅か2回のヒアリングの機会ですけれども、実感しています。

なので、明石公園、ほんとに、最後のグループの皆さんも、自分たちのまちの公園を自分たちでつくっていくっていうことを、最後に中野さんがおっしゃってくれましたけれども、そういうことをやっていく上で、やっぱり、常に、私たちが対話をしていくことの重要性をみんなで共有できているんじゃないかなと思います。

で、ざっとメモになって、抜けていることもたくさんあるんですけれども、大まかに、私が聞いていて、ポイントになるような言葉をメモ書きしました。

明石公園の使い方とか楽しみ方についての議論が、特に午前中を中心に、かなり出てきたなという印象がありました。

何もなくても、ドングリを拾えるだけでも楽しいんだとか、夜に昆虫の観察会をやっている、そこからいろんな視点が生まれてきた。

で、大人だけじゃなくて、子供の見る視点で、公園の楽しみ方、使い方を考えるということも大事なんじゃないか。大人の価値観だけで公園を考えるんじゃなくて。

で、暑い夏、寒い冬も楽しんで歩ける環境、健康ウォーキングの人気コースになっているというふうに、四季折々の環境で、ただぶらぶらするだけで、明石公園というのは楽しめる。

何も、何か目的を持って来ている人だけじゃなくて、そういう無目的に何となくふらっと立ち寄って、ぶらぶら楽しめるっていうのが明石公園の楽しみ方として、すごく大きな価値なんだということが出てきました。

で、これも最後のグループのどなたかが言っていました。何をするでもなく過ごすことのできる公園、しかも、まちなかに自然があって、その中で、何をすることもなく過ごせるような場所っていうのがすごく価値があって、明石公園はそういう場所になるんじゃないか。

ただ、明石公園が誰にどんな楽しまれ方をしているのかっていうことに関しては、まだ多分、何かみんな、ここにいるみんな、知らないことってたくさんあると思うので、そういうことを把握していくっていうような調査なのかプロジェクトなのか、そういうこともこれから必要になってくるだろうということがありました。

で、樹木の管理についてです。

ナラ枯れに関しては、予測と対応を考える必要があるっていう意見もありました。

で、この後にも出てきますけれど、生き物と樹木っていうのは切っても切り離せないので、やっぱり、樹木の管理目標を設定するしても、昆虫であったり、あるいは鳥であったり、そういう生息状況と関連づけて考えていくっていうことが重要な視点になる。

で、天守台付近のシンボルとなる樹木、これについても、単にこう、桜とか、そういう樹種で決めるんじゃなくて、どういう木がシンボルとして位置づけられるのかっていうことを考えて、保全する樹木というものもちゃんとみんなでマーキングしていくことが大切じゃないかという提案もありました。

で、あとは、単に、今日、何人かの方がおっしゃっていたんですけど、１本も切るなと言うてるわけじゃないけれど、管理がやっぱり必要な樹木に関しては、剪定を行ったりとか、根こそぎ伐採するんじゃなくて、ひこばえを育てて、もう１回、森をつくっていくとか、そういう観点も大事だろうという声もあったのが印象的でした。

で、これも、今日、前回もちょっと出たかもしれないんですけど、切った後の樹木、これも単に捨てるんじゃなくて、せっかくこう、明石公園の中で育った木を、やむを得ず切らないといけないんだったら、その切った後の利活用というものも考えていけばいいんじゃないか。

で、土中環境ですね、樹木の状態を見ながら土中環境を把握していくっていうことも、これは樹木管理を行う上で大事な視点だと。

あと最後ね、キノコの宝庫で、南側はキノコの宝庫で、北側は少ないっていうご意見がありました。

で、この辺りは、今は、便宜上、南側、北側というふうに分けて考えていますけれども、このあり方検討会の中では、明石公園の個別のそれぞれのエリアの特性というのを見て、どこをどういう管理をしていくのかっていうゾーン分けの、細やかなゾーン分けの議論というのもこれからしていくことになると思うので、単純に、北側、南側で分ける話ではないんですけども、こういう情報はすごく重要になってくるかなと思います。

で、樹木と石垣の関係についてですね、これは、私も、ちょっと、自分自身、よく分からないところがあって、最後、法貴さんでしたかね、いろいろメカニズムの面も説明していただきました。

ただ、これまでのいろんな議論を聞いていて私も思っていたのは、全部が全部、１つの理論が当てはまるというわけではなくて、やっぱり、個別の状況に応じて、樹木と石垣の関係っていうのは複雑なんだなということが印象としてあります。

ただ、やっぱり１つ言えるのは、明石公園の風格、今日のキーワードです。風格がここで出てきますね。やっぱり、石垣と樹木っていうところが共存して、初めて、明石公園の風格が保たれるんだということ。

で、懸念としては、樹木を伐採したり、樹木は、枯れることによって、根が腐って、空洞ができて、石垣が動く危険性っていうのはあるかもしれない。

で、樹木の力を生かした方法で石垣を守ることはできないかっていうような投げかけもありました。

ただ、やっぱり、よく分からないことがまだ多いので、石垣と樹木との関係についてはモニタリングが必要で、それぞれの箇所でどういう対応が必要なのかっていうのは、個別に見ていく必要がある。これはこれまでの部会でも再三出てきた議論かと思います。

で、動物の生息環境、今日は、鳥と昆虫が主でしたけれども、駅からすぐの場所で、今日挙げてもらったのでも、カワセミ、アオバズク、ツグミ、ハイタカ、もっといろんな鳥が見られるということだったんですけれど、いろんな鳥と出会える環境、これはすごい貴重。

で、なぜ、そんなに野鳥が多いかというと、やっぱり、餌となる実とか昆虫が多くて、隠れる場所が多いという、ほんとに生態系のピラミッドの話ですね。

で、さらに、森林だけじゃなくて、明石公園には、堀とか水辺があるっていうことも、いろんな生き物が支え合って生息をしている要因になっているということですね。木、森だけじゃなくて、やっぱり水辺も大事なんだと。

で、カモをシンボルにっていう話もありました。

で、トンボも、多様なトンボが生息していて、そういう情報も収集、集約されている。なので、そういう環境をちゃんと保全していくということが大事だと。

で、希少種を守るためには、やっぱり普通種を大事にする。これはもうほんとに当然の議論というか、一番、生態系の保全のベーシックな考え方で、ピラミッド全体を考えていくっていうことで、普通種も大切にしないといけないんだということです。

で、昆虫の生息環境のためには樹木がやっぱり必要で、環境が変わることによって、増える昆虫もいれば、減る昆虫もいるので、やっぱりこう、昆虫の生息状況っていうのを把握して、どこでどういう昆虫がいるから、樹木の管理もどういうふうにしていくのかっていうような、そういう視点で樹木管理をしていくということも大事だという先ほどの議論につながります。

環境管理の考え方としては、時間軸の話があったかなと思います。ほんとにこう、長い時間、数十年から数百年かけて自然環境っていうのはできてきたんで、それぐらいの視点でこれからも育てていくんだというようなお話です。

で、あとは、やっぱりこう、生物多様性の保全っていうのは、もう今の現代社会だと、どんな場面でも抜きにできない、すごい原則的なものなんですけども、やっぱり、それを改めて基本として、多様な動植物の生息環境を実現していくっていうこと。

で、私がちょっと個人的にいいなと思ったというか、感動したのは、私は、結構、名もな

い木とか虫とか、当たり前の風景がすごく好きで、そういったものに愛着を持つ人間なんですけども、県民の庭として、希少な動植物だけではなくて、当たり前の自然、これを丸ごと大切にしていくっていうこと、こういうスタンスが大事なんじゃないかと。

で、管理の目標としては、今の環境を大切にしていくっていう視点もあるんじゃないかということでした。

で、今日の一番初めに、インクルーシブ遊具の話とか、子どもの村の整備の遊具更新の話もありましたけれども、先人が守ってきた史跡が自然の中にあって、人が憩えて、スポーツもできるっていう、そういうところでインクルーシブな公園を実現していくんだということ。

あと、これから、公園をリノベーション、改修していくにしても、やっぱり、自然環境とか生態系とか環境教育というような視点は抜きにできないだろうということで、こういう観点が重要になるという提案、ご指摘もありました。

で、今日、すごくポジティブなというか、建設的な議論が多かったと思うんですけども、その１つに、もう、立場を超えて、やれることをやっていこうよということがすごく共有できたなと思っています。

で、草刈りは、貴重なんだから、もう市民側でやっていこう、立場を超えてやっていったらいいじゃないかっていう、協働で管理作業を行っていけばいいという。

で、具体的には、もう明石高校が公園草刈り隊っていうのを結成してやっているので、そういう動きをどんどん発展させていったらいいんじゃないかと。

で、やっぱり、市民、利用者がやりたいこと、あるいは、できることっていうのをやっていく。県がやってよ、市がやってよ、誰々がやってよというんじゃなくて、やっぱり、自分たちができることっていうものを提案してですね、それをこう、県とか市とか、ほかの関係者がサポートしたりとかですね、連携して進めていく、こういうことが実現できるといいんじゃないかという話でした。

で、もうちょっとこう具体的に、市民が公園の管理運営に参加する仕組みっていうのを強化して、そういう市民の活動を行政が下支えするというような、こういう基本的な構造をつくっていけないか。

あと、計画、公園の計画をつくるんであれば、その意思決定のプロセスに市民が参加することが大事だという、これは、自分たちの公園、自分たちのまちの公園を自分たちで考えるっていう、そういう理念にも通じるかと思います。

で、公園の、明石公園のいろんな情報を集約して発信するようなネイチャーセンターのような機能とか、あるいは、それを発信、展開していくときにはコーディネーターの職能も大事で、そういう人が１人でもいると、かなりできることが広がっていくんじゃないかという提案だったかと思います。

で、最後ですね、午前中にちょっと出て、ああ、すごいなと思ったのは、やっぱり、今日の明石公園の議論をきっかけにして、地球環境問題の議論も今日午前中に出てきましたよ

ね。公園が持つ機能ということで、地球環境問題の解決に貢献する場であったり、適切な水循環をつくる、公園を出てですね、明石とか日本とか世界の環境、地球の環境に貢献するような場という視点もあったかと思うんです。

あとは、やっぱりこう、ヘルスの問題ですね、利用する人の健康と公園の環境の適切な維持というものが一体なんだっていうことで、そこに住んでいる人と環境というのは一体的な存在としてあるので、両方の健康度を上げていく、そういう空間として明石公園を捉える必要があるんじゃないかというような意見が出たというふうに、私のまとめです。

もし、これだけはという追加事項、これ言ったけど、これ見逃しているというのがあったら、今言っていただいたら、すぐ書きます。

いかがでしょうか。

よろしいですか。

じゃあ、これは、今日の記録として、最後にみんなでこれを共有しました。こういう視点を持って、これからの明石公園の自然環境管理のあり方っていうものをどんどん詰めていきたいというふうに考えています。

では、これで事務局にお返ししてよろしいんですね。

（4）その他

○髙田知紀部会長

もう１つ、ああ、そうか、最後、資料の説明があって、その他ですね、で、枯れ木の状況について、ちょっと県のほうから情報の共有があるということなんで、説明をお願いいたします。

○事務局　北村

［省略：参考資料の説明］

○髙田知紀部会長

ありがとうございました。

ちょっとお昼にね、お話ししたんですけど、枯れ木に虫が、昆虫が集まったりするということもあるみたいで、奥津さんも話してましたね。何か…。

○奥津晶彦　※ヒアリング参加者

セミも、卵をやっぱり枯れた枝に産んでしまうんです。

先ほども、ちょっと話、さしてもらったんですけども、枯れた木に、やっぱり、昆虫とか結構集まるものとかもおりますし、逆に、そういうところにしかいない昆虫もいます。

で、枯れた枝にもセミも卵を産んでいくんで、そういったものを考慮して、これ、私が言ってしもうてええんか、あれなんですけども、まあ、もちろん、危険なんで、そうやって伐

採してもらうのは大丈夫なんですけども、それをそのまま下に残すっていうことはできないかなと思っているんですけども。

○事務局　北村

まず、このプロットしているものなんですけども、枯れ木全部をプロットしているわけではなくてですね、園内の枯れ木の中で危険性の及びそうなものをまずはプロットしているということと、それから、枯れ木がですね、そういった虫の餌になったりとか、その虫がまた鳥の餌になったりとかということも理解しております。

あと、我々の人的、予算的な面でですね、全て一斉に取るということはできないので、少しずつということになります。

それから、切った後の木をどうするかなんですけど、これ、場合によりけりになります。カシノナガキクイムシとかですね、そういうナラ枯れとかを引き起こしている虫が入っている木であれば燻蒸しなきゃいけないんです。燻蒸処理が必要になります。

そういったものもありますし、あと、搬出してですね、バックヤードに積んでおいて、乾かして、以前やっていたような、今後また、薪として配るとか、そういうことをする場合もありますし、現地放置ということもありますので、これまでの公園管理ではですね、伐採してですね、細かく筒状に切って現地放置ということをしている場合もありますので、ちょっと場合によりけりというところになってきます。

○髙田知紀部会長

はい、はい。

○奥野俊博（日本野鳥の会ひょうご）　※ヒアリング参加者

野鳥の会ですけれども、明石公園ですんでいる山の鳥の特徴の１つでありますコゲラという小さなキツツキがいます。これは枯れ木でないと巣がつくれない鳥なんで、特に、第2球場ですかね、あの辺の近くと剛ノ池のちょっと北、その辺あたりが生息域、生息しているんですが、そういうところで、危険でない枯れ木は、できれば残せるように配慮していただきたい。

○髙田知紀部会長

はい。

○奥野俊博（日本野鳥の会ひょうご）　※ヒアリング参加者

で、大木は使わないので、ちょっと小さめの太さの木ですね、そういうところもちょっと考えていただきたいなと思います。

〇事務局　北村

お話、先ほども御説明いたしましたが、全部切るというわけではなくてですね、危険の及ぼすものから順次切っていくということになりますので。

ただ、森の奥のほうにあって、園路とかにも影響しないような枯れ木は、枯れ木が影響しなかったり病気が広がるような木でもないものを切るわけではないので、そこは順次という形になります。危険性の及ぶものについては、もうやっていきますが、そうでないものは、切っていかないで、ずっと後回しになるということになりますので、御理解いただければと思います。

〇髙田知紀部会長

はい、じゃあ。

〇松本誠　※ヒアリング参加者

単純な質問なんですけども、このマップ、枯れ木マップを見るとですね、この第2野球場の西側のところに集中的に枯れ木がマッピングされているんですが、これは、やはり、この地域で木が、樹種とかの話もまだ、詳細にチェックしたらいいんですけども、なぜここへ集中しているんかという理由等については調査できているんですか。

〇事務局　北村

そこまではまだやっておりません。まずは、主要なところについての報告ということと、今後、枯れ木というのが出てくると思いますので、そういったことへの対応についての御理解をいただければということで説明をしているものであります。

繰り返しますが、ここにある木を全部一斉に切ろうという話でもありません。

〇松本誠　※ヒアリング参加者

だから、やはり、ちょっと、このマップを見たら、非常にここに集中しているので、枯れ木がなぜここに集中しているかというのは調査した上で、原因調査をした上で、その対応を考えなければ、枯れたから切るんでは、やっぱり、あまりにも安直かなという気はします。

〇髙田知紀部会長

ちょっとまあ、安全管理上、しないといけないという、人に危害が及ぶといけないというところの木をまず優先して切るということですよね。それも順次切っていくということで、今おっしゃったように、こういうところに枯れ木が集中しているとかというところの理由は、まだできていない。まあ、それも必要であれば、そういうことを分析していくというのは、これから。今は取りあえず、緊急的に、利用者に危害が及ばないようにというところで管理するということですね。

○事務局　北村

そのとおりです。

○髙田知紀部会長

それは、さっき言っていただいたように、鳥とか昆虫の生息環境については、全ての木を、枯れ木を切るわけではないということと、もし、利用されていて、どうしても、この木とかこの場所というポイントがあれば、ちょっとこう、リストアップして県のほうに伝えていただくと、まあ、作業上とか予算上、できることとできないことがあると思うんですけれども、そういう情報を入れていただくというのは大事かと思っているんで、もし何かあったら、伝えてもらったらいいですね、県のほうに。

○事務局　北村

はい。

○髙田知紀部会長

公園緑地課のほうに言っていただいたら。

はい、小林委員。

○小林禧樹委員

もちろん、当然、把握していると思いますけど、これの樹種ね、木の、それの細かい資料をもらえますか。

○事務局　北村

分かりました。

○小林禧樹委員

それをまた、まあ、我々のほうとしてもいろいろ調査したいと思いますので。

○事務局　北村

分かりました。ただ、緊急性を要するものについては順次やっていきますので、そこは、我々、安全管理が第一となりますので、御了承いただきたいと思います。

○髙田知紀部会長

じゃあ、丸谷さんからいきましょうか。

〇丸谷聡子（明石公園の自然を次世代につなぐ会）　※ヒアリング参加者

これ、木が枯れているということですけれども、どなたがチェックされて、どういうプロセスでこれを決められたのかっていうのをちょっと詳しく教えていただきたいと思います。

〇事務局　北村

指定管理者である公園、兵庫県園芸・公園協会のほうが巡視して、枯れているということを確認して、報告を受けております。

〇丸谷聡子（明石公園の自然を次世代につなぐ会）　※ヒアリング参加者

専門家の方というふうな判断でよろしいですか。今までも、そういう公園協会の職員の方が樹木伐採の木も決めてこられたので、そこは、しっかり、やっぱり専門性のある人と一緒にチェックするというのが、今後のこの公園管理の樹木のあり方というのを、そこを私たちは今まで議論してきたわけなので、もう少し丁寧にやっていただけたらなと思います。

〇事務局　北村

それはあれでしょうか、枯れていると言いつつ、実は枯れていないんじゃないのかということの懸念があるということでしょうか。

〇丸谷聡子（明石公園の自然を次世代につなぐ会）　※ヒアリング参加者

まあ、そういうことも可能性だし、ここは枯れているけど、この木は必要だという判断も、今、野鳥の会もおっしゃったけど、あると思いますので、その辺、もう少し丁寧にやっていただけたらなというふうに思いました。

〇髙田知紀部会長

これ、スケジュールとしては、今ピックアップされているのが31本、この地図上でありますけど、今年度、全部これを切るというわけではなくて…。

〇事務局　北村

というわけではないです。

〇髙田知紀部会長

このリストアップされているもので、特に、歩道沿いとか危険度の高そうなものを優先的に切っていくと…。

〇事務局　北村

そういうことになります。

〇髙田知紀部会長

という感じですね。

〇事務局　北村

はい。一斉にやる、人的、資金的な猶予もありませんし、それから、そこまでの緊急性があるわけではないんですけれども…。

〇兵庫県園芸・公園協会　伊藤

すいません、よろしいですか。

〇事務局　北村

はい、どうぞ。

〇髙田知紀部会長

はい。

〇兵庫県園芸・公園協会　伊藤

園芸・公園協会の理事長の伊藤です。

私が全部見てます。で、全部チェックを私がもう直に、処分とかそこらへんの関係で見ました。で、全部これについては赤のテープを巻いてます。で、10月末まで切りません。ただですね、一方で、で、その間に公園緑地課でも結構ですし、私のほうに、もし10月末まで難しいんで11月まで待ってくれということであれば、待ちます。

だから、そういうことの中で、今日御出席の皆さんの中で、もう少しこうしたらどうかという御提案は、我々のほうに、もしくは公園緑地課のほうにおっしゃっていただけたらいいと思います。

ただ、一方で、実は、今回の台風で園内に倒れてきている樹木があったというのも事実です。ですから、そういうところはきっちり管理をしていかないと、事故につながることだけは我々絶対できませんので、ですから、そういう面の中で、で、先ほど密集していると言われたとこなんかは、はっきり言って、事故が起こりようがないところですから、一番後に回ってもいいし、で、どういうのかというのは、１つは、樹木がここ密集しているので、行っていただくとまた分かるような部分でもあります。

今日、これ以上ここでは議論はしませんが、もし心配される点があれば、これ以降に、我々のほう、もう私直接でも結構です、おっしゃっていただけたらということだと思いますので、

引き続きよろしくお願いいたします。
　赤色のテープを巻いてますから、すぐ分かります。よろしくお願いいたします。私が全部見て、私が巻いてます。
　私だけちゃいますよ。私だけじゃないですよ。私を信頼しないんであれば、それまでですけど。
　以上です。

○髙田知紀部会長
　ありがとうございます。
　ちょっと、じゃあ、よろしいですか。
　ああ、はい。

○奥津晶彦　※ヒアリング参加者
　すいません。今いろいろお話を聞いて、大体、一応分かったんですけども、丸谷さんと松本さんが言われたように、結構、さっきの第２野球場付近に集中しているというのも、多分、コケがもう、そこに生息域が多いっていうことで、その辺が関与しておるんかなと１つ思います。
　で、まず１つなんですけども、この奥のほうの木は今は切らないというお話があったんですけども、通路から離れたところの木、その辺は行く行くは切っていくんですか、森の中のほうの木も。

○兵庫県園芸・公園協会　伊藤
　逆に、これは残したほうがいいんじゃないかという御指摘はいただいたほうがいいと思うんです。枯れてますので、今日のようなお話を私どももお伺いしなければ、虫とかそういうことは十分考えていなかったのは事実です。ですから、その辺は、もう、これはこうしたほうがいいよという御指摘を、できましたら、ちょっと期限を延ばしていただいても結構なんですが、例えば10月末までに私どものほうにお寄せいただけたら、それはそれで考えていきますし、それは、もう、どんどん御意見を下さい。

○奥津晶彦　※ヒアリング参加者
　ありがとうございます。

○兵庫県園芸・公園協会　伊藤
　はい。

〇髙田知紀部会長

じゃあ、よろしいですかね。

〇丸谷聡子（明石公園の自然を次世代につなぐ会）　※ヒアリング参加者

いや、すいません。ちょっと…。

〇髙田知紀部会長

はい。

〇丸谷聡子（明石公園の自然を次世代につなぐ会）　※ヒアリング参加者

逆に、どの木がもう絶対、安全性に問題があって緊急性があるのかとか、そういうのも逆に情報として出していただくといいのかなあと思うんです。

〇髙田知紀部会長

今回は、あくまで、あれですね、ちょっと、まあ、フォローするわけじゃないけど、この間の台風で、かなりこう急ピッチで調査して、されたということで、情報が整理し切れていないんで、今、理事長がおっしゃったみたいに、大事な木というのはちょっと情報を下さいということと、緊急性の高い木については、何か示す方法というのはあるんですかね、どの木から順番に切っていくかというのは。

〇兵庫県園芸・公園協会　伊藤

明らかに、要は、人が歩くところですよね。だから、それは、園の中にも、もう御存じでしょうけど、いろいろと人の通路がありますから、そこの沿線というのは緊急性が一般的に高いと思っていただいたらいいと思います。

で、結構、今回もう、皆さんはどこまで御存じか分かりませんけど、枝も含めてすごかったです、それは。で、これは明石公園だけではありません。ほかにも、こういう倒木とかということも含めて、そういうことになっているというのは事実ですので、で、ほんとはですね、遠いところから飛んでくる場合もあって、枯れているやつは、ちょっとちゃんとしておかないと、結構怖い部分もあるのも事実です。

ただ、皆さんの今日の御意見も含めて、どんどん切っていったらいいなんて思ってません。ですから、基本的に、緊急性っていうのがあるのは、一般的に、そういうところの近くだとは思ってますが、まあ、ただ、どっちにしても、ちょっと、しばらく置いておきますので、皆さん、遠方の方であれば、もうあれなんですけど、もし時間があるときは、あれ、伊藤さん、11月までは待ってえなとか、いろいろ教えていただいて、作業はそれ以降にしかしませんので、どんどん御意見を下さい。きっちりそういうことを踏まえてやっていきます。

よろしくお願いいたします。

〇奥津晶彦　※ヒアリング参加者

すいません。簡単にですけども、樹木をまだ見てない、枯れ木って見てないので、あれなんですけども、高さ的には、ほんとにもう根の一番下のところから切ってしまうのか、身長ぐらいで切るのか、その辺とかはまた相談させてください。

〇兵庫県園芸・公園協会　伊藤

分かりました、はい。

〇事務局　北村

それって差が出るんですか、何かに。

〇奥津晶彦　※ヒアリング参加者

まあ、実際、上のほうは枯れているけども、下のほうは実はまだ生きているという木も恐らくあるかと思うんですね。

で、その辺、私もまだ見てないんで、上のほうだけ見て、ああ、枯れているなと、ごめんなさい、ちょっと、プロやのに、そんな言うたらすごい失礼なんですけども、で、下のほうはまだ、枯れているけど、しっかりしているんやったら、ちょっと残してほしいなというのもあるんです。

〇事務局　北村

その、剪定、強剪定みたいなイメージをされているんでしょうか、その切るっていう高さは。

〇奥津晶彦　※ヒアリング参加者

ああ、そうです、はい。

〇事務局　北村

どう、その、この辺で切るっていうと、何か、里山の台場クヌギみたいなイメージになっちゃうんですけども…。

〇奥津晶彦　※ヒアリング参加者

まあ、言うたら、ここから上だけを切るのか、もう、下のほうからもう切ってしまうのかというところです。

〇和田太郎　※ヒアリング参加者
　ナラ枯れはどっちかというと下のほうが枯れる。下のほうに虫がつくんです。

〇奥津晶彦　※ヒアリング参加者
　ああ、はい。

〇和田太郎　※ヒアリング参加者
　だから…。

〇奥津晶彦　※ヒアリング参加者
　それは、虫の話はそうなんですけども、かもしれなんですけども、虫の話だけではなくて、いろんな面で…。

〇髙田知紀部会長
　基本は、でも、あれですね、ここに書いているのは、枯れ木とか、枯死していると判断できるものなので、ひこばえとか、もう下から枯れちゃっているものが対象になっているということですね。

〇兵庫県園芸・公園協会　伊藤
　ああ、もちろん。

〇髙田知紀部会長
　そうですよね。

〇兵庫県園芸・公園協会　伊藤
　もちろんです。そうです。

〇奥津晶彦　※ヒアリング参加者
　分かりました。

〇兵庫県園芸・公園協会　伊藤
　逆に、枯れ枝という、後ろに書いてあるやつが上だけですよね。

〇奥津晶彦　※ヒアリング参加者
　ああ。

〇兵庫県園芸・公園協会　伊藤

もう、そういう種別はつけてます。

〇髙田知紀部会長

ありがとうございます。

で、まあ、理事長もそういうふうに言っていただいているので、ちょっとこう、鳥とか生き物、昆虫の観点で懸念する木とか、こういう木というのがあったら、公園緑地課でもいいですし、明石公園の公園協会にでも情報を入れていただいたらと思います。

ちょっとまあ、１つ私からお願いなんですけど、まあ、こういう経緯で明石公園の議論が始まっているので、いろいろこう、こういう資料が出てきても、疑いの目で見てしまうということも理解できないわけではないんですけど、やっぱり、そういうふうにしていると、いろんなことが、うーん、なんていうか、滞ってしまうというか、例えば、今回、木が、例えば枯れ木に子どもがもたれかかって、こけて、けがするということも、これはすごいリスクなんですね、公園管理者としては。

なので、やっぱり、通行人の安全とかっていうところもありつつ、でも、枯れ木に虫とか鳥が来るっていうことも大切にしながらということなので、ちょっとまあ、うーん、まあ、こういう議論が始まっているので、そこはこう、ある意味、お互いにちょっと信用を持ってですね、こういう議論を受け止めるというスタンスもちょっと必要になってくるかなと思います。

で、その中で、やっぱり、気になることがあれば、さっきみたいに率直に言っていただいたら、北村課長も理事長も、対応しますって言ってくれるので、忌憚のない御意見を言っていただいても結構なんですけど、ちょっとずつ、お互いの信頼を持ちながら、信頼を持ちながら議論ができたらいいなというふうに思いますので、皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

じゃ、はい。

〇法貴弥貴　※ヒアリング参加者

私も、ごめんなさい、私、枯れ枝のほうで、実は、今この参考資料の枯れ枝の位置を出してくださっているところは、明石公園を回っているときに、実は、ちょっと気になっていた箇所ばっかりがやっぱり出てきていました。

で、今のお話で、枯れている枝は、やっぱり、台風のときとかは、きっと、今もう既に枯れていますので、倒れてくると思います。なので、伐採とか剪定は必要だなというのはすごく感じているんですが、これ、剪定をしても、また、この同じところが徐々に枯れが進んでくると思われます。

なので、今の枯れ枝は撤去するにして、その後、言うと、先ほど話もあったように、全国的に、やっぱり、高木の枝が落ちてくる、大きな太い枝が落ちてくる、それから、大木が倒

れやすくなっているっていうのは、やっぱり、土の中の環境がとても悪化している、今の造園管理だと、やっぱりそういうふうになってくるんですけれども、なので、明石公園で、危ない箇所の枝を切った後、その木が災害に強い木になっていくような、土の中の土中環境を改善するっていう管理方法を取り入れられれば、枝枯れが今後減ってきて、台風でも倒れにくい大木を育てることができたら、すごく立派な公園になっていくんじゃないのかなっていう気がします。

なので、管理で、そんなこともしもし取り入れられたら、まあ、予算的なこともあるんでしょうけれども、何か、市民と一体で、それこそ一緒に、何か、そういうワークショップなりで改善していけたら、すごくいいのかなというのは思いました。

○髙田知紀部会長

ありがとうございました。提案でね、そういうことをぜひ、今日もあったように、市民主体でやれることをやっていこうとか、提案していただくのが大事だと思うので、樹木管理のことは、これから議論していくことになると思いますので。

よろしいですかね。

じゃあ、すいません、その他も終わって、大分、時間がオーバーしてしまいましたけれども、これで事務局にお返ししてよろしいですかね。

3　閉会

○事務局　小山

ありがとうございました。

髙田部会長、委員の皆様方、それから意見発表の皆様方、今日は、大変長い間の、長時間の熱心な御議論、ありがとうございました。

我々が分からないことも含めてですね、いろいろ教えていただいたと思います。それを参考に、次の議論に進めていきたいというふうに思っております。

本日は、まず、遊具の更新、整備につきましては、本日の議論を踏まえまして、髙田先生にもですね、いろいろ御相談させていただきながら、また、明石市の御協力をいただきながら、詳細な改修計画であるとかですね、子どもの村の下の段については、詳細な設計に入っていきたいというふうに思っております。

それから、はい。

これをもちまして、第６回県立公園のあり方検討会を閉会させていただきます。

本日の配付資料につきましては、希望に応じまして郵送いたしますので、机上の封筒に入れて、お名前を記載の上、置いておいていただければと思います。

なお、本日使用しました資料につきましては、10月７日、明日ですね、公開のほうをさせていただきます。

また、いただきました御議論、御意見ですね、こちらの要旨につきましては、週間を目途

に公開のほうをさせていただきます。これにつきましては、いただいております意見要旨を中心に、こちらのほうでつくらせていただきたいと思います。

次回の開催は、11月あるいは12月を目途として、日程調整をさせていただきたいと思っておりますので、決まり次第、お知らせをさせていただきたいと思います。

で、最初に、記者会見のお話をさせていただいていたんですけれども、今日、もう記者の方がおられませんので、これで、はい、これで終了したいと思います。

ありがとうございました。

以上